| | | |

明治四十二年中仁川、木浦二驛に於て取扱たる旅客は乘車十二萬二百四人、降車十四萬九千四百七十八人、計二十六萬九千六百七十八人、貨物は發送八萬七百六十噸、廻著一萬九千七百八十二噸、計九萬九千五百四十二噸なりき、而して同年中迴著せし各種穀物の數量は八千七百〇一噸にして其內譯京義線各驛より三千〇二十七噸、京釜線各驛より五千六百七十四噸なり、穀物中最も多額なりしは大豆にして京釜線より二千一百八十一噸、京義線より二千一百八十一噸、計五千八百八十一噸を算したり。

海路

海路各地間の連絡には大阪商船會社の大阪、仁川線（大阪を起點とし神戸、宇品、門司、仁川、鎭南浦を終點とする）大阪、安東線（大阪を起點とし神戸、門司、釜山、木浦、群山に寄航して安東を終點とする）日本郵船會社の神戸、牛莊線（神戸を起點とし門司、長崎、仁川、大連、太沽に寄航して牛莊を終點とするもの）橫濱、大連線（橫濱を起點とし熱田、四日市、神戸、門司、仁川、大連を經て牛莊を終點とするもの）尼ケ崎汽船會社の大阪、仁川線（大阪を起點とし神戸、門司、釜山、木浦、群山に寄港し仁川を終點とするもの）橫濱、牛莊線（橫濱より四日市、神戸、門司、仁川、大連を經て牛莊を終點とするもの）橫濱、大連線（橫濱を起點とし熱田、四日市、神戸、門司、釜山、木浦、群山を經て大連を終點とするもの）博多汽船會社の唐津、仁川線（伊萬里、巖原、釜山、木浦、群山に寄航して仁川を終點とす）阿波共同汽船會社の仁川、芝罘線の外に木村合資會社、慶田利吉、川村種吉、立石幹、柴田孫兵衞、大韓共同汽船會社、金敬文等の各經營に係る沿岸線あり、內地間の連絡は關釜連絡成りて以來旅客貨物共に頓に減少せしと雖も芝罘又は大連間の航路の如き沿岸航路の如きは前途に向つて望なきにあらず、各地間の乘客及貨物賃錢等大凡左の如し。

大阪商船株式會社

仁川	群山	木浦	馬山	釜山	嚴原	門司	宇品	長崎	鄕之浦	大阪	神戸
鎭南浦	二、五〇	五、〇〇	三、〇〇	八、〇〇	五、五〇	九、五〇	六、〇〇	七、〇〇	一一、〇〇	八、〇〇	一六、〇〇
大連	一〇、〇〇	七、五〇	六、〇〇	一三、〇〇	八、五〇	一五、五〇	一二、〇〇	一四、〇〇	一八、〇〇	一四、〇〇	二二、〇〇
安東縣	一〇、〇〇	七、五〇	六、〇〇	一三、〇〇	八、五〇	一五、五〇	一二、〇〇	一四、〇〇	一八、〇〇	一四、〇〇	二二、〇〇
新義州	一〇、〇〇	七、五〇	六、〇〇	一三、〇〇	八、五〇	一五、五〇	一二、〇〇	一四、〇〇	一八、〇〇	一四、〇〇	二二、〇〇
龍岩浦	一〇、〇〇	七、五〇	六、〇〇	一三、〇〇	八、五〇	一五、五〇	一二、〇〇	一四、〇〇	一八、〇〇	一四、〇〇	二二、〇〇

大阪商船會社にては十二歲未滿半額四歲未滿一人を限り無賃他は四分の一とす手荷物は一等船客百五十斤又は十五歲迄二等船客百二十斤又は十二歲迄三等船客は六十斤又は六才迄とし十斤又は一才を增す毎に十五錢を申受く、日本郵船會社にありては小兒十二歲未滿半額四歲未滿一人に限り無賃他は四分の一（但し往復切符には適用ぜず）一、二等往復切符を發行し其有效期限を三箇月とす（但し神戸、下關、門司、長崎、釜山、仁川、大連間に限り三等船客の望みにより復航運賃二割減有效期限二箇月の往復切符を發行す）

日本郵船會社

橫濱	四日市	神戸	下ノ關	長崎	釜山	仁川	大連	大沽（天津）	營口（牛莊）
二五、〇〇	二二、五〇	一九、〇〇	一四、〇〇	一四、〇〇	八、〇〇	四、〇〇			
二二、五〇	二〇、〇〇	一七、〇〇	一二、五〇	一二、五〇	六、五〇		三、〇〇	四二、〇〇	四二、〇〇
二七、〇〇	二四、〇〇	二一、五〇	一七、〇〇	一七、〇〇	一〇、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	三〇、五〇	三〇、五〇
二三、五〇	二一、〇〇	一九、〇〇	一四、〇〇	一四、〇〇	七、五〇	三、〇〇	二、〇〇	三九、〇〇	三九、〇〇
二四、〇〇	二二、〇〇	一九、五〇	一四、〇〇	一四、〇〇	七、五〇	三、〇〇	二、〇〇	三九、〇〇	三九、〇〇
二七、〇〇	二四、〇〇	二一、五〇	一七、〇〇	一七、〇〇	一〇、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	三九、〇〇	三九、〇

仁川內地各港間荷物運賃表

日本郵船株式會社仁川支店
大阪商船株式會社仁川支店

（明治四十年十二月現行）

品名	單位	門司	神戸	大阪	長崎	鄉之浦	嚴原	横濱	東京
一等品	一才	一八	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二五	二七
二等品	一才	一六	一八	一八	一八	一八	一八	二三	二九
三等品	一才	一四	一六	一六	一六	一六	一六	二一	二三
小荷物最低運賃	一個	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	一〇〇	一〇〇
原價取	百圓	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	一〇〇	一〇〇
穀物	百石	四五、〇〇	四五、〇〇	四五、〇〇	四五、〇〇	四五、〇〇	四五、〇〇	六七、〇〇	七一、〇〇
糠	百斤入一個	一八	一八	一八	一八	一八	一八	二八	三三
金物類	百斤ニ付	四二	四八	四八	四八	四八	四八	五〇	五五
荒銅	同	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	五〇	五五
牛皮	同	六五	六五	六五	六五	六五	六五	九〇	一、〇〇
牛骨爪	同	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	五〇	五五
牛蠟	百斤ニ付	四五	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	六〇	六五
蜜蠟	同	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	七〇	八五
布海苔	同	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	七〇	八五
硝子口類層	一才	一〇	一二	一二	一二	一二	一二	一八	二〇
五倍子	百斤ニ付	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	一〇〇	一二〇
野呂皮	一才	一五	一五	一五	一五	一五	一五	二〇	二四
寶貨三百圓未滿	一口	一三五	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	二〇〇	二四〇
同 三百圓以上五百圓未滿	一口	二一五	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	二五〇	三〇〇	三六〇
同 五百圓以上五千圓未滿	百圓ニ付	四五	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	六〇	七二
同 五千圓以上二萬五千圓未滿	同	二六	四〇	二八	三三	二八	四〇	四八	五六
同 二萬五千圓以上五萬圓未滿	同	二二	二五	二八	三三	二八	四〇	四八	五六
同 五萬圓以上十萬圓未滿	同	二七	三〇	三四	三四	二四	四〇	四八	五六
同 十萬圓以上	同	二三	二五	二五	二五	二〇	二〇	二四	二八

品名	單位	龍巖浦 新義州 安東縣	鎮南浦	群山	木浦	馬山 釜山	大連	元山	城津 浦鹽	牛莊	天津	香港	上海
韓貨	一貫目一個	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	—	—
金塊	二貫目一個	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	—	—
	百圓	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	—	—	—

自仁川至清韓各港及浦鹽荷物運賃表

品名	單位	龍巖浦 新義州 安東縣	鎮南浦	群山	木浦	馬山 釜山	大連	元山	城津 浦鹽	牛莊	天津	香港	上海
一等品	一才	一七	一二	一二	一二	一六	一三	一三	一八	二〇	二五	三五	二八
二等品	一才	一五	一〇	一〇	一〇	一四	一〇	—	一六	一八	一三	一三	一六
三等品	一才	一三	〇八	〇八	〇八	一二	〇八	—	一四	一六	一二	一二	一四
小荷物最低運賃	一個	六〇	四〇	四〇	四〇	四五	三六	七〇	一〇〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
原價取	百圓	七〇	五〇	五〇	五〇	六〇	五〇	一二〇	一三〇	一〇〇	一三〇	一五〇	一三〇
穀物	百石	五〇、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	三三、〇〇	四〇、〇〇	六五、〇〇	八〇、〇〇 一〇〇、〇〇	六〇、〇〇	七〇、〇〇	—	—
糠	百斤	—	—	—	—	—	一五	—	—	—	三一	—	—
醬油小樽	一挺	一五	一二	一二	一二	一二	一二	一二	—	一二	二四	三五	二五
同大樽	一挺	五二	四〇	四〇	四〇	四四	四〇	八〇	—	六〇	八〇	一三〇	一〇〇

品名	單位	龍巖浦 新義州 安東縣	鎮南浦	群山	木浦	馬山 釜山	大連	元山	城津 浦鹽	牛莊	天津	香港	上海
牛皮	百斤	六〇	四五	四五	四五	五〇	五〇	—	一二〇	七〇	一〇〇	—	一〇〇
五倍子	百斤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一二〇	—	—
韓錢二十圓入四十圓入	一個	—	二五	四五	四五	三〇 五五	—	三六 七〇	—	—	—	—	—
金物類	百斤	四〇	二七	二七	二七	三七	三〇	—	六〇	四八	—	八五	—
清酒大樽	一挺	六五	五〇	五〇	五〇	五五	六〇	一〇〇	—	—	—	—	—
牛蠟	百斤	五〇	三五	三五	三五	四〇	四〇	—	—	—	—	—	—
鹽	同	—	—	—	—	一六	—	三〇	三五	—	—	—	—
石油	一個	一七	一二	一二	一二	一五	一八	—	—	—	—	—	—
明太魚	五才建一個	五五	三五	三五	三五	五〇	五〇	—	—	—	—	—	—
砂糖	百斤	三五	二四	二四	二四	三〇	三〇	—	—	—	—	—	—
洋金巾	廿五反入一個	九〇	七〇	七〇	七〇	八四	—	—	—	—	—	—	—
同	五十反入一個	一八〇	一四〇	一四〇	一四〇	一六八	—	—	—	—	—	—	—
紡績和金巾	八才建一個	一二〇	八〇	八〇	八〇	九六	—	—	—	—	—	—	—
寶貨三百圓未滿	一口	九〇	七五	六〇	六〇	九〇	—	—	—	—	—	—	—

貨		
五百圓未滿	一口	一五〇
同五百圓以上五千圓未滿	百圓	三〇
同五千圓以上二萬五千圓未滿	同	二四
同二萬五千圓以上五萬圓未滿	同	二一
同五萬圓以上十萬圓未滿	同	一八
同十萬圓以上	同	一五

仁川芝罘間

乘船賃	一等十二圓	荷物運賃	一	一五〇	一二五	一〇〇
	三等四圓五十錢		一	三〇	二五	二〇
仁川龍塘間						
乘船賃	上等三圓五十錢	荷物運賃	一	二四	二〇	一六
	下等二圓		一	二一	一七	一四
仁川、漢津、富里浦、屯串、舊島、大潮芝間			一	一八	一五	一二
			一	一五	一二	一〇
			一	一二	一〇	一〇
			一	一〇	一〇	一〇
			一	一〇	一〇	一〇
			一	一〇

ル一里五町七間、其心線一百十三里四町十三間にして合計一百八十八里七町なりとす。

教育

本港に於ける教育機關は民團の經營に係るものに仁川尋常高等小學校、高等女學校、商業學校、幼稚園等あり、朝鮮兒童を教育するものに仁川普通學校及私立學校九校あり▲民團の經營に係るものは悉く皆内地人兒童を教育するものにして其小學校は開港の當初本願寺僧侶に依りて創立せられ、明治二十一年居留民會成るや其公費の幾分を割きて教育費に補助せしと雖も未た民會自ら之れを經營するの機運に達せず、降て明治二十五年末に至り漸く專任教師を傭聘し、茲に始めて居留民の事業となすことを得たりしなり、今は本校の外に分教場を二箇所に設け、現在生徒員數一千二百餘名を算す、但し其中には富平、素砂、梧柳洞等の各驛より通學するもの多少あり▲高等女學校は明治四十一年の創立にして同四十二年六月より文部省令に依る正則女學校と爲ることを得たり、現在生徒は八十名許あり▲商業學校は元と私立衞生教育會の附屬夜學校たりしものにして民團の經營に移りしは明治四十二年なりき▲幼稚園は明治三十三年五月の創立にして元と是れ東

宮殿下御慶事奉祝紀念として設置せられしものに係ると云ふ、而して其園兒は現時一百餘名なるを見る。

衞生

本港は健康地にして特に風土病なるもののあらす、傳染病には春季に猩紅熱、夏秋に腸窒扶斯、赤痢等發生することあれとも曾て流行猛烈を極めしことあらす、患者最も多きは胃腸病、花流病等にして之れに亞くは呼吸器病、脚氣、馬刺利亞熱等なり、民團經營に係る仁川病院は明治三十七年に於て其筋より下付せられたる四萬六千餘圓を基礎とし、明治三十八年十二月起工、同三十九年九月竣成したるものにして敷地一千七百四十坪、建物坪數約二百七十坪、工費總額三萬五千圓を要したり、總ての設備完全せるも患者室は僅かに三十八名を收容することを得るのみ、同分院に避病院あり。

飲料水

飲料水は今や水道成りて遺憾なし、本水道は明治三十九年十一月起工、今明治四十三年九月を以て竣成通水したり、元と民團の請願に基き時の韓國政府施設を爲し、工費約二百四十二萬圓を要せしといふ、水源は漢江にして、貯水池は京釜線鷲梁津驛の東方少許に、配水地は仁川の東方二百尺の高地松●●林山（松林里の北方に峙つ）の頂に在

り、鷺梁津の貯水地より松林山の配水地に至る延長は約七里十八町にして送水鐵管は内徑五百ミリメートルのものを用ひたり、配水池は三區に分たれ各區の面積は約四百五十坪、有功水深は十二呎にして優に水量五十六萬立方尺を容るゝに足る、蓋し將來給水區域の擴張を豫想して需用人口を七萬人と看做し、一日一人需用量を四十立方尺卽ち六斗一升七合とし、七萬人一日の用量二十八萬立方尺卽ち四萬三千一百九十石となるか故に其二日分を貯水するに足るへき設計なりとす。

公園

公園地は海岸の南西角に在り、其面積は約五千坪なり、元と日本公園と稱せしものにして民團之れを管理す、公園内には大神宮を奉祀す、蓋し明治三十三年其筋の許可を得て造營せしものに係れり、今や本港は人口增加し此狹隘なる公園を以て滿足するを得さるに至れり、故に目下第二公園地を選定中なりと云ふ。

商業會議所

日本人商業會議所は民團役所と同一構内に在り、明治十九年の創立にして議員定員は二十四名なり、會頭、副會頭各一名、常議員七名を互選し、別に書記長、書記若干名あり、其經費は議員選擧權を有するもの丶負擔するを本則とすれとも而も本港に一時滯在し、又は碇泊中に於て商取引を爲すものに對しても等しく之れを負擔

せしむと云ふ。

現時本港に本社を有する諸會社は株式會社六、合資會社四あり、其他内地又は他の地方に本社を有し、支店若しくは出張所を設立するもの少なからず、之れを表示すれは左の如し。

名稱	所在地	創立年月	組織	資本 總額	資本 拂込額
韓國勸農會	山手町	明治二十八年七月	株式	一〇〇,〇〇〇圓	五〇,〇〇〇圓
仁川米豆取引所	本町	同三十一年六月	同	四五,〇〇〇	四五,〇〇〇
日本醬油株式會社	京町	同三十八年十一月	同	二〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
仁川水產株式會社	海岸町	同四十年十二月	同	三〇〇,〇〇〇	七五,〇〇〇
仁川電氣株式會社	松坂町	同三十八年六月	同	一五〇,〇〇〇	二五,〇〇〇
萬石洞埋築株式會社		同四十年十月	同	三〇〇,〇〇〇	—
秋田商會	本町	同三十四年九月	合資	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇
仁川紳商會社				—	—

日英貿易合資會社	海岸町	明治三十八年二月	合資	一〇〇、〇〇〇	円	
仁川木材合資會社	萬石町	同四十年八月	同	二〇〇、〇〇〇		
木村組	花町	同四十一年十月	同	一八〇、〇〇〇		
宅合資會社仁川支店	（本店堺市）海岸町	同三十九年七月	合名	五〇〇、〇〇〇		
藤本合資會社仁川支店	（本店大阪）海岸町	同三十四年三月	合資	二〇、〇〇〇		
漢城共同倉庫株式會社出張所	（本店釜山）海岸町	同四十年三月	株式	二、〇〇〇、〇〇〇		
三井物産合資會社仁川出張所	（本店東京）海岸町	同三十五年七月	合名	一、〇〇〇、〇〇〇		
長醫商會仁川出張所	（本店佐世保）町	同四十年	合資	一〇、〇〇〇		
土佐紙合資會社仁川出張所	（新本店高知）町	同三十九年	同	三七〇、〇〇〇		
東亞煙草株式會社仁川出張所	（本店東京）	同四十年十月	株式	一、〇〇〇、〇〇〇		
日本郵船株式會社仁川支店	（本店東京）海岸町	同四十九年七月	同	二一、〇〇〇、〇〇〇		
大阪商船株式會社仁川支店	（本店大阪）海岸町	同十七年五月	同	一六、五〇〇、〇〇〇		
內國通運株式會社仁川出張所	（本店東京）花房町	同　五年六月	同	一二五〇、〇〇〇		
第一銀行仁川支店	本町	同二十一年九月	同			

韓國銀行仁川支店	本町	同二十一年九月	同		
第十八銀行仁川支店	同	同	同		
百三十銀行仁川支店	同二十五年七月	同	同		

其他海上保險會社代理店に東京海上保險會社代理店（第一銀行扱）日本海上運送火災保險代理店（慶田組扱）源盛公司（怡泰棧扱）帝國海上保險會社第一代理店（百三十銀行扱）帝國海上保險會社第二代理店、神戸海上運送火災保險會社代理店（協同組扱）等あり。

仁川米豆取引所は前表の如く資本金四萬五千圓の株式會社にして其一株は二十五圓、內地人の外株主となることを得ず、取引物件は米、大豆、金巾、木綿、石油、明太魚、紡績絲等各種類に渉る規定なれとも現時は米穀一種のみ。

市場に仁川穀物市場あり、仁川水產株式會社附屬魚市場あり、朝鮮人の經營に成る仁港水產會社附屬魚市場あり。

各種組合には仁川穀物協會、仁川輸出穀物商組合、仁川商品仲買組合、仁川松函石油專賣組合、繩叺改良組合等あり、此等は商人相互の利益を增進するに力め、本港商

工業の進歩に資すること少なからず、又漁業者の便益を圖るか爲め設置せらるる朝鮮海水産組合支部あり。

本港は地勢上各種工業を經營するに適すれとも未た商業時代にして製造業の勃興を見るに至らす、工場として電氣力又は蒸氣力及石油發動機を使用せるもの左の如し。

名稱	所在地	創立又は開業年月	資本金	職工	原動力	生産品價額
濟物浦精米所	京町	明治四十一年一月	二〇、〇〇〇円	二六	蒸氣	二四、〇〇〇円
力武精米所	同	同三十八年一月	一五、〇〇〇	四四	電氣力又は蒸氣	一五、〇〇〇
中上精米所	宮町	同四十一年四月	二、〇〇〇	一四	石油發動機	二、〇〇〇
松尾精米所	仲町	同三十一年七月	一〇、〇〇〇	二三	蒸氣	九三、五〇〇
山口鐵工場	濱町	同三十三年三月	五、〇〇〇	一四	石油發動機	二〇、〇〇〇
仁川鐵工場	同	同三十七年九月	三〇、〇〇〇	二五	同	四〇、〇〇〇
兒玉水飴製造所	松坂町	同三十九年三月	一、五〇〇	四	蒸氣	二、四〇〇

仁川電氣株式會社	同	同三十八年七月	一二五、〇〇〇	二一	同	
仁川ラムネ製造所	桃山町	同三十九年四月	三、六〇〇	二	石油發動機	六、五六一
日本醬油製造株式會社	京町	同四十年四月	二〇〇、〇〇〇	三〇	蒸氣	一七、二〇〇

諸工場は此の如く甚た見るに足らすと雖も酒造業は割合に盛んにして目下之れを業とするものに宅合名會社、高野周三郎、深見勝三郎、吉岡福太、大森實太郎等あり▲宅合名會社の創立は明治三十九年にして毎一年の造石は一千九百石より二千石を超ゆることあり▲高野周三郎は明治三十四年の創業にして創業の年は僅に二百石に過きさりしも昨明治四十二年には一躍五百八十石を釀造したり▲深見勝三郎は仁川港に於ける酒造業の最先者にして其創業は實に明治二十六年十一月なりき、而して當初は釀造高百石乃至二百石に過きさりしか漸次造石數を增し今は一年五百石許を釀造し、尙ほ八百石許を釀造し得へき設備を爲せりといふ▲吉岡福太の創業は明治三十八年にして最初は二百石を試釀したるか昨明治四十二年には四百五十石を釀造したり▲大森實太郎も亦明治三十八年の創業にして初年は試釀僅かに五十石に過きさりしも昨明治四十二年には四百石を釀造し

たりといふ。

これに依りて觀れは本港に於ける酒造高は通して一年三千六百石を下らさるへし、而して本港は原料蒐集に容易なると同時に製品を搬出するにも便なり、而も空氣清澄にして氣候に變化少なく甚た醸造に恰適すといふ、されは斯業の前途は尚ほ大に囑望すへきものあるへし。

本港に在住せる内地漁夫は四十戸、百四十七人（男七十七人女七十人）に過きされとも他方より來集するもの多數なるは勿論にして毎年春季の漁季に入れは漁船輻湊して其盛んなること一大漁港たるの觀あり、而して曳船に、運搬船に、汽船を使用するに至る、以て其盛況を知るへきなり、本港常住漁夫の出漁區域は北は黄海道の長山串より、南は忠清南道の七山灘に至る間なれとも時には北方長山串を越ねて西朝鮮海灣に、南方竹島、煙島附近に到ることあり、本港近海に於ける内地漁夫の從漁に關する沿革又は魚類販賣機關の經歷及業態等は既に第一輯に於て詳説したるを以て之れを省くへし、毎年出入する漁船の總數は統計を缺く、然れとも内地漁船に在りては朝鮮海水產組合仁川支部が調査せるものあり、左の如し。

朝鮮海水產組合支部は海岸通りの濱町に在り、種々出漁者の便宜を計ると共に又石油發動機船を有して常に沿岸を巡邏す、部員には技手、書記若干名の外に囑託醫あり。

外國貿易は常に輸入大にして輸出小なること内地の横濱港と相似たるものあり、蓋し位置の關係にしてこれを本港の特色とす、開港以來累年の貿易額を表示すれは左の如し。

年次	輸入品總價額	輸出品總價額	合計
明治十七年	四五二、四八二円	五七八、一四九円	一、〇三〇、六三一円
同十八年	九八七、八一六	一五四、八九八	一、一四二、七一四
同十九年	一、三三五、四三二	二一六、七六四	一、五四二、一九五
同二十年	一、四六六、五五〇	三一三、六七三	一、七八〇、二二三
同二十一年	一、六七七、八四〇	三六七、七二六	二、〇四五、五六六
同二十二年	一、八二三、一七三	三九五、五七〇	二、二一八、七四三

外國貿易

於ける貿易の内容を示さん。

此の如く本港の貿易は開港以來次第に發達を遂けたり、然るに近年に至り著しく退歩せるは計數の示す所なり、蓋し大役後一時に發展したる反動と、交通移轉の結果に外ならず、左に明治四十二年中に於ける貿易品及價額を揭記し以て本港に

明治	輸出	輸入	合計
二十二年	一六五九、七九八	一四三、九四八	一八〇、六四六
二十三年	一六八〇、三六八	一九二、八八七	一八七三、二五五
二十四年	一四三、三五四、四九八	二三八、〇一九	一六五、二三五
二十五年	二〇五、二八四、八五四	四九〇、五二八、三	二六五、六七七、三七
二十六年	二七八、九二、五八四	二五五、四二、三一〇	二〇四、六八〇、四
二十七年	三三五、〇五八、四	三六、四九、三六八	二六、五三、九七
二十八年	二六、六七、〇八二	二九、三八、八八	二九、五六、七八
二十九年	二四、〇五、四八四	二三、六八、三七	二七、七三、二五九
三十年	二七、四八、四九五	三四、三八、八七	三九、五七、八八

同治	輸出	輸入	合計
十二年	一六五、九七、七九	一四、三五、九四	一八〇、六四六
十三年	一六八〇、三六七、八	一九二、八八七	一八七三、二五五
十四年	一四三、三五四、四九八	二三八、〇一九	一六五、二三五
十五年	二〇五、二八四、八五四	四九〇、五二八、三	二六五、六七七、三七
十六年	二七八、九二、五八四	二五五、四二、三一〇	二〇四、六八〇、四
十七年	三三五、〇五八、四	三六、四九、三六八	二六、五三、九七
十八年	二六、六七、〇八二	二九、三八、八八	二九、五六、七八
十九年	二四、〇五、四八四	二三、六八、三七	二七、七三、二五九
二十年	二七、四八、四九五	三四、三八、八七	三九、五七、八八

輸出

種目	價額
內國產物	
穀類	
米	二、七七二、八六四
小麥	一、三八八、九九五
大豆	三五四、八八五
小豆	七四八
大豆	二三八、四九九
參	一一、五四六
其他穀類	七三九、二三〇
種子類	一〇九、三三五
胡麻	一九、七九〇
落花生	一四、九七二
其他種子類	二一、五〇四
魚介乾物	四八〇
魚介水產物	一〇
乾鰮	四八〇
其他魚介乾物	二一、五〇四
鹽藏品	一四、〇〇〇
醬油	三〇、〇〇〇
清酒	八六一、九六九
其他飲食物類	二三、七四九
果實及核子類	五、四七八
菜蔬	三、七八三
其他蔬菜類	二三、三七四
海藻類	一九、七九〇
乾海參	一一、五四六
其他海產物	七三九、二三〇
鹽蛤	二三八、四九九
其他水產製品	七四八
布帛及其他纖維	三五四、八八五
藥材	一、三八八、九九五
金銅	二、七七二、八六四

輸入

種目	價額
外國產物	
穀類及其粉	一三、三五〇、五八四
米	六二、五九二
小麥	一〇、六二四
麥粉	一〇、一三四
豆類	四、七八二
落花生	三一、六五四
胡麻	五、三九七
其他穀類	二一、九四〇
種子類	六三、七二四
魚介乾物	一一四、〇五五
魚介鹽藏品	二一、六四
海藻類	一七
乾海參	二一、六四
其他海產物	一一四、〇五五
鹽蛤	六三、七二四
其他水產製品	二一、九四〇
布帛及其他纖維	五、三九七
藥材	三一、六五四
染料	四、七八二
塗料類	一〇、一三四
酒	一〇、六二四
砂糖及糖菓類	六三、五九二
菜蔬果實及核子類	一三、三五〇、五八四
醬油	
味噌及食酢	
小麥粉及穀粉	
其他調味料	
茶	
魚鰮	
其他乾魚介	
其他鹽藏魚介	
牡蠣	
其他鹽藏魚介	
乾海參	
海藻類	
其他海產物	
種子及核果實	
菜蔬	
其他蔬菜類	
醬油	
清酒	
其他飲食物類	
砂糖及糖菓類	
其他調味料	
小麥粉及穀粉	
味噌及食酢

其他金屬及製品	一二四、〇四三
毛皮	九、一九九
牛皮及牛骨	一八三、四五五
其他皮毛角牙類	三〇
煙草	一二
紙	四六、四五一
生牛	八四〇
木材及板	二九八
薪材及木炭	二四、八六七
豆糠	三二
糠	三四、二一五
其他肥料	七七三
其他雜品	一、六、四七二
外國品	**五四五、三一二**

油及蠟	六八九、九二九
絲縷繩索及材料	二七四、九一七
綿布	二、九九一、八四七
麻布	一、三二三、九八三
毛布	一一四、三二二
絹布	八四二、二五八
諸布帛及製品	一六七、〇九五
衣服及附屬品	二四三、七八三
紙及紙製品	三四〇、〇四八
鐵鋼及製品	一、〇七四、六三二
銅及其他金屬製品	一一〇、九四〇
車輛船舶及諸機械	七六九、五九一
煙草	五〇二、四一一
石炭及コークス	五一八、〇二二

計	**三、三一六、四九八**
合計	

其他雜品	一、七八七、五二一
計	**一三、三五〇、五八四**
	一六、六六七、〇八二

此の如くにして其關係國は輸出貿易にては日本、清國、香港、露領亞細亞、比律賓諸島、英、米、佛、獨、白耳義、輸入貿易にては此等諸國の外に英領印度、英領海峽殖民地、蘭領印度、伊太利、和蘭、露西亞、西班牙、土耳其、埃及等なりとす。

更に此等諸國中重要關係國に就き輸出入額の割合を見るに左の如きものあり。

國別	輸出	輸入
日本	五、四三割	三、三三割
支那	四、二五	二、二〇
英吉利	〇、一五	三、〇八
北米合衆國	〇、〇三	〇、七七
獨逸	〇、一一	〇、二五

佛蘭西	〇、〇二	〇、〇四
其他諸國	〇、〇一	〇、三三
計	一〇、〇〇	一〇、〇〇

次に前同年中に於ける沿岸貿易の狀況を見るに左の如きものあり。

沿岸貿易

移出

種目	價額
內國品	九四、七五五円
穀物及種子	一五、四七〇
飲食物	二四、〇八三
藥材及油蠟	三、六九四
絲縷及布帛	一二、三三九
鑛物及金屬	三一八
其他雜品	三八、八五一

移入

種目	價額
內國品	七〇八、二一〇円
穀物及種子	四九五、八六九
飲食物	三四、五二二
藥材及油蠟	九、九九六
絲縷及布帛	八四、五七二
鑛物及金屬	一、三三七
其他雜品	八一、九一四

外國品	二、六二〇、五四九
穀物及種子	一、〇二一
飲食物	七二、二一九
砂糖及糖菓類	九、二四五
酒類	一一、七〇二
藥材及染塗料	五六、〇三三
油及蠟	二一四、三一六
絲縷繩索及材料	七六、一一一
綿布	六〇九、九九四
麻布	一三一、一九四
毛布	三、三六四
絹布	一〇八、七二七
諸布帛及製品	一一、三七三
衣服及附屬品	四九、八二八

外國品	六六、三九九
穀物及種子	—
飲食物	二、〇五一
砂糖及糖菓類	四八二
酒類	一、一八九
藥材及染塗料	三、八七五
油及蠟	一、八七〇
絲縷繩索及材料	五二一
綿布	一五、八四四
麻布	一、一一二
毛布	—
絹布	一、二八九
諸布帛及製品	六八三
衣服及附屬品	四、〇一一

紙及紙製品	二三、〇四九	紙及紙製品	七九三
鐵及鋼	三一五、七〇二	鐵及鋼	二、四七一
其他金屬	一三九	其他金屬	三七五
金屬製品	二五、三六四	金屬製品	二、一六〇
車輛及船舶	一、六九〇	車輛及船舶	四六五
學術器及機械	一七九、二九二	學術器及機械	一、七八五
煙草	八五、一〇七	煙草	一、〇一〇
雜品	六三五、〇七九	雜品	二四、四一三
計	二、七一五、三〇四	計	七七四、六〇九
合計			三、四八九、九一三

表に就きて見れは其貿易總額三百四十八萬九千九百十三圓中移出額二百七十一萬五千三百〇四圓なるに拘はらす移入額は僅かに七十七萬四千六百〇九圓にて對外貿易に於ける輸出入と全然反對に在り、此の現象たる蓋し本港か中繼輸入港たるの事實を遺憾なく證明せるものと謂ふへきなり、其重要關係地は群山、木浦、

鎭南浦、釜山、元山、清津、城津、京城、龍塘浦、龍山、海州、麻浦、平壤、安州、龍岩浦、舊島、龍湖島等にして就中取引多額に上るは移出に於て群山、京城、木浦、龍塘浦、鎭南浦、海州等移入に於ては群山、木浦、麻浦、龍山、鎭南浦、釜山、龍塘浦等なりとす、元と韓國度支部に於て調査せる貿易要覽を見るに移出入價額を開港地と未開地とに區分し計上せるものあり、其一部を摘錄すれは左の如し。

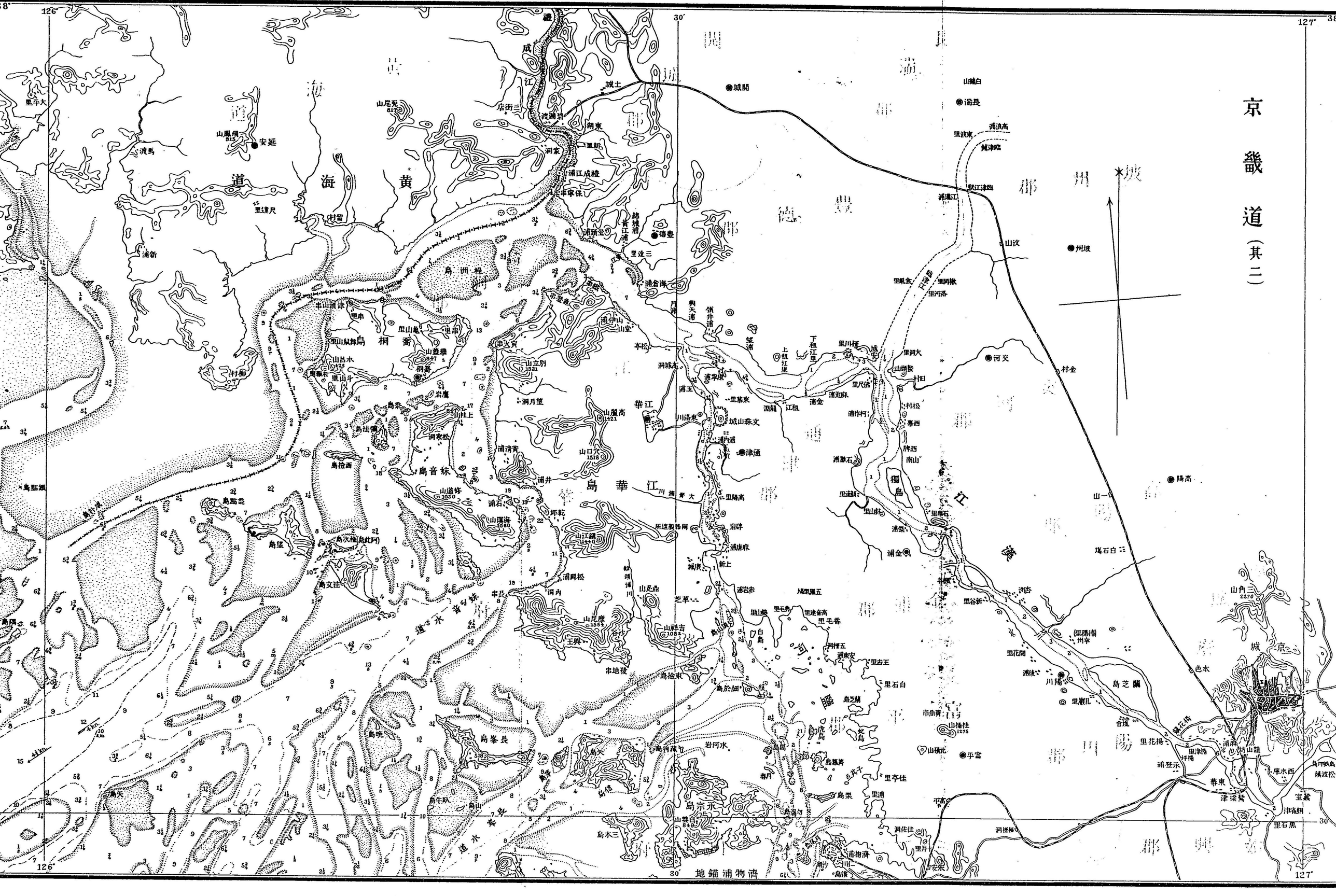
地名	移出 内國產品	移出 外國產品	移出 計	移入 内國產品	移入 外國產品	移入 計
開港地	七二、三七二円	一、三九一、五二四円	一、四六三、八九六円	四三二、五〇八円	五四、三二二円	四八六、八三〇円
未開港地	二二、三八三	一、二二九、〇二五	一、二五一、四〇八	二七五、七〇二	一二、〇七七	二八七、七七九
計	九四、七五五	二、六二〇、五四九	二、七一五、三〇四	七〇八、二一〇	六六、三九九	七七四、六〇九

又之れを各道別とせるものあり左の如し。

道別	移出 内國產品	移出 外國產品	移出 計	移入 内國產品	移入 外國產品	移入 計
京城	一四、二七三円	八一五、三三六円	八二九、六〇九円	一八四、七九〇円	一〇、八三七円	一九五、六二七円

| | | |

京畿道（其二）



黃海道
黃海
江華島
江華
江漢
京城
德豐
城關
湍長
州坡
河交
陽高
平富
川陽
獨島
島芝蘭
島宗永
島峯長
島音妹
島桐喬
島洲程
島文注
島望
島點鎭
島於細
島檢東
島檢西
島木三
島晩
島矢
島牛臥
島山
島隅
島仁
島沙
島俊
浦物濟
地錨浦物濟

境域

沿革を重ねしと雖も治所及其名を改めず以て今日に至れり。

北方金浦郡に、東方陽川郡に接し、南方始興郡及仁川府と劃し、西方一帶江華灣に瀕す。其廣袤は東西五里、南北八里半許なり、屬島に蘭芝島、菁蘿島、細於島、鷹島、虎島、獐島、一島、鼎冠島、孔岩島、長缶島、吸島、蛇島、雌雉島、雄雉島、大文之島、小文之島、小鷹、巨鴛岩島（以上毛月面に屬す）栗島、木島陵內、無雉島等ありて其數甚た多し、然れとも悉く皆小島にして周圍二浬以上のものは菁蘿島一あるのみ。

地勢

郡の西部卽ち沿海地方に在りては山岳丘陵起伏すれとも、東部は一圓平地にして南方仁川界より北方漢江河岸に擴延する、金城及陽川二郡に亙る平地と連續し、本道有數の農產地たり、此の如くにして郡の地勢は大體に於て南方に高く、北方に低し。

山岳

山岳の著名なるは桂陽、元積の二山なり、桂陽山は富平邑の北西に聳ゆるものにして仁川界なる蘇來山と同系たり、元積山は其南西に連續して沿海に峙つものなり、而して此二山の支脈は悉く西北に走りて海岸に達す、故に沿海地方は自然に高地をなして平地を存せす、桂陽山は一に安南山と稱し、郡の主山なり、故に旱魃に遇

へは里人上りて以て雨を禱る、其東麓に二城地あり、古山城といふ、小西行長の築きし所にして石築周圍一千九百二十七尺に及ぶ、然れとも今は廢頽して僅に其趾を存するのみ。

河川

河川は郡の平地を貫流する大橋川を以て主川となす、元積山の南東麓に發し、桂陽山其他東方陽川郡の諸山より流出する細流を蒐め、北流して金浦郡を通過し、掘浦川と名けられ、濟津に到りて漢江に入る、本川は流程五里に滿すと雖も、其流域一帶には美田擴衍せるを以て灌漑に利すること少なからす。

沿岸

沿岸は南方十井浦の北岸佳佐洞附近を仁川府界とし、北方白石里の北側なる小灣入奥を以て金浦郡界となす、海岸線は幾多小屈折を爲せとも全岸悉く干出泥堆を以て蔽はるるか故に船舶の出入に適地なし、就中可なるは南方に於ける佳亭里及北方に於ける白石里なりと雖も曲折甚しき狹湾を通するに過きされは初航のもの到ること容易ならす、然れとも佳亭里は元積山の南東麓を經て富平邑に到る二里に足らす、道路も亦稍〻良好にして車馬の往來を妨けす、故に郡の農產物は此に吐出するもの少なからす、沿岸の概勢此の如くなれは隨て漁村と名つくへきもの

あらす、然れとも鹽田開拓に適地多く、古來鹽業の一盛地として數へらるる所たり、十井浦に於ける朱安天日製鹽田は本郡の所管地にまて亙る、郡内民有鹽田は大凡二十八町歩にして其一年の製鹽高は二百六十七萬六千斤許なりといふ。

交通

運輸交通は郡の地到る處として不便ならす、京仁鐵道線は郡の南部を通過し、富平、素砂、梧柳洞の三驛は卽ち本郡の所管地たり、但し富平驛と稱するは同所井面に屬する大井里に設けられ、富平邑は驛を距ること北方一里許に在り。

通信

通信は交通に伴ふて大なる不便を見す、然れとも其機關としては素砂に郵便所電信取扱所及富平邑に郵遞所あるのみ

場市

場市は黃魚面の場基里に在り、黃魚市又は發阿場と稱す、開設日は陰曆三、八の日にして集散貨物は布木、葉草、果物、白米、大豆、綠豆、麥、草鞋、牛、鐵器、紙類、魚類、鷄、鷄卵、敷物等にして市況稍〻盛んなり。

物產

海產物は食鹽を主とし、其他鰡、鱸、鮸、螬、竹螬、牡蠣、章魚、鰕、蟹等あり。

郡治

富平邑は一に安南又は桂陽、吉州と稱す、桂陽山の南東麓に在り、其東方及南北には平野一帶に亙りて展望甚た廣し、古來治所たるの故を以て市街稍〻發達を見ると

區劃

雖も四方に到る要衝にあらす、故に內地人の居住者は未た甚た多からす、郡衙の外に巡査駐在所、郵遞所等あり、此の地富平驛を距ること近くして道路平坦なり、桂陽山麓には史蹟あり、若し夫れ勇を皷して高頂に登臨を試みんか、北に漢江、西に鹽河を望み、而して鹽河に碁布せる無數の島嶼は悉く眸中に收むることを得へきなり、されは京城附近に於ける閑遊地として揚くるの價値なきにあらさるへし。

全郡を區劃して注火串、上吾亭、下吾亭、水呑、玉山、石川、同所井、馬場、石串、毛月串、黄魚、堂山、東面、西面、郡內の十五面と爲す、而して毛月串、黄魚、堂山の三面は北方金浦郡界に、注火串、下吾亭の二面は東方陽川郡界に、水呑、玉山、石川、同所井の四面は仁川府界に在り、但し水呑面は南方仁川府に接すると同時に其東方は始興郡と相交る、其他東面、西面、郡內、馬場の三面は中部に位し、海に沿へるは毛月串及石串の二面なり。

石串面は沿岸南部の地にして元積山海岸に近く蟠踞して平地少なし、佳亭里は本面沿岸の中央に位して郡の呑吐口なること前に一言したる如し、稍〻大部落をなして客主を營むものあり、本面に屬する諸島は栗島、無雉島、木島、陵內島等なり、而して栗島には住民あり、其戶口は十七戶、五十餘人にして漁戶三戶を有し、鱗網四件、魚

箭一箇座あり。

毛月串面は沿岸北部に位し、北境は金浦郡に屬する黔圓面なり、此に白石里あり、これ亦全郡有數の海口たり、本面も亦概ね丘陵地に係ると雖も石串面に比して稍〻平夷なり、特に白石里附近には多少の耕地あるを見る本面に屬する諸島は菁蘿、蘭芝、細於、鷹島、巨鴛岩、小鷹、大文之、小文之、雄雉、雌雉、蛇島、吸島、長缶、孔岩、影冠、一島、獐島、虎島、黄山等なり、而して菁蘿、蘭芝、細於、鷹島等には住民あり、其戶口は菁蘿二十七、七十餘人、蘭芝略ほ之れに等し、細於二十四戶、六十餘人、鷹島三戶、十餘人なり、各島共に漁を營む者あり、就中盛んなるは菁蘿にして漁戶多數なるは細於なり、漁は孰れも鍛網及鱗網を主とす、細於島に於ける漁民の多くは貝類又は魚の採捕に從事するものなり。

第六節　陽川郡

古の齊次邑衣の一部なり、新羅景德王の時之れを孔巖と改めて栗津（今の始興郡）の領

縣と爲す、高麗の盛宗に至りて隷陽廣道と共に樹州（今の平郡の富）に合せ、後ち復た衿陽（今の始興）に合せらる、其後或は齊陽となり、或は巴陵陽平陽原と稱せられ、沿革一再ならず、今名陽川を稱するに至りしは忠宣王の時にして李朝これに依り今に至れり。

境域

東方始興郡に、南方富平郡に、西北金浦郡に接し、東北一帶漢江に瀕す、乃ち其江岸の地は東方楊花渡附近より西方堀浦川の東方に位する開花里附近に至る一帶にして大凡三里に亙れり。

區劃

郡の西部は富平平地に連なり、稍、耕地に富むと雖も中央には高丘連亙して南北に走り、東方には卑低なる荒蕪地多し。

郡内區劃は五面にして三井、郡内、南山の三面は江瀕に位し、加谷面は南西に、將軍所面は南東に在りて共に富平郡に接續す、而して將軍所面の一端には京仁鐵道線路開通す。

陽川邑

江岸の主要地は陽川邑、孔巖里、鹽倉里、楊花渡なるへし、陽川邑は西部なる平地の一端に位して對岸高陽郡に屬する幸州に到る渡津あり、邑は郡治の所在にして商業を營むものありと雖も盛んならす、郡衙の外に巡査駐在所、郵遞所等あり。

孔巖里

孔巖里（공암리）は郡内面に屬して邑を距ること近し、戸數は三十戸、中に漁業者三十餘人あり、漁船は三隻、漁網は曳網三部を有す、而して其漁獲物は鰕、鱸、鯉、鰻、目張、いだ、白魚等ありと雖も就中いだを多産す。

鹽倉里

鹽倉里（염창리）は陽川邑の東方三十町許に位して南山面に屬す、東方より南方は丘陵を以て圍まれ、北方は江に瀕し、西北は狹長なる平坦地を爲して陽川邑附近の平地に連なる、人家三十二戸、中に漁業五戸、十餘人あり、漁船五隻、曳網一部、罟網四部を有す、漁獲物は孔巖里に於けると同一なり。

楊花渡

楊花渡（양화도）は南山面に屬して郡の東端始興郡境に接近す、對岸に至る渡津にして昔時は甚た重要地たりしと雖も、京仁鐵道開通以來旅客の往來著しく減少し、此地の繁榮は對岸なる楊花渡（高陽郡に屬す）に移轉して委靡不振の一寒村たるに至れり、里人に漁を爲すものありと雖も專業者あらす。

第七節　金浦郡

沿革

高勾麗當時に在りては黔浦羅又は長堤と稱したり、李朝の初め今の陽川郡と共に一縣と成し金陽と名けしか、後ち陽川の地は衿川（今の始興郡）に、本郡の地は富平郡に併合せられき、降て太宗の時復た縣となし、尋て郡と爲し、今に至る。

境域

郡の四境は西北通津郡に、東南陽川、富平の二郡に接續して、東北漢江に、西南鹽河に沿へり、而して其廣袤は東西最長五里、南北最廣三里許なり、屬島に栗島、吉舞島、紅島、獨島等あり、但し栗島及吉舞島は鹽河に浮へる小嶼にして紅島、獨島は漢江河岸に於ける三稜洲なり、紅島には部落あり紅島坪といふ。

地勢

富平郡の主山たる桂陽山の餘派は本郡に來りて歌絃、鳳凰、天登、冷井、北城、雲遊、重峯、白石、夜彌等の諸山を隆起す、然れとも何れも低峯にして峻險なるものあらす、而して此等諸嶺の多くは西北海岸地方に位す、故に西部は總て丘陵地に屬すと雖も東南部に在りては概ね平坦なり、則ち其地勢は西部海岸に高く、東部卽ち漢江河岸に面して漸次に低下す、隨て水流も亦之れに伴ひ、海に入るは少なく、大概東北向に流れて漢江に注く、其稍〻大なるは富平郡より來る大橋川なり、本郡に在りては之れを掘浦川と名く、濟津里に到りて漢江に入るもの是れなり、此他郡治の左右にも各

一流を通し、是れ亦漢江に入る、此三川の流域は皆多少開展して耕地稍〻見るへきものあり。

海岸

海岸は南方白石里より北方佐洞に至る間にして其區域甚た狹小なり、而も海岸には岩礁錯落して且つ悉く干潟泥堆なり、就中稍〻著舟可なるは南角に位せる安東浦なるへし、これに次くものを北境なる佐洞の南西方に位せる五里洞とす、其前面に岩礁無數に散在すれとも狹滯部落の前岸にまて達す、佐洞附近には稍〻廣き平坦地あり、漢江河岸より北方雲陽里附近に至る間にして其河岸線は四里十餘町に及ふ、河岸に位する部落甚た多くして郡治も亦河畔に位置す、潮汐を利用せは到る處として著舟不可なるはあらす。

道路

郡の主要道路は楊花渡より陽川及本郡を經て通津を通し、江華島前岸の渡船場に到るものなり、卽ち本道路は古來京城、江華間を連絡するものにして漢江の河岸に開通せられ、道幅廣くして且つ平坦なり、其他富平邑と連絡するものも亦平坦にして稍〻可なるものに屬す、郡の主要農產地は漢江河岸に位せるか故に運輸は聊か遺憾とする所なし、若し遍舟を儻ふて潮汐を利用せは瞬間を費して龍山間と往來

郡邑

することを得へし。

金浦邑は漢江の河岸に位すれとも其前面に大なる三稜洲横たはり其一端は邑の東方に於て陸地に接續するか故に著舟に便ならす、此地久しく治所を置れしと雖も重要地と稱すへきにあらされは城廓の設けなく、市街も發達を遂くるに至らす、郡治の外に、郵便局、警察署、金融組合等あり。

郡の各面は臨村、高蘭臺、古縣内、郡内、石閑、馬山、黔丹、蘆長の八面なり、而して臨村以下石閑に至るに五面は順次漢江に瀕し、黔丹面は獨り西方鹽河に沿へり。

江瀕沿海共に部落の點綴するものあれとも漁村と名くへきものあらす、但た獨り黔丹面に屬する安東浦には總戸口四十戸、一百七十餘人中漁を營むもの十戸、四十餘人ありといへとも僅に漁舟二隻、卷網二件を有するのみ、而して其漁採物は鯔、鰣、鰕、章魚、蟹、牡蠣等なりとす、鹽業は比較的盛んなり、即ち鹽田面積は二十七町歩餘に及ひ、一年の製産大凡一百二十八萬二千斤許に上るといふ。

沿革

境域、廣袤及屬島嶼

地勢

第八節　通津郡

本と高勾麗の平淮押縣なり、新羅の時今の金浦及富平の二郡と合せて長堤郡と爲せしか高麗復た分ちて縣と爲し、今名に改む、李朝これに因り、後ち郡と爲し、今に至る。

本郡は漢江及其末流の一派、鹽河との間に斗出する最端の地にして東より北を經て西に至る一帶は總て河海を環らし、境を接するは唯た南方のみ、而しで其接續地は則ち金浦郡なり、江を隔てて北方に望むは豐德郡、東方に見るは交河郡にして、西方一葦帶水を挾みて相呼應するは江華島なり、廣袤は東西二里餘、南北大凡三里に餘る、屬島嶼に末島、留島、瓦嶼、新岐、陶島、白馬島、黃山島、古里串島、浮來島、孫石嶼等あり。

郡の地域此の如くにして其最北端には山岳蟠蝟し、西側にも亦丘陵起伏して自ら跼蹙たり、然れとも東側の一部には多少の平地あり、此の如くにして其地勢は北西に高く、東南に低し。

山岳

山岳の主要なるは文珠山（一名比）鞍山、月尝山（共に邑の北方江岸に在り）蓮華山（北方江岸に在り）童城山（東方江岸に在り）南山、守安山、靈遊山（三山共に邑の南方に在り）鉢山（郡の東南端なる江岸に在り）等にして就中著名なるは文珠山なり、本山は邑の北方鹽河の邊りに峙てる一峯にして高さも亦諸山に冠たり、若し輕舟に乘して鹽河を上らせんか東岸に當りて石城江岸に起り、山巓の高所に環りて遠望甚た顯著なる要害の一地を見るならん、是れ卽ち本山にして城は之れを山名と等しく文珠山城と稱し、昔時は此海門に於ける重鎭たりき、頂上に高臺あり、將臺と名く、有事の時、軍を指揮するに設けられし所といふ、登臨せは四邊の展望頗る廣大にして眞に爽快の至りなり。

河川

河川は地域に伴ふて大を爲すに至らす、就中稍〻大なるは童城山の南麓を環りて漢江に合するもの是れなり、本川は源流二支に分れ、而して其流域は稍〻開展せる平地なり、其他は北流して祖江浦に到り開口するものと、西北向に流れて浦內浦の北方に開口するものとあれとも共に短小なり。

沿岸

沿岸の形勢は、東西兩側共に概ね低崖なれとも、泥堆岸に亙りて干潮時には距岸數町の間露出するに至る、而して其北岸に在りては、高丘河岸に亙りて險崖絕壁を

爲す場所少なからす、特に潮汐干滿の影響を受くること甚た大にして流れも亦頗る急激なれは自ら安全に舟泊し得へき適地を成すに至らす、但し童城山の南麓を環れる一小川は、潮汐を利用して數町の間溯上し得へく、而して本郡の物産は多く此に出されて龍山其他に至る、沿岸に於ける金浦郡との限界は、東側にては鉢山の南側にして、西側に在りては黃浦里の南方なり、而して此二地を起點及終點とする周回線は、大凡十四里に及ふへし、これを本郡沿岸線の延長なりとす

運輸交通は周圍河海を環らし、潮時を利用すれは到る處に著舟することを得へきか故に、概して便なりと云ふこと得へし、主要道路は文珠山城の城內里より邑の南方を過き金浦陽川を經て永登浦に至るものなり、通津邑より金浦邑に至る四里、同邑及陽川邑を經て永登浦に至る九里、これを郵便線路と爲す、北側には對岸豐德郡に至るへき渡津二箇所あり、一は祖江浦にして、他は康寧浦なり、此二浦の前面は漢江及臨津江の共同河口にして河幅廣大なりと雖も漲落兩時に於ける流れ特に急激なれは憩潮時ならては渡船不可能なり、而して此二地は通船潮待ちの爲め繫留すること多次なり、江華島との連絡は北に城內里、南に麻唐浦あり、而して江華邑

物産

へは城内里より渡る、同邑に至る二十五町許なり。

農産物中主要なるは米、麥、豆、玉蜀黍等なり、産多からすと雖も仍ほ管外に輸出するの量あり、多くは龍山、仁川に運はる、水産物には鱸、鯔、鮸、鰻、海鰻、鰕、葦魚、卵細魚等あり、然れとも其産甚た少なし、食鹽は古來物産中の主要物に數へらる、其一年の産三百七十餘萬斤に上る。

場市

場市は毎陰暦二、七の日東南部に於ける陽陵面五羅里に開設せらる、本場は本郡唯一の場市にして集散稍〻多し、然れとも北部の部落に在りては江華邑近きか故に同邑場市に至るを常とす、其開設日は五羅里場と等しく二、七の日なり。

通津邑

通津邑は文珠山城の東南少許に在り、四圍山を繞らし、氣候温和にして健康に適地なり、郡衙の外に郵遞所巡査駐在所等あり、江華邑に至る一里、金浦及永登浦に至る里程は前示の如し、而して其城内里より鹽河を下りて仁川港に至る十八浬なり、鹽河は舟行危險の場所多しと雖も順潮に乘して駛行すれは壯快極りなく、仁川間は僅に數時間を費して相互に到達することを得へきなり、故に同地との往來頻々たり。

區劃及臨海面

本郡には陽陵、霞隱、奉城、所伊浦、迭田、月余串、甫口串、古里串、大坡、桑串、伊村、郡内の十二面あり、而して陽陵以下桑串に至る十面は東側金浦郡界より順次江瀕に比隣し、伊村、郡内の二面は各面の中間に在り。

各面に於ける漁村の情況は調査を遂けす、故に郡の報告其他に見て唯た概要を記するに止むへし。

桑串面

西側南端の地なり、沿海には丘陵連亙すれとも北方は一帶平地にして東側なる郡の主要平地に連なる、其海岸は彎入を爲せとも四邊悉く干出泥堆にして而も小嶼岩礁所々に錯落たり、故に狹澪を通すと雖も往來甚た危險なり、沿海に黄浦里、香毛里、古音達里等の部落ありて鹽業稍〻盛んなり、鹽田面積は約二十町歩許、釜二十四を有して一年の製鹽大凡九十四萬斤に上るといふ。

大坡面

大坡里
魚毛浦
藥山里

桑串面の西北に比隣して稍〻南方に斗出す、屬島に黃山島・白馬島・陶島ありと雖も悉く皆無人の小嶼なり、部落の沿岸に散在せるものに大坡里・魚毛浦・陵洞・藥山里・赤岩里等あり、而して此等の部落は皆製鹽地なり、然れとも漁毛浦、赤岩里には漁に從事するものあり、但し其漁は極めて小規模なり、捕網各〻一件を有し、前岸に於て從漁するに過きされは漁獲甚た少なし、鹽業は稍〻盛んなり、鹽田は各里を通して約十八町歩あり、釜三十一を有して一年の製鹽大凡一百九十萬斤に上るといふ、本面の西側は江華島に對して其中間に黃山島浮ふ、而して落筋は島の東側と、本面の西側との間を通して其幅甚た狹く、自ら要害の一地を成せり、是れ往年德・浦・鎭・を置かれし所以にして此處は漢江に於ける第二の關門なりとす、黃山島間の落を稍〻北上すれは東側に本面の赤・岩・里・あり、西側に江華島の草・芝・あり此邊兩岸相迫まりて河幅漸く狹し、而も瀨戸には暗礁東西に横はりて通路僅に二三十間に過きす、これに加ふるに潮流も亦極めて急激なれは、通行の危險云はん方もあらす、實に漢江航路中最難所なりとす。

古里串面

大坡面の北方に接續し、西方一葦帶水を挾みて江華島と相對す、沿岸に散在する部落は大・明・村・上・新・里・廠・唐・浦・碎・岩・里・等なり、此等は皆製鹽地にして上新里、碎岩里には漁船二隻、揮網一件、魚箭一座、碎岩里には漁船一隻、鍛網、罟網各一件、魚箭一座を有す、製鹽地は各所に散在すと雖も鹽田は僅に三町歩にして釜數六、一年の製鹽三十五萬斤許に過きすといふ。

郡內面

古里串面の北方に位して其沿海區は廣からす、隨て江に沿へる部落は浦內浦あるのみ、然れとも本浦の北方は一帶平坦地にして其中央には一小川流れ、自ら鹽田開拓に適地多し、故に其鹽業は稍〻盛んにして鹽田四町六反歩餘に及び、釜數六を有して一年の製鹽五十餘萬斤に上るといふ。

甫口串面

本郡北西端の地にして北及西の二面は江を環らし、東南の接續地は月余串及郡内の二面なり、部落の沿岸に位するもの大凡四、これを康寧、東幕、高陽、城內の二浦、二里と爲す、北端より列記の順に散在し、而して康寧浦以東には之れを見ず、蓋し其一帶は山岳江に枕みて險崖絶壁を爲せるか故なり。

城內里(성내리)は文珠山城內に於ける一部落なり、此地往時に在りては海防の要鎭たりしと雖も今は江華邑との連絡地として旅客の往來あるのみ、江岸の形勢は岩坡突出して干潟も亦多し、故に澪筋は西岸即ち江華島岸に接近して通せり、此は漢江の分岐點を距ること近く、且つ兩岸屈折多きか故に潮流岸に衝り、渦水を爲して流る、特に落潮時に在りては其勢甚た猛烈にして一見心膽を寒からしむるものあり、蓋し復漢江航路中一難所とし記憶すへき一地たるへし。

東幕里(동막리)は北西岬端に於ける一部落にして戸口は三十一戸、一百〇九人、弓船一を有して鍛漁に從事するものあり、本里の北方は卽ち漢江の本流にして河幅

廣く、渺茫一大湖の觀ありと雖も所々に大なる寄洲を生して航路を知ること難し、而も出水あれは往々にして水路を轉するか故に是れ亦漢江航路中の一難所と稱せらるゝ所なり、此附近は航路標識を設置せらるゝあり、注意を拂ふの要あるへし。

康寧浦(강녕포)は東幕里の東方少許に於て江岸に人家の點在するもの是れなり、戸口は總て九十三戸、三百五十餘人を算すれとも漁に從事するものは僅に三戸にして漁船三隻、卷網、浦網各一件を有し、近岸に於て鱸、鰡、鰕其他の雜魚を捕ふるに過きす、部落の東方には一小川あり、恰も一小灣入の如し、滿潮に乘すれは數隻の漁船此に入ることを得へしと雖も、干潮時には全然干上りて泥深く徒涉するに堪へす、本浦は對岸豐德郡に至る渡津なると同時に通船の潮待所たり、故に酒幕、步行客主等ありて沿岸の一盛地を爲せり、本浦と東幕里との中間なる沿海には二小嶼あり、大なるを留島●●と稱し、小なるを杻島●●と名けらる、而して其附近は暗礁錯落するありて漢江航路中の警戒區と稱せらるゝ所なり、又た本浦の前面及小灣入の東方にも暗礁あり、此邊航路の標識は本浦東岸に於ける立標の外に、猶は江中にも浮標あ

月餘串面

北側中央の地にして東は所伊浦面、西は甫口串面なり、本面の江瀕には山岳連亙して脚を江中に沒す、故に其江岸は悉く險崖絶壁を爲して部落の存在を許さず、されと沿岸の略ぼ中央に一溪流の開口するありて溪間に多少の緩斜を形成し、此に一部落あり、これを祖江浦と名く、本浦は沿岸唯一の部落たると同時に對岸豐德郡に到るに最も近く、且つ江中の障害少なくして渡津に便なり、而も通船の潮待所たるか故に自ら發達を遂け、戸口は九十戸、三百九十餘人あり、漁に從事するものも亦割合に多く、八戸、三十餘人にして漁船八隻、卷網六件、弓網二件を有す、本浦の南方に蔚內里（一に乞內と書す）あり、山中に位すれとも里人中漁に從事するもの二戸、弓網二件を有す。

所伊浦面

本面は郡の東北端の地にして、西方は月余串面、南方は奉城面なり、江岸には丘陵横はると雖も概して平夷なれは江瀕附近に部落の散在するもの少なからす、而して其漁業者を有するものに柯作、金浦、麻造、麻近、佛只、西柿、東柿等あり、然れとも就中大なるを麻近五十戸、麻造四十一戸とし、其他は二十戸以下、十戸內外の小部落なり、孰れも弓網、卷網、浦網、揮羅等は二、三張より四、五張を有すれとも漁船は有するあり、有せざるあり、漁船多きは麻近の四隻、西柿の三隻なり、而して又た柯作及佛只の地は魚箭各一座を建設するものあり。

奉城面

霞隱面

陽陵面

三面は相比隣し、陽陵面は南方金浦郡の石閑面と相接續す、江岸は低丘又は平地にして稍、高き巓を爲せるは霞隱面の童城山、城山なり、又奉城山とも稱す、往年童城山城の所在地にして仍は遺址を見る、此三面は其西方中部に於ける伊村、迭田二面と共に郡中主要の平地に位して何れも農業盛んなるか故に、部落の江岸に散在するもの多と雖も、漁業を營むものは極めて稀れなり、但し奉城面に屬する石灘及顚流の二浦には漁業者あり、乃ち石灘浦は八十戸の部落にして中に漁業者九戸、其所有

漁船三隻、揮羅二張、弓網七張、魚箭二座あり、頗流浦は四十戸の部落にして中に漁業者五戸、其所有漁船二隻、弓網四張、捕網二張あり。

第九節　高陽郡

沿革

本と高勾麗の達乙省、皆伯二縣の地なり、新羅景德王の時達乙省縣を高峯と改め、交河郡の領縣と爲し皆伯縣を遇王（一に王逢と稱す）と名けて漢陽の領縣と爲せり、高麗に至りて遇王を幸州と改められ、二縣共に楊州に屬したり、李朝に至り大祖の三年始めて高峯監務を置き、而して幸州及富原の荒調鄕（富原荒調鄕は元と果川龍山處なり、高麗忠烈王十一年富原荒調鄕と改む、其本屬は富平郡なり、今は京城府に屬す）等を其所管に附す、太宗に至りて高峯、幸州の二縣を合せ、茲に始めて今名高陽を稱したり、（幸州は一名を德陽と稱す、故に各一字を採りて高陽と名けしといふ）當時尙ほ縣監たりしが、成宗の時敬昌二陵あるの故を以て陞して郡と爲し、以て今に至る。（敬陵は李朝睿宗の陵、敬陵は德宗の陵なり）

境域

北方坡州郡に、東方楊州郡に、南方京城府に接し、西北の一部交州郡に交はりて西方漢江に瀕す。

郡の東北部は楊州の高嶺山（最高標は六百米突なり）より來る山脈連亙して其支脈縱橫するか故に自ら山地を爲して殆んど平地を餘さず、然れとも西方は丘陵地にして殊に漢江の沿岸には稍〻廣き平地を形成するものあり、此を本郡主要の農產地と爲す。

郡內を通ずる河川に松岳川あり、源を三角山に發し、西向に流れて交河郡に入り、坊川と名けられて漢江に入るもの是れなり、本川は平素無水の砂地にして更に水流の跡を見ず、一朝豪雨われは雨水山谷より狂奔し來り、暴溢氾濫して土砂を四近に運び大害を遺すの外に寸益を與へず、其流域の兩岸一帶に粗砂擴かり、不毛の荒地遠く交河郡界にまて及へるは蓋し皆是れ比年の氾濫に因する印象たらすんはあらさるなり、猶ほ一の有害川は京城西大門を距る少許に於て宏大なる砂原地を現出し、西向して古山里に至り、此に稍〻廣き泥澤を作りて漢江に入るもの是れなり、本川は流程甚た短小なりと雖も其害を遺すに至りては割合に大なるものあり、而して此等の害たる四邊の赭山悉く綠衣を纏ふの日にあらされは治することと能はす、森林保護は此國に於ける最大急務なること素よりなり、一見して其感益深きを覺ゆるものあるへし。

高陽邑

高陽邑は京城より義州街道を前むこと四里に在り、四面峻峰又は高丘を以て圍まれ平地は南北に通ずる義州街道に沿ふて幾分を存するのみ、此地の位置此の如くにして往時に在りては實に王城の關門として甚た重要なる一地たりしなり、市街は義州街道に沿へるものと、其中央より西に向つて開けるものとあり、殆んと丁字形を成し、人煙の密なる附近諸邑に見さる所たり、蓋し京城を距ること近く、且つ往時に在りては京城以北の地に在住せる朝臣京に入るには其北方數丁なる碧蹄驛に於て必す一泊するを例とせしのみならす、又行宮も邑城内にあり、されは此等に原因して自ら發達を來せしものならん、然れとも其地京義鐵道開通以來漸く衰運に傾き、市街の繁榮は今や過去の譚たるに至れり、現時存在する官衙は郡衙の外に警察署、郵遞所等あり、而して近時は内地商人にして店舗を開設するものあり、されは是等に因りて市況幾分を挽回せられしと雖も素より往きし盛時に比すへくもあらす▲碧蹄驛は今碧蹄里と云ふ、壬辰の役に於ける著名の一地たり、内地の戰史に碧蹄館とせるは此地に客館ありしに因れるものならん、驛は惠陰嶺の南麓に在り、而して義州街道は其嶺頂を踰へて開通し、其高標は一百三十三米突あり、卽ち

碧蹄驛

本嶺は同街道中の一難關たるなり、是れより京城に至る間は復た峻阪あらす、此等の關係も亦朝臣京に入るの前、必す一宿するを例とせし所以なるへし、戰史（韓史に據る）に敵大軍を匿せしといふ礪石山は今之れを明かにせす然りと雖も高嶺山より來る山脈は街道に接して丘陵となり、其南北兩側には東北に向つて通する一岐路あり、入れは各〻優に一萬の兵を陰蔽するの餘地あり、當時小早川隆景か明軍を待つに其軍を匿せしは果して虚れなるか、這般のことは史家の詮索に委せんのみ、而して此地京城を距る僅に四里餘、西大門外より馬車往來し、輕車も亦儻ふことを得へし、閑に一日の清遊を試み、史蹟を探るも復た妙ならん。

交通

郡の東北部は山岳重疊縣亙すと雖も而も中央には義州街道縱貫し西部には京義鐵道線路貫流し、西方一帶は漢江に沿へり、されは之れを概して云へは其交通は寧ろ便なるものに屬すへし、本郡に於ける京義線の停車場は一山驛あるのみ、然れとも南方には郡界に接近して京城府に屬する水色驛あり、而して此兩驛の距離は十哩なり。

場市

場市は白石（中面に屬す）及一山（中面に屬す）に在り、開設日は白石五、十の日、一山三、八の日な

りとす。

物産　物産は農産を除きては漢江に産する魚類のみ、薪炭は古來本郡の土産として國用に充てられき、今に尙ほ多少の産あり。

區劃及臨江面　郡の區劃に神穴、里大、元堂、九耳、松山、己浦、中面、求知道、下道の九面あり而して神穴は楊州郡に、里大は坡州郡に、九耳は坡州及交河郡に接し、松山以下は順次漢江沿岸に比鄰して松山面は北方交河郡の石串面に、下道面は京城府の北部に交はり、元堂面のみ獨り郡の中央に在りて各面に圍繞せらる。

沿岸及臨江部落　沿岸は南方京城府界に於ける幸州附近より北方交河郡に屬する深岳山の南麓九山里に至る間にして大凡五、里半に亙る、其間丘陵江に臨むは、幸州附近及其北方なる一小川の北岸幸州分地の沿岸に止まり、他は悉く皆平坦地なり、而して其沿岸には下道面に蘭池島、求知道面に三星里、中面に白石島、中里、己浦面に二山浦、法串里、松山面に三洞、九山里等の部落點々散在し、總て皆農業の盛地なり、然れとも各里共に多少の漁業行はれ就中稍〻盛んなるを蘭池島里及幸州の二村と爲す。

蘭池島里(난지도)　蘭池島里(난지도)は上下の二部落より成る、幸州の前面に於て元と三稜州より成れる島地なりとす、而して其戸口は合計一百三十二戸、五百五十九人に及び中に漁家十五戸、六十餘人ありと云ふ、漁船九隻、罟網九張を有し、葦魚、白魚及鍮を漁獲すること盛んなり、此地より白石場に二里、一山場に三里、邑城に四里にして邑城に至るの外は交通容易なり、▲幸州(행주)は亦德陽と稱す、幸州縣の古地なり、部落は內外上下の數里に分たれ、戸口は總て一百七十二戸、六百六十人許に達し、中に漁家五十二戸、二百餘人を數へ漁船三十二隻、曳網二十四張、罟網八張、蟹網數條あり、此村は本部屈指の大部落なると同時に郡中第一の盛漁地にして農業繁忙の時期を除きては四季共に漁を營まれ鱸、鱸、河豚、鮭、さつば、葦魚、蟹等の漁獲稍〻多し、但し葦魚は陰曆四五月の頃、蟹は七月より九月の頃、鱸は八、九月の頃を季節と爲す、皆生鮮のまま京城南大門の市場に出して售賣す、此地より白石場に一里、一山場に二里半、京城に三里許なり。

第十節　交河郡

沿革

本と高勾麗の泉井口縣なり、新羅景德王の時此地方江河交流の間に位せるの故を以て始めて今名交河と名けたり、高麗の時は楊州に屬し、李朝に至りて監務を置き、漢陽の屬縣深岳、原平の屬縣石淺を割きて本縣に編入せられしか、太宗十四年石淺を原平府（今の坡州郡）に、深岳を高陽縣に移され、後ち復た還屬す、肅宗の時邑より罪人を出せし故を以て廢して坡州の屬地と爲せしも、後ち四年を經て復縣せり、英祖の九年長陵を奮治黔丹山の東麓に遷されしかは、陞して郡と爲し、以て今に至る。

境域

北東方坡州郡に、南東方高陽郡に接して西方一帶漢江臨津の二流に瀕す、卽ち其北西を環るものは臨津江にして、西方を環れるは漢江なり、而して其對岸の西に見るは通津郡にして、北西に望むは豐德郡なりとす。

地勢

郡の南部に一小流あり、之れを坊●●津●●川と稱す、京城の北に聳ゆる三角山の西麓に發し高陽邑の南を通過して來るものなり、上流は高陽郡に一言したるか如く平素は全然無水の砂地にして殆んと川形を爲さざるも而も一朝豪雨あれは河水暴溢して土砂を運び、大害を遺すの外に寸益を與へさるものなり、然れとも本郡に來りては稍、其害少なく、而も下流約一里許の間は潮汐干滿の影響を受くるか故に潮昇

に乘すれは小舟交河邑の附近にまて到ることを得へきなり、而して本郡に在りては本郡沿岸の平地を以て主要の耕地と爲す。

江岸に於ける區域は山●南●里●附近（石串面に屬す）を南界とし、洛●柯●津●附近（낙가진）を北界とす、而して其周邊の延長は大凡三里許に及ふ、漢江、臨津二流會合の處、江は甚た廣大と爲りて恰も一大海灣を見るか如し、此に稍、突出して顯著なる頂を有すもの之れを鷲●頭●山（新吾面に屬す）と名く、疇昔は山城を有して要害の地たりき、而して此の頂は實に漢江航路の一目標なりとす、其麓を南に環りて稍、灣入する所は卽ち坊津川の開口なり、南方高陽郡界に近く一丘江に枕むものは之れを深●岳●山●と爲す、此は卽ち深岳縣の古地にして往年に在りては是れ亦一の要害たりしなり、漢江は此附近に於て深●岳●江●と呼ふことあり。

郡の區劃は八面にして江岸に於けるものは南方高陽郡界に石串面順次北に環りて清巖、縣內、新吾、炭浦の各面比鄰し、計五面あり、而して炭浦面の北隣は卽ち坡州郡に屬する烏里面なり、他の三面は南方高陽郡界に、尾洞其北に、支石、衙洞と順に列ふ、而して衙洞面の北鄰は則ち是れ亦坡州郡の條里面なりとす。

郡治は支石面の西端即ち坊津川平地の略ぼ中央に在り、今呼ふに交河の名を以てすれども元と杻栗浦の一地たりしなり、(杻栗浦は邑の北方に在り)而して此に治所を置かれしは李朝建國三百四十六年即ち今より一百六十一年前にして其前の治所は則ち金城里(金城驛の附近)なりき、今の治所は北に坊津川環流して、南に長命山峙ち、自ら形勝の一區を成せり、然れとも治所として未た甚た多くの年代を重ねす、且つ江瀕の一僻地たるか故に未た市街として發達を遂くるに至らす、されと此地交通は水陸共に甚た便なり、則ち水運は坊川を泝りて附近に至るを得へく、陸は東方一里に金浦驛あり、本邑には場市の開設あらすと雖も石串面の挿場には毎陰暦一、六の日、衙洞面の水踰峴にも同一、六の日之れを開設す、其他隣郡汝山には五、十の日に開設せらる。

江岸に部落少なからすと雖も專ら農に力め、漁に從事するものは極めて寡少なり、而して石串面の硯隅及西牌里書巖面の新村、松村、縣内面の舊浦新吾面の大洞里炭浦面の洛柯津等には之れを爲すものあり、就中稍、盛んなるは大同里にして總戸口六十戸、二百五十餘人、中に漁事を營むもの七戸、三十餘人にして漁船七隻、椗網、鍛網合せて七張を有し、猶ほ魚箭を設置す、但しこれを設置すへき場所は立石津より

石津に至る間にして其數は年に依りて一定ならす、本浦より坡州郡の汝山浦に至る三里、交河邑に至る四里なり▲大洞里に次きて漁事盛んなるは西牌里なり、本里は總戸三十、中に漁戸三にして漁船三隻、葦魚網三、鍛網二、鰡網一、其他雜魚網四、合計十張を有す、此地より龍山に九里、一山驛に二里、交河邑に一里半なり、他は何れも十戸内外の小部落にして漁戸も亦一、二戸に過きす、但し硯隅にては網漁の外に魚箭を設置するものあり、場所は本里の前岸なれとも砂地の變化常なきか故に自ら魚箭の位置も一定ならす、數も亦定ならす、各部落の戸數及邑治又は場市との距離等は卷末に添付する漁事一覽表に就きて見るへし。

第十一節　坡州郡

本と坡平瑞原二縣の地なり、坡平縣は高勾麗の坡害平史縣(一に翫蓮ともいふ)新羅景德王の時坡平と改め、來蘇縣(今の楊州郡)の屬縣と爲す、高麗顯宗九年長湍に屬し、文宗十七年開城府に直隷す、李朝これに因る、瑞原郡は本と高勾麗の述尒忽縣、新羅峯城に改め、

交河郡の領縣と爲す、高麗顯宗九年楊州に屬し、明宗の時改めて瑞原縣と爲せしなり、李朝太祖の二年二縣を合せて郡と爲し、原平と名けしが、後ち世宗の六年陞して牧と爲し、始めて今名坡州を稱するに至れり、其後復た幾回か沿革を重ねしも名を改めず、建陽の改革に郡と爲し、以て今に至る。

境域及廣袤

北方より東方に至る間は積城楊州の二郡に接し、西北の一部臨津江を以て長湍郡と劃界す、而して其廣袤は東陽交河の二郡に接し、西北の一部臨津江を以て長湍郡と劃界す、而して其廣袤は東西最廣三里二十餘町、南北最長六里十餘町にして本道大郡の一なりとす。

地勢

郡の北方積城郡界には坡平山（高標四百六十三米突）及滿月峯等の高嶺峙ち、東方楊州郡界にも亦これに讓らさる高峯聳へ、而して其支脈郡内を縱橫するか故に、東北部卽ち舊義州街道以東一帶の地は悉く山岳地なりと謂ふことを得へし、而して平地は汝山浦の西方に於て臨津江に合する河川の流域に於て之れを見るのみ、されは其境域廣大なるにも拘はらす耕地は甚た寡少にして水田九百四十八町歩、畑八百五十三町歩に過きさるなり。

河川

河川の主要なるは前示の平地を構成するものにして本川は其本源を東方楊州

高嶺山の北側なる溪谷に發し、北西向に流れて義州街道を横きり、此に西流に轉して交河郡に入り、紵岩里の南方に於て北向に轉し、汝山浦に來りて再ひ西向し、以て臨津江に注けるなり、其流程は稍、長くして且つ曲流屈折甚たし、故に郡内に於ける諸水は自ら本川に集なるもの多しと雖も河幅は割合に廣からす、水流も亦甚た少なし、然れとも河口は潮汐の影響を受くること大にして滿潮時には河口を距ること十町許、汝山浦まて大抵の船泝ることを得へきなり。

坡州邑

郡治坡州邑は義州街道に沿ひ北方臨津鎭に至る約二里、西北方汝山浦に至る一里餘、南方高陽に至る四里半許なり、往時は王城の關門として甚た重要の一地たりしか交通移轉の影響は此地にも及ほし、今は只た郡治たるの故を以て僅に餘命を維持するに止まれり。

區劃

郡の區劃は坡平、泉峴、廣灘、條里、紫岩、烏里、馬井、新屬、雲泉、七井、州内、白石の十二面なり、此内坡平、新屬、馬井、烏里の四面は臨津江岸に比鄰するものにして、坡平は北方積城郡界に、烏里は南方交河郡界に在り、其他諸面の配列を概示すれは泉峴、廣灘、條里、紫岩の各面は順次坡平の南方より楊州高陽交河の三郡界に比鄰し、以て西南方江

岸に位せる烏里面に至る、卽ち坡平以下烏里の六面は北より東を經て西南に環ると同時に他郡との接觸地境を有するものとす、雲泉、七井、州內、白石の四面は各面より包圍せられ、而して雲泉面は北方新屬馬井の二面に接し、七井、州內、白石の三面は其南方に比鄰せり、更に義州街道を通するものを列記すれは新屬、七井、州內、廣灘の四面にして廣灘の南端、高楊郡界には惠陰嶺の險を有し、新屬の北端江岸には臨津鎭の關門あり、又京義鐵道線路を通するものを列擧すれは馬井、七井、白石、紫岩の四面にして、馬井面には臨津、江驛、七井面には汝山驛あり、斯くて各面中農產に富める は七井、白石、烏里の方面にして土地最も峻嶮なるは坡平、泉峴の方面なりとす。

江岸の概況

江岸に於ける各面は前示の四面にして、其南北兩端の地を概示すれは烏井面の楸同里附近は南端にして、坡平面の長坡里附近は北端なり、此一帶、江は蜒蜿屈曲すること甚たし、故に其沿岸線は頗る長くして大凡六里十餘町に亙る、臨津江は水淺くして流れ急なれは、航運の利多からすと雖も、平底輕吃水の小汽船は潮昇に乘して、長坡里の上流なる對岸長湍郡の高浪浦にまて、溯航することを得へきなり、されは本江に在りても、多少河川漁業の行はれさるにあらすと雖も、今其狀況を明かに

せす、從來郡の物產として列記のものを見るに鰕蟹、葦魚、鮎等あり、されと其產多からさるは江の形勢に見て想像せらるへきなり、而も本郡を本誌に載せたるは只た臨江地の一集散地として紹介せんか爲めに外ならす。

汝山浦

汝山浦(여산포)は本郡の呑吐口なると同時に京義線中の重要地たり、附近の農產物は素より、著名なる長湍大豆の如きも、此に集散するもの甚た多し、隨て高浪浦又は仁川との取引盛んに行はれ、內地商人の居住者も亦少なからす、每陰曆五、十の日に場市を開設せられて集散稍、多し、其他本郡の場市は條里面の條里洞に二、七の日、坡平面の楡林に四、九の日開設せらる、各場市に於ける集散貨物は大概同樣にして其種類は布木、紬緞、綿絲、米穀、鹽乾魚、鐵器、煙草、果物、草物、石油、生牛、鷄、鷄卵等なり。

汝山驛

汝山驛(여산역)は汝山浦の東方十町許に在り、本驛より龍山驛に二九哩四、開城に一七哩一にして其乘車賃錢は三等にて龍山に九十錢、開城に九十五錢なり、又本驛より坡平邑へは一里許にして、積城邑へは五里餘なり、而して積城以東北麻田、漣川等を經て江原道の鐵原邑に至る郵便線路は本驛に於て鐵道と連絡す、卽ち本驛は京元線開通を見るの日までは上記地方の外に朔寧邑及黃海道の兎山、江原道の安

狹、伊川等に交通する重要なる連絡地點なりとす、驛の東方約三十町に一部落あり大德里と云ふ、此に二陵あり、一は李朝千古の怪傑大院君、一は同妃の柩を納むる所にして近頃京城の孔德里より遷奉せられしなり▲臨津江驛(림진강역)は江岸に在り元と架橋工事中の假設驛なりしが、出荷割合に多きの故を以て工事成るも尙ほ撤廢するに至らず▲臨津鎭(림진)は驛の東方約一里にあり、義州街道中江岸の一關門にして江瀕に石城を繞らし、樓門を有して甚た要害の一地たり、此も亦壬辰の史蹟として著名の場所なりとす。

大德里

臨津江驛

臨津鎭

第十二節　長湍郡

沿革

本と高勾麗の長城縣なり、新羅景德王今名に改め牛峰郡の領縣と爲す高麗穆宗の四年陞して湍州と爲し、顯宗九年復た長湍縣と爲し、文宗十六年開城府の直轄と爲せり、李朝大宗十四年臨江縣を合せて長湍と爲し、後ち更に長湍を臨津に合せて臨湍縣と稱したり、後ち世宗に至りて復た長湍縣と爲せしか、世祖の二年長湍、臨江を臨津に附して臨津縣と爲したりき、然れとも久しからすして臨江、臨津を長湍に併せ、茲に復た長湍を稱するに至りたり、其後郡と爲し、尋て都護府に進めしか、建陽の改革に復た郡と爲し、以て今に至れり。

境域

四境は北方朔寧郡に、東方漣川、麻田の二郡に至り、東南方臨津を以て積城、坡州、交河の三郡と劃し、西南方豐德郡に、西方開城郡に、西北方黃海道の金川郡にまて到れり、されは其廣袤は甚た大にして東西約六里、南北大凡十里に迫ふへし。

地勢

地勢は邑誌に記せる所を見るに東北多山にして之れを路上といひ、西南沿野にして、東北部には之れを見ること多からす、但し路上、路下の稱呼は縱貫街道の上下を意味するものと知るへし。

長湍邑

郡治長湍邑は白鶴山(一に白岳といふ)の南麓に位して義州街道を通し、南方京義線の長湍驛に到る一里半許なり、此に治所を置かれしは李朝光海君の五年にして今を距る實に二百九十七年前なりとす、而して其以前は桃源驛(도원역)の地に置かれしなり、今や邑は一郡の首府たるに過きされとも、往年は都護府を置かれ、且つ鎭を置か

れ、或は防禦使、或は討捕使在任して近畿の一要地たりしなり、されは人家稠密にして、市街克く發達せること、之れを坡州高陽等に較ふれは、遙に優れるものあり、而して毎三、八の日に場市を開設せらる、其集散物は各地の場市と選むなきも大棗、乾柿、栗、梨等は附近の名產にして此等果物の集散多し現在する官衙には郡衙の外に憲兵分遣所、郵便局等あり、義州街道を北に進みて開城に四里、南方坡州郡の臨津鎭に約二里なり、然れとも今や本街道は旅客の往來を見ること少なし、長湍驛より開城に九八哩、龍山に三六、七哩にして乘車賃錢は開城に三十錢、龍山一圓十一錢なり、長湍驛附近の一名所として豐德郡に屬する德積山あり、驛を距ること西北二里許にして達すへし、山の四邊は怪巖戟々として險崖、削壁を爲すと雖も、北東側は稍、緩にして此に登山することを得へきなり、上り到れは山上四十餘の人家點綴して一部落を成せり、此に廟あり、蓋し高麗の宰相崔榮を祭るものと稱せらる、而して此に崇拜の念盛んなるを窺ひ得て餘あり、山の高標は二百七十九米突なり、山中奇勝に富みて且つ登眺も亦甚た宜し。

區劃

郡の區劃は大南、小南、江北、江西、大位、江南、古南、長縣內、長西、長北、東道、西道、松西、松南、津北、縣內、津東、中西、上道、下道の二十面なり、而して其大多數は京義鐵道線路の東北方に位し、西南に位置するものは中西、上道、下道の三面のみ、又義州街道は此三面の東北に比鄰する津東、縣內、津北の三面を通過せり、卽ち此三面と前示中西、上道、下道の三面とは所謂路下の地にして地勢概ね平夷なるも、他の十四面は所謂路上の地にして其多部分は峻險なる山地なりとす。

沿岸主要部落

江岸に於ける主要地は長西面の高浪浦、龍山、津東面の下浦、東坡里、縣內面の亭子浦、德山、津中西面の蘆上里、楸村、上道面の石串、江蓮里、下道面の德山浦、栗井等なるへし。

高浪浦

高浪浦（고랑포）は臨津江の上流江岸に位する部落にして大豆、籾、薪、炭の集散地なるを以て甚た著名なり、臨津江を溯行する船は多く此地を以て限界とし、猶ほ上流に至るものは極めて小形の河舟に過きす、故に此地以東北の物產は曾に本郡の產出に止まらす積城、麻田、漣川、鐵原、朔寧、兎山、安山、安峽地方の產出に至るまて大抵此地を經て搬出せらるゝを例とす、隨て其集散額の大なる侮る可らさるものあり、さ

れは疾に内地人も居住して商業を營み、專ら仁川との取引行はる、聞く處に依れは其在住内地人某々等石油發動機船を以て本浦を基點とし汶山、月串等を經て仁川に到る航路を開始せんことを企圖し、將に近日を以て事業に著手せられんとす、而して愈、航路開始の日には一箇月大凡十五回の航海とし、旅客貨物の輸送を爲すと共に河舟の曳舟をもなし、運賃は穀物一石に付仁川迄二十錢、石油一箱仁川より八錢五厘の見込なりといふ、今此計畫の爲めに調査せられたる此地一年中の移出入貨物の概數を見るに移出に於て大豆十五萬石、籾二十萬石、小豆、粟其他雜穀九千五百石、木炭六十萬貫、薪九十萬貫、葉煙草一萬駄、其他は木材雜品にして其總價額は一百八十六萬圓なり、移入に在りては食鹽六萬圓、石油二十二萬八千圓、燐寸三千圓、金巾及木綿三萬圓、綿絲一萬圓、海產三萬圓其他一萬五千斗三十八萬許なり、木浦より汶山に至る十三浬、石串に十四浬、漢江、臨津江、會合點に十八浬、鹽河を通して仁川に三十八浬許なり、木浦には陰曆每二、七の日に場市を開設し、其集散も亦割合に多きを見る、木浦の現況、此の如しと雖も其前途は如何、京元線開通の曉は何等影響を受くるなきか、聞く京元線は鐵原、漣川等を通過するの豫定なりと、果して然らは此に

せし貨物の多くは轉して鐵路に依るへし、若不幸にして此判斷の如くならしめんか、聊か悲觀せさるを得さるなり。

龍山、下浦、東坡里、利長浦等は皆渡津にして東坡里の對岸は臨津鎭なり、而して此地には每四、九の日に場市を開設せらる、石串は交河郡の洛河津に到る津渡なると同時に本郡南部平地の一門口として、此に農產物を搬出せらるるもの少なからす、而して此の地却て前途に囑望せらるへきものあるへし、江蓮里は古來漁船の泊處として知られし所なり、里人に漁を營むものあり、德山浦、栗井、楸村は豐德郡界を劃する沙川に沿ふて是れ亦各部平地の一海口たり。

本郡に於ける場市は前示邑內、高浪浦、東面の西牛場（開市四、九の日）津北面の招賢場（開市二、七の日）等あり、但し招賢場は生牛一種にして百貨の集散場にあらさるなり。

物產は穀類にして特に長湍大豆は產多大なるのみならす粒揃よく、品質良好を以て名あり、其他綿、麻、松蕈、栗、大棗、乾柿、生梨、綠礬等は古來名產として數へらるる所なり、海產に在りては葦魚、訥魚、錦鱗魚、鰡、鮎、蟹、河豚、白魚等なりとす。

第十三節　豐德郡

沿革

本と德水縣及海豐郡の地たりしなり、德水は本と高勾麗德勿縣（一にいふ仁勿）新羅に至りて始めて德水と稱したり、海豐は本と高勾麗の貞州なり、高麗の初め開城府に直隷せしか睿宗三年改めて昇天府と爲し、忠宣王三年降して郡と爲し、海豐と稱したり、李朝世宗二十四年德水縣と併せて豐德と號し、以て今に至る。

境域

東方長湍郡に接し、北方より西方一部は開城郡に交はり、南方一帶漢江の河口に瀕し以て江華及通津郡と相對す。

主要平地

郡の主要平地は豐德邑附近卽ち黃江川の沿岸に擴衍するもの及開城の松岳山に發源して西南向に流れ、長湍郡の盤龍山其他の諸嶺に發源して西南向に流れ來る一流と會合し、東江里、龍田里、栗串里等の東方を通過して水雲里に至り漢江に合する沙川の流域に於けるもの是れなり、然れとも本川の下流は以て長湍郡との境を劃するものにして、其平地の大部分は長湍及開城の二郡に屬し、而して本郡の所

領は廣からす、此他に稍〻廣き平地を形成せるは前二平地の中間に於ける一小流祖江川の沿岸なりとす、本川は郡內東部の溪水相集まり、月岩里の東方を通して祖江浦に至り、漢江に入るものなり、而して其注口は恰も對岸なる通津郡に屬する江岸著名の一部落たる康寧浦と南北相面するの地點たり。

河川

前示の平地は孰れも南北に亙りて長く、幅は甚た廣からすと雖も獨り豐德平地に在りては東西の幅最廣一里十町許、南北の長さ二里許にして猶は之れに連續し北に向つて一里以上に亙れる帶地あり、而して此三平地を除きては總て山岳又は丘陵なれとも西部は大抵低丘にして到る處に耕地を見る。

河川は前記せしか如くにして皆短小なり、而して水流も亦寡少なり、然れとも各河口十數町の間は潮汐干滿の影響を受く、故にこれを利用せは舟運に便することを得へきなり、黃江川は豐德邑附近錦城津まて、沙川は東江里附近まて、小舟常に往來せり。

豐德邑

郡治豐德邑は郡の西南部なる所謂豐德平地の略ほ中央に於ける一小低丘の南麓に在り、陸は開城に到る四里にして道平坦なり、海路は其西南二十四、五町に位せ

區劃

る黃江浦に小汽船の寄航するものあり、而も小舟は邑の附近錦城津まで到ることを得へし、されは其交通は海陸共に便なりと云ふことを得へきなり、人家は多からさるも附近に部落多數に散在するか故に市街は割合に殷賑なり、而も近頃內地人の來訪者漸く頻々を來し、其店舖數戶を見るに至れり、官衙には郡衙の外に郵遞所等あり、此地附近は農產に富みて且つ交通も亦此の如く便なり、されは將來の發展期して待つへし、復た有望の一地として數ふへきものならん。

郡の區劃は北面、中面、南面、東面、郡南面、西面、郡中面、郡北面の八面なり、而して北面は開城、長湍二郡の間に侵入して其東端に京義鐵道線路を通し、其附近は郡中屈指の農產地たり、中面は其南方に位し、東方開城水の下流に依りて長湍郡と限り、南端は一部僅に臨津江に沿へり、而して本面の一部も亦郡の主要農產地に數ふへし、南面以下西面に至る四面は、相比隣して漢江臨津江の合流に瀕し、郡中、郡北の二面は以上各面に依つて東南西の三面を包圍せられ、而して其北方の一邊は開城郡に接續す、但し郡中面は所謂豐德平地の中心にして郡治の所在面なると同時に郡中第一の農產地なりとす。

大江の沿岸は東方沙川の注口より西方堂頭浦の西側一小川の排水口に至る間にして其沿岸線延長は大約八里許なり、而して沿岸の地勢は丘岳江に臨めるもの甚た多く、平地を爲せるは西部海倉浦附近より開城郡界に至る間に過きさるなり、隨て岸は概ね險崖地にして其他も亦一帶に急斜を爲せり、而も干潮時に在りては泥堆を露出して淤泥甚た深し、故に舟泊の便地は素より、著舟の適地尙ほ且つ極めて少なし、然れとも江岸長距離に亙れるか故に自ら沿岸に散在する部落も亦多し、而して南面に屬する食峴里、城安、黃山里、丁串里、柳川、炭浦、上祖江、下祖江、東面に屬する望浦、照門里、領井、浦郡南面に屬する興天浦、興天里、月浦、海倉浦、古郡里、三達里、西面に屬する黃江浦、寺盆里、堂頭浦等は其主要なるものに係れるなり、此等の部落は岸を距る少許に位置するあり、或は江に臨みて位置するあり、或は漁業者を有するものと、有せさるものとあり、而して就中漁業稍〻盛んなるを南面の柳川及下祖江里、東面の領井浦、郡南面の興天浦、西面の黃江浦等と爲す、其概況左の如し。

柳川（류천 リューチョン）

柳川は漢江、臨津江合流の北側稍〻凹入せる所にあり、此地東面して附近に多少の平地を有し、總戶八十七戶にして江岸有數の部落を成せり、而して中に漁戶

六戸二十餘口あり、漁船四隻、弓網數張を有して專ら鰕漁に從事す、邑に到るは四里、蟹巖場に二里許なり▲下祖江(하조강)は祖江川の河口にあり、部落は低丘の半腹に位すれとも丘を踰ゆれは則ち所謂祖江川平地にして郡内主要の農産地たり、總戸七十七戸にして中に漁戸四戸、十餘口を算す、漁船二隻、弓網數張を有して是れ亦主に鰕漁に從事す、邑に四里弱、蟹巖場には二里弱なり、本浦東方には對岸通津に屬する祖江浦間に往來する渡船場あり、此地方對岸との距離最も近く渡津便なれは相互の往來稍〻繁し。

領井浦

領井浦(령정포)江岸部落中最大なるものにして人家は悉く江瀕に集團し、背後一帶には小丘繞りて前岸は著舟稍〻可なり、而も部落の東方には小川ありて數隻の小舟を泊することを得へし、總戸三百十四戸にして中に漁戸二百二戸、九百十六口あり、漁船十九隻、囊網十九統を有して石首魚、鮸、鯔、鰕等の漁業盛んなり、而して其一年の漁獲概算は約二萬八千餘圓に上ると云ふ、但し石首魚、鮸等の漁業には延平灘又は仁川近海に出漁せり、本郡沿岸第一の大部落たると同時に亦郡中第一の盛漁地なりとす、此地には内地人居住して賣藥店を開くものあり、通津郡に屬する康寧浦

間に渡津ありて往來頻々たり、對岸江華島とは近く呼應すれとも江の中央には砂洲長く横はりて往來便ならす、郡邑に到る一里半、蟹巖場に至るも亦相同し。

興天浦

興天浦(흥천포)は領井浦の西方二十町以内にあり、其間は低丘にして道險ならす、二浦相互に往來繁し、本浦は南方大江に瀕すると同時に東方一小溪流に沿ひ、西方は丘陵繞りて江岸に險崖を爲せり、而して東方なる小流は河口より北方十町内外に於ける興天里にまて小舟泝ることを得へく、且つ此に小舟を置くことを得へし、總戸五十四戸にして中に漁戸十戸、三十餘口あり、漁船二隻、囊網二張を有して鰕漁に從事し、一年の漁獲二千圓許に上るといふ、邑に至る一里半、蟹巖場には二里許なり、本浦は戸數多大ならす、漁業未た盛んならすと雖も海口としては郡中有數の一地なりとす。

黃江浦

黃江浦(황강포)黃江川の江口を入ること少許にして其西岸に位する一部落なり、黃江川は流域大ならさるも河口附近は河幅廣く、潮汐干滿の影響を受くること甚た大なり、故に潮昇に乘すれは小汽船尚ほ且つ本浦の前面にまて到ることを得へく、小舟は猶ほ溯航して邑の附近なる錦城津にまて到ることを得へきなり、然れと

も干潮時に在りては河底全然干上る、而して河心の兩側は勾配極めて急にして淤泥も亦頗る深きか故に到底徒渉し得へきにあらす、されと本浦は郡の呑吐口たると同時に舟泊の便も亦郡中第一に位するものと謂つへし、本浦の總戸は四十三戸にして其三十九戸は魚商なり、即ち本浦の住民は悉く皆魚商を以て衣食するものと云ふことを得へきなり、帆船十三隻を有して周年沖合なる各漁場を廻り、生鮮魚を買收して其まゝ、又は處理して各地の市場に售賣す、即ち所謂出買船を業とするものなり、本より邑に約一里、蟹巖場に三里なり、又江華島の鐵串に渡船あり、相互の往來常に絶へす、本浦の東方黃江川を隔てゝ三達里あり、此は本浦に比して人家多く、稍〻大部落を爲すと雖も、多くは農業を主とするものなり、三達里の東方一小流を隔てゝ古郡及海倉浦並ふ▲古郡は德水縣の古地なり、海倉浦は往年德水縣の海口にして當時貢米運轉の基點たりしなり、海倉浦及江華島の昇天間に渡船あり、是れ亦相互の往來稍〻繁し。

場市は蟹巖場(東面)、靑浦場(中面)、邑內場(郡中面)の三場あり、然れとも靑浦場及邑內場は生牛場市にして、百貨の集散市場は蟹巖場あるのみ、開設日は蟹巖場三、八の日、靑浦場一、六の日、邑內場三、八の日なりとす。

物產は普通農產物を除きては海產物あるのみ、而して其主要なるものは石首魚、鰡鱸、鮸、章魚、牡蠣、蝗、蛤、鰕、蟹等なりとす。

第十四節　開城郡

本と新羅の松岳、開城二郡の地なり、高麗太祖鐵原より本郡の治所開城に都を遷すや其地を開州と名け、尋て皇都と號し、又開城府と稱したり、後ち都城外の治を分掌せしむるか爲め別に開城縣を設置せり、李朝太祖の三年漢陽に遷都するや開城を松都と稱し、留後司以下留後副、留後斷事官、經歷都事等の諸官を置きて開城縣を廢したり、其後府と爲し留守を置き、一旦これを罷めしも再ひ留守と爲せしか建陽の改革に際し留守を罷めて新たに觀察府を設置せらるゝや復た別に開城郡を置かれたり、(當時開城觀察府に屬せしは平山、開城、豐德、長湍、金川、遂安、谷山、朔寧、麻田、新溪、伊川、安峽、兎山等なり)尋て其翌丙申の年觀察府廢せらるゝと同時に郡は更に府に進められしか統監政治と爲りて後ち明治四

十年再ひ郡に下され以て今に至れり。

境域

北方黃海道の金川郡に、東方長湍郡に、南方豐德郡に接し、西方禮成江を以て黃海道の白川郡と劃す。

地勢

域內は概ね山岳地にして平坦地は只た開城邑附近及土城邑附近に於て僅に之れを見るのみ。

開城邑

開城邑は高麗の故都にして其地に於ける建置沿革は前既に概示したる所なり、高麗亡ひて以來此地の繁榮は京城に移りしと雖も今尙ほ朝鮮主要の都會にして市街殷富、商業頗る盛んなり、而して其戶口は明治四十二年末現在調査に係るもの左の如し。

區別	戶數	人口 男	人口 女	人口 計
內地人	三三六	六〇七	四七八	一、〇八五
朝鮮人	七、八五九	一三、八四一	一二、六五三	二六、四九四
清國人	二一	四九	二	五一
其他外國人	七	八	八	一六
計	八、二二三	一四、五〇五	一三、一四一	二七、六四六

此地高麗四百五十六年間歷代の都城たりしか故に名所、舊跡として名あるもの少なからす、然れとも其多くは頽廢して今は只た僅に遺址を存するのみ、試に就中著名なるものを列擧せんか、滿月臺（城內松岳麓に在り、高麗王宮の廢趾なり）善竹橋（東門外大廟里に在り、高麗の末葉其臣圃陰鄭夢周致命の所なり、橋は花崗石を以て作られ橋面宛然鮮血を流せるか如き痕を見る、傳へ云ふ當時の血痕なりと、橋東に一小廟あり、鄭夢周の碑を藏む、碑及廟內は旱天にも尙ほ濕潤なるかの觀あり、傳へ云ふ碑泣きて其涙の爲めに此の如しと）崧陽院（善竹橋の西側に在り、院內碑閣を建てられ中に見事なる二大碑を藏す、一は李朝英宗の御製御筆に成れる道德靖忠亘萬古、泰山高節圃陰公の十四字を刻し、一は仁祖の御製御筆に成れる危忠大義光宇宙吾道東方賴有公の十四字を刻す）穆清殿（城外の東方半里に在り、李朝大祖の舊邸なり）壽昌宮（西小門內に在り高麗の一宮にして李朝太祖亦此宮に卽位せりと云ふ、郡衙に充用せるもの是れなり）成均館（城東三里松岳山の東麓に在り、高麗當時の大學にして今は只た聖廟を存するのみ）紫霞洞（松岳山麓に在り、溪水淸漣勝絕と爲す）彩霞洞（松岳山の東麓に在り、深邃にして泉石奇、春夏の候遊人常に絕へす）觀德亭（子男山の嶺に在り、登眺最も佳なり）君子亭、明月亭（前者は荳峴上に、後者は其南方に在り、）等なるへし。

諸官衙及公署には郡衙の外に警察署、郵便局、憲兵分遣所、專賣局出張所、民團役所、守備隊等あり、會社には韓國銀行支店、天一銀行支店、種蔘會社、合名會社、開城社等あ

り。

開城驛は西門外十數町に在り、驛より龍山驛に四十六哩餘、平壤に一百二十五哩餘、其乘車賃錢は三等にて龍山に一圓四十一錢、平壤に三圓二十七錢なり、本郡に於ける停車場は開城驛の外に土城及鷄井の二驛あり、開城土城間五哩餘にして其乘車賃錢は十八錢なり、土城驛より禮成江岸碧瀾渡に支線あり、(線路の延長は三哩七十八鏈なり)元と鐵道材料陸揚輸送の爲め布設せられし所にして今は專ら石炭陸揚場に使用せらる、碧瀾渡は白川、延安、海州等に至る渡津にして又海路仁川に到る交通の門口たり、而して甲午役に際しては此地日本軍の上陸地點に撰まれし處なり、白川、延安方面に到る渡津は碧瀾渡の外に錢浦あり。

隔訓及臨江面

本郡の各面郡江に瀕するものは江南面、北西面、中西面、西面、南面の五面なり、而して其臨江部落中主要なるは北西面梨浦、中西面錢浦、西面碧瀾渡、南面禮成江里等なりとす、然れとも漁業に關係あるは只た禮成江里一あるのみ。

禮成江里

禮成江里(례성강리 レーソンカンイー)は禮成江の開口に位して戶口一百七十二戶、六百四十餘人を算し臨江第一の大部落たり、而して住民中客主を業とするもの、船乘を業とするもの、漁を爲すもの、酒幕を營むもの、其他の商業を營むもの等ありて生計狀態稍、複雜なり、蓋し此地禮成江の關門たると、同時に仁川開城間の海路交通點たるか故に船舶の寄泊するもの多きに依るものとす、然れとも前岸潮汐の差甚た大にして潮流これに伴ひ淤泥も又深し、故に干潮時に在りては著舟するに由なし、漁戶は十戶にして漁船五隻あり、外海に出漁して石首魚、鮸等を漁獲するの外に前岸又は碧瀾渡附近に於て鍛弓船を行ふ、禮成江に產する魚類は白鍛を主とし、其他は鰻、鰕等なりとす。

第十五節　江華郡

本郡を成せるは江華島にして其附近に散在せる東檢島、信島、矢島、茅島、長峯島、注文島、煤音島(一に妹音に作る)彌法島、西檢島、阿叱島(海圖に檢次と記す)叱音島(海圖に望島と記す)米叱島(一に未島といふ、海圖には巡點島と記す)及項山嶼、魚游井嶼、竹嶼、飛加之嶼、東曼嶼、西曼島、水時嶼、毛老嶼、蕨嶼等の諸島嶼これに屬す。

江華島

江華島（カンホアトー）は即ち古の古比甲次にして高勾麗始めて郡を置き穴口と號したり、新羅海口に改め鎮を置きて海口鎮と呼ぶ、高麗顯宗九年舊名穴口に復して縣となせしか高宗十九年蒙古の來襲を避けて松京より遷都し、茲に始めて今名江華を稱したり、當時一に沁州と號し、尋て郡に陞して都江又は都沁と名く、元宗の時舊京に還都するや江都を廢す、忠烈王の時島は一旦仁川府に併せられしも後ち復して府となせり、李朝これに因る、太宗十三年都護府に陞し、仁祖の時留守を置き、肅宗の時鎮撫營を置き、正宗の時統禦營を置き、或は喬桐に移屬し、或は復し、往來數〻なりしも府は舊に依りて變らず、近時郡に改めて今に至れり。

位置境域

本島は京畿灣奥に浮へる一大島にして其位置は恰も漢江、臨津、禮成三大江の開口に衝れり、而して其北方に見る陸岸は白川、開城、豐德の三郡にして東方一葦帶水を隔てゝ呼應するは通津郡なり、猶は其東南方に見る陸岸は金浦、富平の二郡にして更に西北方に見るを喬桐とし、西方に近く望むは妹音島、南方に點々羅列して互に相望見するものは茅島、信島、矢島、龍遊、永宗の諸島なりとす。

廣袤

島形は南北に長くして其最長は約七里、東西は稍〻狹しと雖も其最廣は尚は三里

沿岸

二十餘町あり、而して其面積は精査を遂けすと雖も之れを圖上に測定すれは十八方里を超ゆること六餘に及へり、本島は朝鮮五大島の一にして濟州、巨濟の二島に及はさるも珍島、南海の二島に比して大なり。

島の沿岸は屈折に富す、故に其周回線の延長は島形に比して長大ならさるも而も尚は大約五十浬に達せるを見るなり、島岸は概ね陸岸なりと雖も險崖絕壁を見るは多からす、然れとも東岸に在りては全岸悉く障壁を築かれて上ること能はす、蓋し此障壁は著名なる江華城の外緣なりとす。

山岳

島の高頂は北部に二、中部に五、南部に二、渾て九あり、各高頂中最も峻嶮なるは南西端に於ける一峯にして之れを摩尼山と爲す、其高標は一千五百五十呎にして本山は島内第一の高頂たると同時に全道有數の峻峯に屬し、古來名山として其名遍く知らる、本山の北側は傾稍〻緩なりと雖も南側は甚た急にして削壁千仞殆んと登ること能はす、南東側の半腹に寺あり、淨水寺と云ふ、緣故を有する名刹の一なりとす、登り到れは山巓三に分れ、就中最高峯に方二丈に餘れる石壇あり、是れ即ち著名なる斬城臺にして一に參星壇と云ふ、相傳ふ昔壇君天を祭りし所なりと、四邊一の

眼界を遮るものあらされは北東漢江、臨津江より東、京城の北漢山を望むへく、西南一帯京畿灣に星羅碁布する諸島より遠く黄海道長山串附近に浮へる諸島に至るまて悉く皆一眸に入り、濶大の景、纖巧の圖並ひ之れを併せ、殆んと形容に辭あらさらしむ▲南東端に位する高頂は之れを吉祥山と稱し、高標は一千〇八十二呎なり、其北に峙てる一峯は甚た高からさるも山頂に石城を繞らして顯著なり、是れ即ち鼎足山城にして一に三郎城と云ふ、亦壇君當時の遺址なりと傳ふれとも信するに足らす、然れとも新羅、高麗以前に於て築かれたるは明かなりと云ふ、若し輕舟に乘して鹽河を上下せんか、島の南端なる山頂樹林の間、石城の陰顯するを認むるならん、之れ則ち本城なりとす、中部に蟠屈するものは南方なるを鎭江山と稱し、高標は一千四百四十呎なり、而して本山の南麓には高麗鎭江縣の古地あり、本と高勾麗の時首址縣を置きし所なり、鎭江山の北方に於ける高峯は即ち穴口山にして其高標一千五百十八呎を示され、島内高頂中摩尼山に亞くものなりとす、其又北に聳ゆるものは之れを高麗山と稱し、高標は一千四百二十一呎なり、而して郡治江華邑は其東方に在り、穴口山の西端平地に沒して再ひ西岸に隆起するものあり、之れを望山

といふ、其高標は九百六十三呎にして山脚海潮に洗はる、北部に於ける高頂は西北部に峙つものを別立山と名けられ、其東方即ち北岸の稍〻中央に聳ゆるものを鳳千山と稱せらる、鳳千山は一に鳳頭山といふ、其山麓に高麗河陰縣の故地あり、此は亦新羅の時に在りて海口縣を置かれし所なりとす、別立、鳳千二山の高標は前者一千三百三十一呎、後者九百四十六呎なるを示さる。

本島の山岳は此の如くにして高峻なるもの割合に多しと雖も、概ね獨峯にして連嶺を成さす、而も各峯の間は孰れも克く開展せる沃野なれは到る所として耕地ならさるはなく、本道中屈指の農業地として揭くることを得へきなり、今試みに其民有に屬する耕地の結數を査すれは畑八百七十結餘、水田二千二百三十五結餘なるを見る、而して畑の一結は内地反別として大凡二町八步、水田の一結は一町七段三畝三步許なれは畑は大約一千六百四十餘町步、水田は三千八百七十町步に相當せり、而も本島には官有地多し、故に其總反別は少なくとも六千町步以上に達するならん。

江華邑は高麗、穴口二山の東方なる低丘間に位して周圍に石城を環らし、城内に

戸口

區劃

は往時の離宮及其他官廨たりし建築の大なるもの少なからす、市街も亦克く發達して甚た殷賑なり、場市を毎陰暦二、七の日に開設し、一市の集散平均二千一百餘圓に上ると云ふ、現在の官衙には郡衙の外に警察署、郵便局等あり。

高麗高宗遷都の地は邑の南方に接續せる丘陵地なり、當時宮殿を置かれし地は今之れを明かにせすと雖も城の東南方亭子山の附近に於て厦屋の遺址、墻礎、瓦甓等隴畝の間に縱横せるものは蓋し其廢址なりと傳へらる。

島内戸口は七千一百五十餘戸、二萬四千一百八十餘人にして、屬島の戸口は總て一千三百三十餘戸、四千五百八十餘人なり、而して此二者の合計八千四百九十餘戸、二萬八千七百六十餘人は卽ち是れ全郡の戸口なりとす。

島内の自治區に十七面あり、而して諸他の屬島は別に面を組織せす、各獨立して一區を成し、里長一人を選任して島の主宰たらしむ、各面及自治區を成せる諸島を列記すれは則ち府内面、松亭面、長嶺面、仙源面、佛恩面、吉祥面（屬嶼に項山嶼あり）、下道面、上道面、位良面、仁政面、内可面、外可面、河陰面、艮岾面、西寺面、北寺面、三海面及東檢島、信島、矢島、茅島、長峯島（飛加之嶼、東曼嶼、西曼嶼等是れに屬す）注文島（水時嶼これに屬す）、煤音島（魚游井嶼、竹嶼これに屬す）、彌法島、西

松亭

申城洞

檢島（蕨嶼これに屬す）阿岾島、叀音島、米叱島等是れなりとす、臨海面及諸島の概況左の如し。

松亭面

西方三海面に、南方府内面に、東方長嶺面に接し、北方漢江、臨津共同河口に沿ふて豐德郡の東面、郡南面と相對す、面の地は概ね平地にして沿岸に松亭、崇雷洞、申城洞等の部落あり▲松亭（ソンチヨン）は崇陵浦川の開口に位する一小部落なり、總戸二十五戸、中に漁家二戸、十人にして漁船二隻、麻網二機を有し、春季外海に出てて石首魚漁業に從事す、其一漁期中に於ける漁獲高は大約一千六百圓なりと云ふ、本浦より邑城に至る一里許なり▲申城洞（シンソントン）は松亭の東南少許にあり、總戸六十七戸中漁戸は一戸に過きす、然れとも漁船二隻漁網二機を有して春夏秋共に白鰕漁に從事し一年の漁獲八百餘圓に上ると云ふ。

長嶺面　仙源面

二面は共に東岸一部の地にして、長嶺面の北方を松亭面とし、仙源面の南方を佛

月串洞
甲串洞

恩面とす、長嶺面の北西方及仙源面の西方には丘陵起伏すれとも其他は平地にして耕地廣し、長嶺仙源二面界に東●洛●川●と名くる一小川あり、本川は穴口山の東麓に發して邑城の南を通過し來るものなり、其流域は甚た短小なれとも、邑城以東河口に至る二十餘町の間は、渾て平坦地にして河底の勾配も又頗る緩なり、故に昇潮時には海水遠く溯上して徒渉すること能はす、二面の沿岸には部落少し、長嶺面の沿岸には高●城●洞●月●串●洞●甲串洞等あり▲**月串洞**(월관동)は往時關防の要地にして鎮を置かれし處なり、東側江岸の外城は此地の北方に起點して南方なる草芝にまて至れるなり、而して其延長距離は大凡五里に及ふへし▲**甲串洞**(갑관동)は古の甲●比●古●次●なり、通津郡文珠山城内に於ける城内里との交通點にして、往時は鎮海關を有し、要害甚た嚴重なりき、而して其崖下には漢江を通し、東方に文珠山城を望みて亦近畿佳麗の一勝地なりとす、邑城に至る一里許にして大道を通し且つ平坦なり、仙源面には江瀕に部落を見す、又た二面共に漁を以て業とするものあらす。

佛恩面

北方は仙源面にして南方は吉祥面なり、北方仙源面界には大●青●浦●川●あり、本川は鎮江山の北麓に發源するものにして流域割合に長く、其流域には平地廣衍す、但し此平地の主要部は仁政、仙源の二面に屬し、本面に屬するは廣からす、江岸には苧●城●廣●城、德●津●等の部落あり、孰れも江華の要塞にして往時に在りては重要の一地たりき▲**廣城**(광성)は突角に位して東側は險崖を爲し江は此に來りて屈折すること甚たし、故に激流岸に衝突して沸くか如く奔湍の狀恰も豪雨に際して大水の峽谷を落下するに似たるものあり、されは素より溯航すること能はすと雖も、流れに乘して來るものも亦其流勢盛んなる時に於て、此を通過するは極めて危險なり、是れ漢江航路中の最難所として名ある所以とす、然れとも突角の北西側は稍〻小凹入を成して此に數隻の小舟を置くへきの餘地あり、故に通船時々懸りて潮候を待つことあり、此邊江の形勢此の如く險なりと雖も此地も亦甲串洞と等しく對岸大陸との連絡地點たるか故に往時は要塞廣城堡の外に廣城關を設置せられ、天險と相待つて甚た要害の地たりしなり、されと今や人家は多からす、總戶二十四戶を算するのみ、農業の外に渡船を業とするもの酒幕を營むものありて漁戶も亦一戶あり、而し

て其漁獲物は鰒を主とす、但し之れを漁するには紬網を使用すと云ふ▲**德津**(덕진)は往年鎭を置きし地にして廣城の北方十八町許に位し、總戶五十戶に達して江岸の一盛區なりとす、而して此地にも亦漁を爲すもの一戶あり。

吉祥面

江華島南西端の地にして北境は佛恩面、西境は位良、上道、下道の三面なり、本面の南端には吉祥山峙ちて其北方に鼎足山連なる、然れとも其他は低丘又は平地にして耕地多し、本面の北境附近には屈串浦川あり、西方下道面界には船頭浦川あり、船頭浦川の開口は吉祥、摩尼二山の間に於ける深入灣にして江華唯一の大灣なり、然れとも灣は水淺く平潮時にありては海底露出して狹湾を存するのみ、灣奥には砂濱あり、而して其背後には泥澤を造り、砂濱は以て自然の堤防を爲せり、此泥澤は面積稍廣し、埋築して畑と爲すことを得へし、本面沿岸部落の主要なるものに壯興(장흥)、草芝、船頭浦等あり▲**壯興**(장흥)は草芝と共に東岸に位し總戶一百五戶の大部落なると同時に漁戶十二戶、七十餘人を有して亦島內有數の漁村を成せり、而して漁船は

五隻、漁網は廡網二機、絲網五機、紬網三機あり、各種の漁業行はると雖も就中主要漁獲物は春季に石首魚、夏季に鰆、秋季に鰒等なり、但し鰆鰒は近海を漁場とすれとも石首魚は遠く延平地方に出漁するものとす、▲**草芝**(초지)は壯興の東南江岸に在り、此も亦往時は江華著名の重鎭たりしなり、而して其總戶は今仍ほ一百六十餘戶を算し、壯興と竝ひ沿岸主要の大部落を成せり、附近には耕地多し、住民は素より農を主とすれとも漁も亦稍盛んにして漁戶十戶、三十餘人、漁船四隻、廡網一機、絲網三機あり、部落の東南には險角南向に突出し、島岸は茲に西南向に轉せり、故に江は俄然開展して洋々たる大海を成すに至る、されと此突角の南東には暗礁横はりて水路狹し、此は卽ち漢江航路中最難所として著名なる所謂草芝の難關なりとす、但し突角には陸標あり、本浦より北方邑に至る三里にして德津に至る一里半なり▲**船頭浦**(선두포)は吉祥山の南麓より鼎足山の南麓に散在する部落の總稱にして其總戶は一百七十餘戶に上るへし、中に漁戶二十六戶、一百二十口あり、而して其點綴するは吉祥山の南麓なりとす、蓋し此一帶山地にして耕地を見す、是れ自ら漁業の發達せし所以なるへし、漁船十九隻、廡網十三機、絲網五機、紬網一機を有して各種の漁業

行はれ、石首魚、鰌、白蝦等の漁獲稍、多し。

下道面

下道面は江華島南西端の地にして摩尼山の蟠屈地域一帯是れなりとす、故に其全域は悉く山地に係りて平地を有せず、部落は摩尼山の北側に上坊洞、文山洞、東側に德浦洞、沙器洞、南側に東幕、興旺洞、如此洞、長串洞、西北側に仙水、內洞あり、而して此等部落中戶口多數なるは如此洞の九十戶、四百餘人、興旺の八十九戶、三百四十餘人、長串の七十三戶、三百二十餘人等なりとす、孰れも二、三戶乃至四、五戶の漁戶を有し、石首魚中船其他の漁業行はると雖も盛んなるに至らず、吉祥山の南東側より東西の南側一帶には泥堆廣かりて遠く長峯島附近にまて亙る、故に滿潮時にあらされは小舟も尙ほ且つ著岸すること能はす、然れとも西側なる內洞、仙水に在りては何時にても著舟の便を有して且つ大抵の船假泊することを得へきなり、但し此方面は所謂妹音水道にして其潮流は漲落時共に甚た急激なれは注意を拂ふの要あるへし、本面の西角は卽ち島の西南角にして延長稍、著しく

妹音の屬島魚游井島と相對して水道の南口を扼せり、海圖に之れを長串と記す、蓋し長串洞の屬地なるに依りて名けられしものならん、此に往時江華要塞の一たりし砲臺の廢址を見る、長串洞は其南方に於ける凹入部に在り、此地も亦往年萬戶長串鎭を設置せられし地にして四近の砲臺は其所管たりしなり、興旺洞は摩尼山高頂の南麓に位する部落にして前面には幾分の開展地あり、本洞には高麗遷都當時の離宮ありと傳ふれとも今は分明ならす。

上道面

本面は摩尼山と鎭江山との間に於ける開展地にして其全域は悉く平坦なり、部落に造山、場下洞、場頭洞、松岡洞、陵內洞、霞逸洞あり、と雖も多くは農村にして漁業者は松岡洞の一分地及霞逸洞に於て二、三之れを見るのみ、但し松岡洞の分地と稱するは下道面の內村と相連續する沙濱の北方に於ける部落にして、霞逸洞は鎭江山の西麓に位する一小部落なり、何れも著舟容易なりと雖も繫船に便ならす、然れとも附近耕地廣きか故に移住根據地を經營するの一適地なるへし。

位良面

本面は鎮江山と穴口山との中間に位する西岸の地にして割合に廣き開展地あり、本面沿岸の主要部落を記すれは乾坪及井浦なるへし▲**乾坪**（カンピョン）は沿岸の稍〻中央に位する部落にして其西方には小丘海岸に峙つ、卽ち之れを本浦の目標と爲す、其總戶は一百五十戶を算すれとも鎮江山の北西側に點々散在せる分地の戶數もこれに含めるものとす、住民は皆農家なり、然れとも中に白鍛の漁獲に從事するもの四戶あり、本方の西方に峙てる小丘の南側は東北に向つて多少の灣入を爲せり、此に繫船することを得へしと雖も諸風ともに避くるに足らす、本浦も亦移住根據地經營の一適地ならんか▲**井浦**（チョンポ）は本面の北境卽ち望山の南麓に位して南面せる部落なり、而して其西方には望山の餘勢延ひて稍〻南方に斗出し、猶は其西南一帶は妹音島の南東端にありて保障せらるるあり、故に繫船稍〻良好にして本島中主要の一港に數ふへし、本浦は江華、妹音二島の連絡地點にして津名を井浦津と稱す、兩地の間は十七、八町に過きすと雖も潮流盛んなるときは渉ること能はす、本浦の

總戶は六十餘戶にして漁戶七戶あり、而して其漁獲物の主なるものは白魚、鮸等なりとす。

內可面　外可面

二面は望山の北方別立山の南方に位し、而して高麗山は殆んと二面の中央に亙る、卽ち穴口山及望山の北側と高麗山との間は內可面にして、高麗山及別立山との間は外可面なり、二面を連絡する平地は島の平地中最も主要のものにして島の東北岸にまて亙れり、而して東北岸に於て此平地に位置するは三海、松亭の二面なりとす、二面の地勢此の如くなれは自ら農業盛んにして部落の海岸に位置するもの少なく、漁に從事するものも亦甚た稀なり、各部落中多少海產に利するは內可面の黃淸浦外可面の望月洞なりと雖も二洞共に漁戶僅に二戶あるのみにして而も唯た白鍛、石首魚等少許を漁獲するに過きさるなり。

艮岾面　西寺面　北寺面　三海面

長坪面の地は外可面の北方なる別立山の蟠屈地域にして、西寺及北寺の二面は北岸一帶の地域なり、三海面は北方北寺面に接し、東南方松亭面に、南方府内面に交はりて其臨海區域は甚た廣からず、然れとも本面の地は概ね平地にして農産豊かなり、西寺及北寺二面の地は丘陵起伏すれとも耕地割合に多くして是れ亦農業盛んなり、此等諸面に屬する部落中沿海に位せる主要なるものは西寺面の寅火洞、北寺面の三省洞、鐵串洞、浦村、三海面の堂山洞等にして長坪面には之れを見す▲寅火洞(인화동)は別立山の北麓に位する部落にして往時は寅火堡を設置せられ北側西端第一の關門として甚た重要の一地たりしなり、即ち島の西北角に當りて寅火串と名けられ喬桐島の虎頭串と相對して岬端には要塞砲臺の廢址あり、此所は喬桐島又は延平海州に到る渡津にして津名を寅火津と稱し古來甚た著名なりき、今尚ほ此に船を傭ふことを得へきなり、住民には農業の外に船乘を業とするものあれとも漁事は盛んならす而して此地より邑に至る三里以上に上るへし▲鐵串洞(철곶동)は島の北角に位して恰も豊德郡の黃江浦と相對し、相距る遠からす、此も亦渡津にして古來鐵串津の名あり、而して往時に在りては寅火堡と等しく北門の重防

にして鐵串堡を置かれしなり、島の最北を示せる一角即ち鐵串には今に尙ほ堡壘の廢址を存せり、住民中船乘を業とするものあり、漁を爲すものあり、此地より邑に到る三里餘にして寅火洞に到る二里餘なり、▲浦村(포촌)は一に山伊浦と稱せらる、鐵串の東方半里許に在りて其南方に一小川の注くものあり、開口小灣を成して此に小舟を置くことを得へし、戶口は二百二十五戶、一千三百五十餘口に及ひて一市街を形成し、沿岸第一の大部落たり、隨て各種の商業を爲すものありて一般の狀態稍〻複雜なるを見る、此地從來島內第一の盛漁地として傳へらるると雖も漁を主とするものは甚た少なく、魚商即ち出買船を業とするもの多し、又船乘を業とするものあり、▲堂山(당산)は浦村の南方半里に在り、此も亦往時は要塞昇天堡を置かれし地にして京城地方に至る渡津なりとす、故に一に昇天津の名あり、住民の多數は農家なれとも漁を爲すもの二、三戶あり、然れとも其漁事は只た前岸に於て白鰕を捕ふるに過きさるなり。

江華全岸の概勢此の如くにして漁事に至りては殆んと見るへきものあらす、然れとも、近岸鰡、鰕、鮸等の產少なからす、特に西岸妹音島の水道は白鰕を饒產し、南岸

なる泥堆には竹螬、螬、章魚等を多産するあり、而も土地は肥沃にして農産豊かに、氣候は温和にして健康に宜し、されは半漁、半農を目的とする移住漁村を經營せんとするものは復た以て一巡するの價値なきにあらさるへし、本島の物産として古來掲けらるるものを見るに食鹽、鮸、鰡、石首魚、鱚、白鰕、蛤、竹螬、螬、牡蠣、章魚、螺、蟹等あり、螬の如きは南岸の泥堆を撰みて養殖を計畫するも亦見込なきにあらさるへし。

諸島

東檢島(동검도)江華島の南東角に浮へる一島にして吉祥山の餘勢海に入り隆起せるもの是れなり、島頂は四百三十九呎にして島の突出部は悉く嶮崖を爲し島内に平坦地を見す、然れとも全島人家七十七戸を數へ漁戸は十九戸、六十餘人と稱すれとも其他のものも亦海産に利して衣食するもの多きは勿論なり、漁船十九隻、麻網六機、絲網十三機を有するの外に鮸魚帳一座あり、各種の漁業に從事すれとも石首魚中船、鰕醢船、鮃流等主要なり、本島の南東、富平郡に屬する細於島間の水道は鮃の漁場として著名なり、魚帳は卽ち此水道に向つて張下するものとす、本島は往

年江華廳所管の羊牧場たりき、島民中今仍は羊を飼ふものあり。

信島(신도)**矢島**(시도)**茅島**(모도)三島は江華摩尼山の東南麓發池串を距る南方約三浬に相接近して浮ひ、信島は東方に、矢島は其西に、茅島は更に其西に在り、三島は相接近せるのみならす干出沙泥堆を以て相連絡せるか故に干潮時に在りては恰も一島の如き觀を呈し、各島間互に徒渉して往來することを得へきなり、三島中大なるは信島にして周囘約八浬あり、これに次けるは矢島にして其周囘五浬許、茅島最も小にして其周囘は二浬に過きさるなり、各島共に島頂は甚た高からさるも小島なるか故に平坦地を形成するに至らす、就中稍、廣き地盤を成せるは信島東側の灣奥に於て之れを見るのみ、島頂高きは信島の南西部に位せるものにして其高標は五百八十二呎なり、各島に於ける戸口及漁戸、漁船、漁網等之れを郡の報告に見るに左の如きものあり。

島名	總戸口		漁戸		漁船		漁網	
	戸數	人口	戸數	人口	麻網	葛網		
信島	二二五	四二〇	二二	四五	二	五	二	六

矢島	一二四	三四二	三	二	〇
茅島	六五	二四七	四六	二三	三九
計	三〇四	一、〇〇九	二五〇	六九	三六
			四六	二三	二
			七	一	二

各島の漁戸と稱するは前示の如く小數なりと雖も此等は皆漁船を所有する所謂親方なるものにして島民の大多數は或は從業者として、或は漁獲物の處理販賣に從事して衣食し、孰れも純然たる漁村を成せり、三島の東には永宗島、南方には三木、龍游の二島浮び、西方には長峰島横はる、長峰島及其屬嶼と龍游島との間は海圖に所謂長峰水道にして三島は實に水道の奥に位すると同時に其四周にも狹水路を環らせり、長峰水道は本道の概勢に一言したるか如く本道沿海有數の漁場たり、此漁場に於ける主要魚類は鮸、鰳、蘇魚、白鰕等なりと雖も就中多獲せらるるは白鰕にして其盛期には長峰水道たると、三島四周の狹水路たるとを問はず或は十隻、或は二、三十隻の醢船所々に列ひて從漁し甚た盛觀を呈す、長峰水道には内地漁夫の鮫鰐網漁船も亦出漁するものあり、三島は此の如く四邊を諸島に依りて圍繞せらるるか故に風泊安全なり、されは長峰水道に出漁するものは三島中の適所に避泊

するを常とす、是れに依つて自然出買船の寄泊するものも亦多し、長峰水道の潮流及潮候は水路誌に記されてあり曰く「漲潮流ハ北東ニ落潮流ハ西ニ向ヒ其速度ハ共ニ二節半乃至三節ニシテ狹部ハ六節ニ達ス而シテ漲潮流ハ注文島ノ高潮後約三十分持シ憩流スルコト約十分ニシテ落潮流ヲ始メ落潮流ハ同低潮後約十分持續シ憩流スルコト約十分ニシテ漲潮流ヲ始ム」と以て此近海潮流潮候の大體を窺知することを得へきなり、（注文島の高潮時及低潮時等の概勢に掲けたり）

茲に第一輯の補遺として聊か醢船漁船の概要を敍述せん、醢船（영선）の醢は鹽辛を意味す、蓋し本漁船の主なる漁獲物は小鰕若くは小魚にして此等は漁獲するに從ひ傍より之れを醃藏するか故なりとす、其漁船、漁網の構造使用等は第一輯圖解第十圖即ち中船と大差なし、只た其目的とする漁獲物に伴ひて網目の大小を異にするに過きさるなり▲漁船の小なるものは長二丈、幅一丈、深四尺餘にして乘組七、八人、大なるものは長五丈、幅一丈五六尺、深四尺五六寸位にして乘組十五、六人なり▲漁獲物は小鰕を主とすれとも小なる大刀魚、蘇魚其他の雜魚を交ふ、故に漁獲物を甲板上に取り上くれは此等雜魚を撰み去り、小鰕のみを海水にて清洗して豫め

船内に備ふる甕中に容れ鹽を加ふ鹽量は鰕の容量十に對し三の割合なりと云ふ

▲漁期は春秋二季にして春季は陰暦二月より四月まで、秋季は八月より十月まで
を盛期とす▲漁場は滿潮に水深十尋内外にして潮流四節内外の所を撰ふ

長峰島

長峰島（장봉도）は茅島の西方に於て東西に延亙する一島なり、島は東西の長約二里、南北の幅廣き所三十町、狹きは十町に過きすして其周回は約十二浬に及へり、島岸は概ね沙濱又は低崖にして島の南北兩側には距岸約一浬の干出沙泥堆あり、其北側の干出堆は一狹流を隔てて江華南側の泥堆と相對す、島頂の高點は五百十八呎にして島の西方なる南側には多少の耕地あり、人家は島内所々に散在して總戸口一百十九戸、四百六十餘人を算す、往時は曾て萬戸を置かれ又牧馬場に充てられしも今は只た一漁村たるに過ぎさるなり、本島には飛加之嶼、東曼嶼、西曼嶼等の屬嶼あり、島の西方及南方に浮へるものにして海圖に臥牛島、山島、高食、其晩島等と記せるもの即ち是れなり、此等小嶼の近海は長峰水道又は信島、矢島四邊の水道と等しく鰕、鮸等の好漁場にして漁期に入れは中船、艀船等此に從漁するもの絶へす、本島に於て漁戸と稱するは十八戸、八十餘人にして中船、艀船を合せ十八隻あり、猶ほ

魚箭を營むものあり、魚箭は主として南方なる小嶼の附近に設置せらる、附近に飛加之嶼あり、故に飛加箭の名あり。

煤音島

煤音島（미음도）一に妹音島に作る、古の稱仇音島なり、江華島の西方に浮へる大島にして喬桐郡に屬する松家島と連續し、周回約十八浬あり、然れとも本郡に屬する西北より南東に横はる南部の地にして長二里半、幅廣き所二十五町、狹き所十五町に及ふもの是れなり、面積大なるも概ね山地にして北部なる主要平地は喬桐郡の松家島に屬せり、本島に於ける高頂は東南端なる海溟山、其西北なる修道山にして其高標は前者一千六十呎、後者一千三十呎なり、本山脈は江華鎭江山の餘勢に屬し北端なる松家の上主山とは全然別脈なりとす、島岸は概ね陡岸にして周邊には岩礁多く、南部には距岸一浬半の干出泥堆擴延す、屬島に魚游井島、蛇島あり、漁游井は前示の泥堆に位置し、蛇島は島の東側に接して浮ふ、蛇島には竹叢あり、本道稀有と爲す、本島はこれに依りて一に竹嶼といふ。

魚游井島
蛇島

島内部落は北側に七、南側に三あり、然れとも其著名なるは北東側即ち江華島井浦と相對する石浦あるのみ、本浦は江華との連絡地にして其對岸は位良面に屬す

る井浦なり、本浦の戸口は總て六十戸、二百二十餘人といふ、渡津なるを以て一般の生計稍〻複雜なるを見る、而して中に漁を爲すもの三戸あり。

本島に產する主要水產物は白鰕、鮸、鱸なるへし、猶ほ南端なる干出泥堆にては竹蟶、蟶其他の貝類を採取せらると雖も產少なし、白鰕を多產するは島の東方江華島間の海峽にして海圖に所謂妹音水道是れなり、江華其他の地方より來漁するもの多しと雖も島民にして其漁獲に從事するもの少なし、妹音水道の潮流は漲落時共に甚た急激なり、其速度及流向に關して水路誌に記せる所を見るに曰く「漲潮流ハ北方ニ落潮流ハ南方ニ向フ而シテ其速度ハ水道ノ最狹部ニ於テ六節ヲ越ユルコトアルモ其他ニテハ何レモ三節乃至四節ナリ」とあり。

注文島(주문도(チウームントー))煤音島の西方約三浬に在り、島形恰も三角狀を爲して周囘は約七浬なり、北は阿毗島(海圖に稚次島と記す)と相對して其間二鏈に過きす、島岸は概ね沙濱にして周邊には淺堆擴延し、特に其南西側には舌形の干出沙堆南西向に延長すること約四浬なるを見る、島頂は四百九十七呎にして島の中央に在り、此嶺は島と共に妹音水道に入る顯著なる目標なりとす、島は面積大ならさるも割合に耕地開かる、然

れとも島內部落は西端と東側とに在りて其戸口は一百九十二戸、七百五十餘人に及ふか故に其農產は以て島民衣食の料とするに足らす、故に船乘を爲すものあり、漁を爲すものあり、生活稍〻多忙なり、郡の報告に依れは全島漁戸と名くるもの二十三戸、七十餘人にして其漁船は僅に三隻に過きさるなり、而して其主要漁獲物は春夏に鱒、白鰕、夏季に鮸、秋冬に牡蠣なりと云ふ、北方阿此島間の水道は岩礁多くして且つ其潮流急激なれは通航危險なりと雖も此は魚帳漁場に適して島民中現に之れを爲すものあり、其主要漁獲物は鮸にして漁利稍〻大なり、島は江華西岸に入るの關門なるか故に往時は海防の一要地として統禦營に屬し、僉使莅みたることあり、又牧馬場に充てられしことあり。

阿此島(아ネ도(アーヂアートー))一に牙島と云ふ、注文島の北に浮へる小島にして海圖に稚次島と記せるもの是れなり、周囘は二浬にして人家は僅に數戸を見るに過きされとも往時の戸口調査に從へは六十戸、二百四十四口と記され島の形體も亦大なるか如く記さる、是れ島治を有する一島に數へらるる所以なるらん、島民は主として海產に依り衣食す。

叀音島

叀音島(폴음도)一に望島と云ふ、阿此島の西方に浮へる一島にして周囘九浬半あり、島の周邊には干出沙堆擴延して其南側のものは約三浬半に及へり、島内耕地ありと雖も戸口八十二戸、三百十四人に達せるか故に其生計は自ら土地に依賴すること能はす、船乘を業とするもの、漁を營むもの等あり、而して漁戸は其數八戸を算すれとも其他のものと雖も海産に利して衣食するは勿論なり、中船、醢船合せて八隻あり、主たる漁獲物は白鰕にして島の東方阿此島間又は西方唜島間の水道は其好漁場たり、島岸には牡蠣を著生すること多し、里人冬季は之れを採る、一年の漁獲高は總て三四千圓に上ると云ふ、京城、開城又は邑城に送りて售賣す、本島に於ける部落は島岸の二箇所に在り、其南方なる部落の前面は西黔島の南側より沙堆擴延し來りて狹水道を通し、此に漁船を泊することを得へし。

唜島

唜島(말셤)叀音島の西に位する周囘三浬許の小島にして海圖に唜黔島(ダウツチヨントー)と記せるもの是れなり、島の東岸小彎入を爲す所は卽ち漁船の泊地なり、其奥に人家五十戸許の部落を見る、耕地ありと雖も島民これに依りて食ふこと能はす、故に海産に利して衣食するもの多しと雖も漁戸と稱するは七戸あるのみ、中船、醢船合せて七隻

西黔島
彌法島

を有し、主として石首魚、鮸、白鰕等を漁獲す、部落の前面なる彎入部には魚帳を設置するあり、鮸、鱸等の漁獲多し、又秋冬の交には島岸に附著せる牡蠣を採取するものあり、斯くて全島一年の漁獲高は總て二千圓以上に上ると云ふ、其販賣地は主として京城、開城等なりとす。

西黔島(셔금도)**彌法島**(미법도)西黔島は煤音島の西角を距る西北方一浬餘に浮へる一島にして一に西檢島といふ、島は沙堆に依りて包圍せられ、特に其南側の沙堆は距岸二浬半に及ひて阿此島の北側との間に狹水路を通するのみ、隨て島の周邊には水準確然たらさる新生地廣かりて島の形體甚た大なるか如き觀あり、故に邑誌を見るに本島の周囘は四十韓里卽ち内地里程四里と記さる、東北側には人家三十戸許あり、彌法島は西黔島の東方一浬餘、松家を距る一浬許、喬桐の南西角を距る二浬に於ける周囘二浬の一小島にして往時は明禮宮の所領たりしなり、島の東側卽ち江華島に面する所に小彎入を爲し其奥に人家十數戸あり、此二島の附近には喬桐に屬する恭島、其他の小嶼又は岩礁浮ひて且つ淺堆も所々に點綴せるあり、故に通船困難を覺ゆれとも、これと同時に自ら魚帳を設置するの適地なきにあらす、

此沿海に産する主要魚類は鰒白鰕にして特に白鰕多く、二島の住民中其漁獲に従事するものあり。

第十六節　喬桐郡

沿革

本と高勾麗の高木根縣なり、新羅景德王今名に改め穴口郡（今の江華郡）の領縣と爲す、高麗これに因る、李朝に至り太祖四年萬戸を置き（鎭名を月串鎭と號したり）知縣事を兼ねしめ、尋て知縣事を縣監に改む、仁祖七年水營を月串鎭の基址に置き、水軍節度使をして府使を兼ねしめき、後ち水營を江華に移されたりしと雖も癸酉水軍節度使兼三道統御使を置かれて、畿海湖三道舟師を管轄せしめ、戰艦を置き、軍器を蓄へ、以て西南の海防に備へらる、丁酉府使を縣監に降し、越へて三年己亥統御使を江華に移す、其後統御使を復し、再ひ江華に移す、相移轉すること數なりしか丙申七月郡と爲し以て今に至れり。

境域

本郡は喬桐島の外に松家島及恭島を領す、而して小嶼に鷹岩嶼あり、但し松家島

と稱するは煤音島の北一半にして今一般に煤音島と呼ふもの是れなり、其北端に一峯あり、主上山と名く、本山は元と喬桐島と連續して其南方煤音島間に一水路を通し漕船は皆此を通過せしと傳ふ、然るに山南の海は山北を通し、同時に喬桐島と分離して煤音島と連續すること現に見るか如し、蓋し大江相集りて排水する衝に位せるの地、這般の現象は現在、將來共に不斷息むときなし、されは今より幾百年の後附近の地形如何に變化すへきかは素より想像の及ふ所にあらさるなり。

本郡を分ちて東西南北の四面及松家の五面と爲す、松家面は則ち松家島にして恭島を併す、他の四面は則ち喬桐島の區劃にして各方位に從ふて名を取る、故に其位置を知ること容易なり。

郡治は喬桐島の南側東方に偏在し、北は華蓋山に據り南は海を控へて松家島と相對す、此地久しく治所たりしのみならす、曾て府使防禦使の莅みし地なるを以て石城を繞らし、往時の公廨其他建築の大なるもの少なからす、而して東門內に建正堂なる扁額を有する一堂あり、里人皆潛邸所と云ふ、蓋し哲宗大王の紀念たり（哲宗未だ世子たるの時避けて此に潛居すること三期、後邸を江華府に移し、己酉六月位に登る、元と茅屋なりしか庚寅の春（明治二十三年）新に此堂を建てしといふ）民家

は南門外に櫛比して稍〻繁なる一區を成せり、毎月陰暦五、十の日場市を開設して市況頗る盛んなり、郡衙の外に巡査駐在所郵遞所等あり、本邑の南端海岸に分離して一部落を成すものあり、これを東津浦と名く、江華島に連絡する渡津なりとす。

喬桐島

喬桐島(교동도)古名を戴雲島と稱す、漢江、臨津江、禮成江の合流に依て抱かるる一大島なり、而して其北岸一帶江の支流を隔てて相對するものを黄海道なる延安、白川の二郡とし、東方遙かに望むものを開城、豊徳とし、近く呼應するものを江華島となす。

廣袤及地勢

島は東西二里半、南北一里二十餘町にして面積は三方里餘、周囲十八里餘に及へり、而して島頂の高きものは南東端に於ける八百四十七呎なり、之れを華蓋山といふ、これに次くは西南端に見る四百二十五呎にして水晶山と名けらる、猶ほ北端に一丘ありと雖も高からす、高地は斯く東、西、北の三箇所に鼎立するのみにして各連續を缺き、中央は一帶に平坦地なり、故に里人此を呼ふに大野の名を以てす、蓋し名實相違はさるものあり、平地此の如く廣きか上に加ふるに地味も亦甚た良好なり、されは耕地克く開け、其概測に從へは田二千六百七十九町歩、畑五百八十町歩に達

喬桐島の部落

して而も猶ほ田となし、畑となし得へき未耕地一千五百餘町歩ありと云ふ。

島内部落は東面は壺串里、上坊里、古邑里、龜山里、西面に龍井里、大雅里、漢城里、喬桐邑、東津浦、南面に北甲里、南甲里、頭山里、東場里、西場里、蘭阜里、末灘里、北面に舞鳳山里、亘串里、仁峴里、巾之岩里、斐串里、禿旨里等あり、而して此等は皆丘陵又は山麓に據る、故に自ら東西北の三箇所に點綴して中央部にはこれを見す、其戸口は各村を通して一千二百八十三戸、五千八百三十餘人に及ふ、而して其大多數は農家なり、商家は四十戸許、漁戸は僅に三十餘戸を算するのみ。

松家島

松家島(송가도)本島は前示したるか如く、今江華所屬の煤音島と連續するものなり、而して其北端なる八百四十七呎の高地は卽ち主上山にして古に於ける喬桐島の南端なりとす、其南麓は所謂新生地にして此も亦耕地克く開かれ農業の盛地なり、煤音島に於ける耕地概測表に從へは水田六百九十餘町歩、畑三百餘町歩にして合計二千町歩許なり、而して其大部分は新生地にあり、故に此耕地反別の多部分は松家に屬するものと見て支へなし、部落各所に點々散在すれとも之れを松家洞と總稱す、本島は恭島を併せて松家面を成せり、而して其戸口は三百三十八戸、一千三

百七十六人を計上せらる、恭島は松家島の西北端に浮へる一小島にして人家數戸を見るのみ、故に松家面に於ける戸口は卽ち松家島の戸口と見て大差なきものとす、住民の多くは農家にして漁戸は極めて小なし。

物産

本郡の物産は米、麥、大豆を主とすること勿論なり、而して其特産物藺席は古來喬桐島の名産として知られ、其製産も少なからさりき、然れとも近頃漸く衰頽を來し産上らさるに至れり、海産物には鯔、鱸、鮸、鰣、鰕、章魚、牡蠣等あり、而して鰕は重に嚢網を以て漁獲し、其産稍〻多し、食鹽も亦多少を産す、但し鹽田開拓に適地多しと雖も全島平地にして燃料に乏しく其業盛んなるに至らす。

附

漢江流域

漢江流域の概況は既に第一輯及本道の概勢に記せし所なれは茲に之れを省略すへし。

水産物

現に本江に於て漁獲せらるる水産物は鱸、鰻、鯰、鮒、鯉、鯔、河豚、目張、いだ、訥魚(ヌンチ)、沙魚(サーチ)、葦(ウイ)

魚(チ)、白魚、鰕、蟹、鼈等にして就中主要なるは鱸、鯉、鯔、訥魚、蟹等なり。

鯉は全流域遍く産すれとも最も多く漁獲せらるるは楊平の下流七里、京城の上流六里、河幅百間許、流域上下一里に亘る間なりとす、其兩岸は高山削壁岩底にして水深く、夏時に於ける好遊地たり、里人は此處を斗迷(ツミ)と名け、又海と稱す、其他鷺梁津附近にも亦多し、鱸は河口附近の外には産少なく、蟹は龍山の南方幸州地方に最も多く、白魚は麻浦より鷺梁津附近に止まるか如く、鯔は龍山附近より下流に多く、訥魚は全流到る處に於て漁獲あり。

漁期

鱸は五月より八月まて、鯉は正月より三月まて、鯔は秋冬、訥魚及葦魚四月より六月まて、蟹は八月半より九月半まて、鼈は七月より九月まて、鰻は七月より八月まて、白魚は十一月より翌年正月まて、河豚、目張は五月より八月まて、鮒は四時、沙魚は九月より十一月まて、鰕は春秋二季を盛漁期とす。

漁具

漁具は延繩最も普通に行はれ、漁網には鯉網、鯔網、沙魚網、訥魚網、葦魚網、曳網等あれとも沙魚網、曳網の外は何れも刺網類にして網目又は大小に相違あるのみ。

漁舟

漁舟には釣舟、繩舟、曳網船あり、釣舟、繩船は共に小形にして帆を用ふるの裝置な

く只た槳擢を以て操縦するのみ、されと曳網船は冬季外海の出漁に使用するか故に構造堅固に、船體も亦大にして總ての裝置、普通の漁船と異ならす。（第一輯解參照圖）

●延繩●は普通のものにして幹繩は大概長百五十尋乃至三百尋許なり、蔦の內皮を以て製す、枝絲は絹絲製、長二尺許にして一尋毎に之れを附す、●蟹繩●は大抵江の兩側に延へ渡す、枝絲は長五、六寸にして、五寸毎に之れを附す、其餌料には鰻の切身を結付す、延へ終りて約三十分許の後ち、一方より漸次引上くる時は、蟹は餌を挾みたるまま揚り來る。

鯉を漁獲する方法

鯉は本江の水產物中最も重要なると同時に其漁業は甚た有名なり、其●漁法●は氷下に網を張下して建切り、後ち水上に穴を穿ちて釣獲するものなれとも之れを漁獲する場合には氷上に多數の人集合し來りて甚た盛觀を呈す、其方法及慣行左の如し。

網は一統の長十尋乃至十五尋、幅一尋の帶形刺網にして上緣に浮子を、下緣に沈子を附す。

之れを氷下に張下するには先つ河岸の一方より他方に向つて氷上に數箇の穴

を穿ち點線を畫くこと上下に二條又此上下に於ける點線の間、縱に同樣穴を穿ちて點線を畫くこと一條、以て工字形を作る、了りて長き竿に繩を結ひ附け、氷下を穴より穴へと送りて茲に氷下には工字形に繩を張り渡さる、然る後ち其繩の各一端に網を結ひ著けて一端を引く時は繩に代りて漁網は氷下に工字形に張下せらる、漁網全く張下せらるるときは、上流に張下せる網の中央部を少しく引揚けて魚道を造り、縱に張下せる網も同樣に爲し置く、斯く準備全く了りたるときは人は（之れを訛れは後に記す慣行）上流に張下せる網の尙ほ上手三、四十間許の所より棒にて氷上を叩き魚を驚かして下流に逐ひ回し、豫て裝置せる建切網中に入らしむ、既に魚圍中に入りたるときは上手の引揚け置きたる網を垂下して魚の逸出を防き、更に又魚を工字形の一側より他の一側に逐ひ込みて工字形の縱に張下せる網の魚道を塞き、漁場を縮小して釣獲に容易ならしむ、此の如くして魚狹き圍中に入りたるときは、其圍中の氷上に穴を穿ちて三●鋒●と稱する釣にて釣獲す。

之れを行ふ慣行は附近各村より頭契（モリゲ）と稱するもの十四、五人と領座（一口に領首（ロンス）ともいふ）一人出てて網主と協議を遂け、領座は何月何日其處に於て鯉網を布設する由を各

村に通告す、而して其網を張下し、又は魚を網中に逐込む等は皆彼等に依りて行はる、之れを釣獲せんとするものは其期日漁場に到り入場料を領首に支拂ひて後ち釣獲に著手す、入場料は普通二錢五厘乃至五錢なり、一漁場に集合し來るもの盛んなるときは一千人の多數に達することあれとも、大概は二、三百人許なりといふ、入場料は領座、頭契の收入にして網主は網の使用料を取らす、唯た其網に罹りたる魚を收得するのみ。

以下前揭各郡の上流に位せる江岸の集散地及漁を營める部落の概況を記せん。

驪州邑(여주읍)京城を距る東南十八里許江の南岸に在り、東江原道の原州邑に九里、西利川邑に四里、又同邑及陽智、龍仁等を經て水原に至る十五里にて皆郵便線路なり、此邊にては本江を驪江と稱す、江岸は彎曲して繫船に便なり、戸數七百八十五、人口三千百三十餘にして內地商人の居住者少なからす、中には農業に從事するものあり、此地は驪州郡の治所にして郡衙の外に警察署、憲兵分遣所、守備隊、郵便所等あり、每陰曆五、十の日に場市を開設す、集散物は牛、米穀、木炭、煙草、綿、木綿、金巾、洋木、魚類、果物、雜貨等にして每一市の集散高一千餘圓に上るへし。

一年中漢江に依りて移入せらるる主要水產物は明太魚一百駄、石首魚、四五十甕、醢鰕百甕許なり、値段は一定ならさるも大概、明太魚一駄二十五圓、石首魚、一甕十四圓內外、醢鰕一甕六、七圓なりといふ。

漁業者六戸、從業者十餘人あり、但し皆農民たり、漁船六隻、延繩二十五、鯉網三十張(一張の長十四尋)を有す、漁獲物は、鯉、鰻、鮯、鮒、訥魚等にして一日の漁獲高二十五貫目乃至六貫目に上るといふ。

此邊江は流水の幅一町半許、水深三尺より二十四尺にして流水緩なり。

梨浦(이포)驪州郡大松面に屬す、驪州邑の下流二里許、江の南岸に在り、江岸は直線にして繫船に便ならす、元とは稍〻繁榮の一區たりしも前年暴徒の爲め七十戸を燒失して、今は百餘戸の部落たり、農業地なれとも商民も少なからす、但し商民は概ね船乘業者なり、材木買入の爲め內地商人も時々來る、曾ては五人定住せしことあり。

船乘を業とするものあれとも漁は行はれす、此邊江の流水は幅一町半許、水深一尋乃至三尋にして水勢緩なり。

杏村(행촌)驪州邑より下流一里餘左岸に於ける十五、六戸許の小村なり、漁業者三

戸ありて延縄漁行はる。

楊平邑

楊平邑(양평읍)元との楊根邑にして京城を距る東南十六里許江の左岸に在り、元とは人家四百餘戸の一小都會たりしも前年暴徒の爲め全邑殆んと火災に罹りて今は百九十餘戸の部落なり、而も其過半は火災後の新築にして皆茅屋たり、然れとも附近農産に富み、江岸に位して交通便なれは商業盛んなり、毎陰暦三、八の日に場市を開設す、一年中江に依りて移入せらるる主要水産物は石首魚、百五十甕、醢鰕四石甕、明太魚五百駄許なり。

牛川

此地は楊平郡の治所にして郡衙の外郵便局、憲兵分遣所等あり。

牛川(우천)楊平郡南中面に屬す、楊平邑の下流六里江の南岸に在り、江瀕彎曲乏しく繋船便ならす、人家僅に六十戸に過きさる小部落なれとも農商民相半はして此地方の一集散地たり、但し商民の多くは船乗を業とすること驪州の梨浦と相似たり、此地にても亦漁業に從事するものあらす、毎一年中江に依りて移入せらるる主要魚類は鹽石首魚、百甕、明太魚五百駄、醢鰕百甕許なり、毎陰暦四、九の日に場市を開設し米、大小豆、綿花、煙草、荏子、布類、紙類、麻布、鞋、明太魚、和布、鹽魚、鹽、陶器其他雜貨の集

散稍、多し。

德沼

德沼(덕소)楊州郡に屬す、龍山を距る東方七里半許、江の北岸に在り、前面は水流急にして繋船に便ならす、此地も亦前年暴徒に依りて、火を放たれ當時總戸百二十戸中、九十二戸を燒失したりといふ、其後回復を計りて今は六十八戸あり、船乗を業とするものあれとも漁は行はれす、然れとも冬季結氷期に至れは附近の里人集り來りて鯉を捕ふること盛んなり。

廣津

廣津(광진)楊州郡に屬す、京城を距ること東南三里江の北岸に在り、京城より廣州及驪州地方に至る渡船場(渡船場を舂といふ)にして戸數百戸に及ひ、船舶の輻湊多しと雖も商業割合に盛んならす、漁を爲すもの三戸ありと雖も孰も農漁兼業者なり、漁船三隻、鯉網六張(一張の長三十尋)沙魚網五十組(一組の長四十尋)の外に延縄及蟹縄等を所有す▲沙魚網は毎年陰暦三月中旬より四月中旬まて、秋季に至れは此網を使用してうなぎを漁獲す▲蟹縄は陰暦八月中旬以後二箇月間夜間に之れを使用す、一夜一人の漁獲高百乃至二百五十に及ふといふ、蟹は百を一貼と稱し、其値段は雌蟹二圓五十錢雄蟹二圓內外なり、▲鯉は主として冬季に漁獲す、尙は其他夏季に鱸、鰻等を捕ふ、鰡

も棲息すれとも之れを漁すへき網を持たす。

此邊江は流水の幅二町許にして水深三尋より最深所十尋に達す。

松波鎭(송파진)廣州郡中坌面に屬す、京城を距る東南三里廣州邑を距る西方一里餘龍山より五里餘江の南岸に位す、舊縱貫大道に沿ふて漢江沿岸中特に重要なる渡津たり、人家一百七十八戸にして農商相半す、毎陰曆五、十の日に場市を開設し一市の集散大凡三千圓に上る、毎一年江に依りて移入せらるる水產物は石首魚生鮮のもの二百同(一同を百束とし一束を十尾とす故に一同は一千尾なり)醢鰕百甕、食鹽六百石許なり。

漁を專業とするものわらされとも里人春季に於て鯉を捕ふ、此邊江は流水の幅三十間許にして水深は三尺より一尋半許なり、流水急なるか故に嚴寒に至るも結氷せさる所あり。

蠶島(누도)京城府に屬す、京城を距る東南一里、江の北岸に在り、戸數八百六十一、人口四千一百七十餘、外に內地人、淸國人も居住す、江岸主要の集散地にして商業甚た盛んなり、特に此地には薪炭商多く、京城市街に需用せる薪炭は鐵道輸送に依るもの外、殆んと此地商家の手を經さるはあらす、移入水產物の主要なるものは石首

魚、明太魚、醢鰕等にして石首魚は生鮮の儘輸送し來り此地にて處理す、其數五百甕許に上るへし、其他明太魚は約五百駄、醢鰕は四百甕許なりといふ。

朝鮮總督府農商工部所屬農事試驗場、憲兵分遣所、巡査駐在所、公立小學校等あり、此地に於ける漁業としては只た蟹延繩を爲すもの五、六人あるのみ、此邊江は流水の幅一町半、水深二尺半より一尋半にして流勢緩なり、然れとも潮汐の影響を受くること漸く大なるか故に干滿に依りて增減あるは勿論なりとす。

新村里(신촌리)京城の南方一里許江の北岸に在り、人家三十戸を有する純漁村にして附近の里人は網の新村里といふ、蓋し周年網漁を爲すを以てなり、漁船十七、八隻、曳網六張、鰮網六張、延繩數十鉢と(釣一萬許あ)ふ)を有す、周年江に於て漁を爲すの外冬季十二月に至れは近海に出漁して翌年四月頃に歸村す、其間の純益は漁船毎一隻一百圓內外なりといふ。

龍山(용산)元とは漢城の龍山坊にして蠶島、麻浦等と著しき軒輊なき江畔の一集散地たりしも、今は京城の一部として一大市街を爲し商業甚た盛んなり、此地は江畔主要の集散地たるのみならす、京釜、京義、京仁、各鐵道の衝點にして目下建設中に

係る京元鐵道も亦此處に基點す、其發展の著しき蓋し偶然ならず、戸口は明治四十三年五月現在内地人二千五百七十戸、八千五百十四人、朝鮮人一萬〇〇〇六戸、四萬三千三十人にして其他に清國人の居留者十五戸、二十九人あり（警察管區による）内地人は舊龍山の外に十數町を隔つる東方に於て新市街を開き、此處に軍司令部、旅團司令部、鐵道管理局、停車場、郵便電信局、東亞電氣瓦斯株式會社等あり、舊龍山には朝鮮總督府所屬印刷局、東亞電氣瓦斯株式會社の發電所等あり、内地人に依りて開かれたる新街は舊龍山卽ち鐵道線路の西側に於て祝町、青葉町、末廣町、京町、東町、元町、老松町、榮町、旭橋町、大島町、櫻町、寶町、川端町、神明町、白濱町、桃山町、新龍山卽ち鐵道線路の東側に於て漢江通り、小松通り、寶町、田川町、水道町、山下町、坂町、柳町、東柳町、瓦町、櫻町、田町等是れなり。

此地には内地人の經營に係る株式會社龍山魚市場の外に㊀魚問屋あり、龍山魚市場の沿革、概況等は第一輯に記したるを以て茲に省くへし、㊁魚問屋は個人經營にして其一日の水揚高は百圓内外なり。

朝鮮人にして漁業に從事するものあらすと雖も内地人には柳川漁業團と、久留米漁業團との團體漁業者あり、彼等所有の漁船は大凡十六隻許にして投網、曳網、立衣烏子網、鰻繩等を使用す、此等漁夫は江に於て從漁するのみならす、時には外海に出漁し、又は其漁船を以て遊漁者の需に應す、故に春夏の候となれは遊漁も亦盛んなり。

附近の漁獲物は、鯉、鱸、河豚、鰻、目張、**いだ**、白魚等にして鯉は二月二十日頃より向ふ四十日間、鱸、河豚は五月より八月まて鰻、目張、**いだ**は六月より八月まて白魚は十一月末より正月中を盛漁期とす、白魚は龍山の特産物にして鷺梁津鐵橋下より麻浦までの間産多し、然れとも嚴冬中の漁業にして結氷期なれは内地漁夫にして其漁獲に從事するものあらす、又近岸には**しゞみがい**を多產す、終日其採取に從事するときは一人克く二、三斗を收獲すといふ、但し此等は婦女の業たり。

麻浦（叶포）京城の西一里許、漢江の北岸に在りて河岸の人家は殆んと舊龍山と連續す、戸數三百四十八、人口一千一百三十餘にして里人は悉く皆商業に從事し、朝鮮人間の一大市場たり、同時に客主營業者の大なるもの少なからす、商船は常に輻湊して甚た般賑を極む、京城間に大道通せるのみならす電車絕えす來往す、故に相互

の往來甚だ便なり。

孔德里

本浦の東方少許電車通路に孔德里在り、蓋し麻浦は其一部に外ならず、孔德里は怪傑大院君の隱居せし所にして復た其遺骸を葬られし所なり（墳墓は近頃坡州郡の大德里に移されたり）附近に朝鮮總督府度支部所屬酒類釀造試驗所あり。

商業盛んなるを以て漁業に從事するもの少なからず、內地人此地に居住して農業に從事するもの少なからす。

楊花鎭

本浦の下流約八町に玄石里あり、其下流五町許に西湖あり、共に江岸著名の集散地にして漁に從事するものあらさるも出買船を業とするもの多く、有名なる冷藏船を派出せるは此等地方のものに係れるなり。（第一輯三四〇—三五六參照）

蚕頭倉

楊花鎭（양화진）西湖の下流、龍山よりは一浬半に在り、漢江主要渡津の一にして渡船場は楊花渡といふ、而して對岸は卽ち金浦郡の楊花渡なり、戶數百四十八、人口六百三十餘あり、分ちて七洞と爲す、其中蚕頭倉と名くる部落は漁民のみにして其戶數二十戶許あり、漁船九隻、鯉魚網十四張（一張の長十四尋）鰡繩十五張、延繩一萬二千釣許を有して周年漁業に從事す、但し冬季に至れは新村里の漁民と等しく近海に出漁す

といふ、而して江に於ての主要漁獲物は鯉、鰡、鰻、鮗、鰕魚等なり。

本浦より下流の集散地及漁村等は既に其沿岸各郡の記事に揭けたるを以て玆に之れを省略すへし。

第七章　黄海道

沿革

三韓に在りては馬韓に、三國に在りては高勾麗に屬せしか後ち新羅に併さる、高麗王氏の統一成りて成宗の十四年境土を十道に分つや關内道に入りしも、後ち改めて五道、兩界と爲すや別に一道を爲して西海道と稱せらる、降て李朝に至り初めて豐海道と呼ひしか太宗の十七年其境域を變更すると同時に茲に始めて今名に改めたり。（但し初めは豐德、海州の諸管を以て一道と爲し、後ち（黄州、海州の所管を併せて一道と爲したり、現時の區域卽ち是れなり）

位置境域

道内今遂安、谷山、新溪、兎山、金川、平山、瑞興、鳳山、黄州、安岳、信川、載寧、殷栗、松禾、長淵、甕津、海州、延安、白川の十九郡に分たる、各郡には郡廳を置き、道廳をして之れを管轄せしむ、郡廳は元との郡邑に、道廳は元との觀察道廳所在地に在り、尚ほ各郡の配置を概示すれは遂安、谷山、新溪、兎山、金川、瑞興、鳳山、黄州の八郡は京義鐵道線路の東方に、其他の十一郡は西方に在り、而して又鐵道沿線に位置せるは黄州、鳳山、載寧、瑞興、金川、平山の諸郡なりとす。

本道は北緯三十七度四十一分より同三十九度十二分、東經百二十四度三十九分より百二十七度の間に位置す、北方平安南道に、東方咸鏡南道及江原道に、南方の一部京畿道に接し、北より西を過き南に至る大部分は海を環らして一大半島を成す、卽ち其北方は西朝鮮海灣にして、南方は江華灣なり、此二大灣を分界せるものは實に朝鮮半島の極西を示すものにしてこれを長山串と稱す。

廣袤

本道の廣袤は東西最も廣き所約五十里、最狹部約二十三里、南北の最長約五十五里、最短部約十八里にして、極西長山串より、極東卽ち平安、咸鏡及本道の分界點に至る距離は約五十七里なり、而して其面積は本土約一千一百二方里、屬島大約十四方里、合計一千一百十六方里に及ふ。

地勢

本道の北東平安、咸鏡、江原各道界には高峻なる山岳連亙し、西部には稍〻南偏して東西に走る山脈あり、故に京義鐵道線以東に在りては地勢漸次西方に低下すれとも、其以西卽ち西部に在りては南北西各側面に向つて低下せるを見る、斯くて全道概ね山岳地に係ると雖も河川の沿岸又は海岸に於ては稍〻廣き沃野を成すものあり。

山脈

本道の主要山脈として從來諸書に記さるるは狼林山脈、彦眞山脈、慈悲嶺山脈、滅

惡山脈、九月山脈等是れなり▲狼林山脈は平安道に於ける同山脈の延長にして東部境界線を南北に走り、臨津、禮成兩江の分水嶺を爲し、兎山附近に至りて臨津江に斷たるもの是れなり、本山脈の北部は卽ち本道最高の地方にして其一峯たる百●年山の高標は實に一千三百五十八米突に達せり▲彦眞山脈は大同江南支の南方に在りて略ゝ東西に亙るもの是れなり、本山脈は遂安の北を過ぎ蜒蜿屈曲して西北に走り、大同江岸に至りて遂に平夷す、本山脈中の高峯は谷山の西北に峙ゆる彦眞山にして其高標は一千一百十七米突なり▲慈悲嶺山脈は鳳山及瑞興の北部に連亙するものにして禮成江岸の永德山、瑞興北方の大峴山、其他歸其山、慈悲嶺、鳳山の如鷄嶺、鷹商山等は其連峯なり▲滅惡山脈は平山郡の滅惡山に起りて海州の北方長淵の南方を過ぎ、長山串に至りて黄海に沒するもの是れなり、連峯中名あるものに主之峯、大車路嶺、海州の首陽山、長關の佛陀山等ありと雖も甚た高峻なるものなし、然れとも本山脈は實に本道西部の中軸を爲すものにして水流これに伴へるは素より氣候も亦山北と、山南とに依りて自ら多少の差あるを見る▲九月山脈は般栗の東南に聳ゆる九月山より南走するものを主脈とし、各所に於て分岐せる數

多の支脈あり、而も松禾の墨山、生旺山、博白山又は瓮津の天鷲山の如き、又は其東方なる馬峙山、樹大山の如き、又は康翎北部の破單山の如きは皆主脈又は支脈中の連峯なり。

此の如くにして諸嶺は大概赫禿、樹木を有するもの少きは他道の山と大差を見す。

河川の主要なるものは禮成江、載寧江、黄州江及大同江の南支にして其他小流に白川の玉山浦、延安の羅津浦川、海州の鵲川、長淵の竹江、般栗の大漢川等あり▲禮成江は本道東南の巨川にして京畿道との境を劃するものは其下流なり、遠く遂安及谷山附近の山谷に發源して全長大凡三十九里に達す、されと河幅稍、大を致せるは新溪より下流なり、河口より六、七里の間は潮汐干滿の影響を受け、尚は三、四里の間は舟運に便することを得へきなり、江に沿へる集散地は金川、杆浦、岐灘、廣灘、助浦、下東津、碧瀾渡等にして就中金川、杆浦、助浦、碧瀾渡は其主要地たり然れとも舟運の利に浴する多きは助浦より下流にして、それより上流は水流乏しく、且つ淺灘ありて溯上すること困難なり▲玉山浦川(一口僕橋といふ江とい)は禮成江の一支にして碧瀾渡の上流

少許に於て會合するもの是れなり、本川は流程短小なれとも潮汐の影響を受くること大なれは之れを利用して大抵の帆船約二里の間往來に妨けあらす、江に沿へる主要集散地は漢橋、玉山浦にして白川邑は玉山浦の東北少許に在り、江の上流は白川平地にして農産に富む、然れとも本江は灌漑を利すること割合に少なし▲載寧江は大同江の一支にして鐵島に至りて同江に合するもの是れなり、數多の支流ありと雖も主要なるは西部の中軸滅惡山の北麓に發して西北流する瑞興江及九月山の南麓に發して東北流する九月山江の二條なり、此二支は載寧の北方より相並行して北向流を爲し、砂里院の北西方江東村に至りて遂に相會す、江に沿へる集散地は東支に石灘、三街里、唐灘、海倉、石海、西支に新換浦、煙津、杜門橋等ありと雖も就中主要なるは唐灘、海倉、三街、新換浦なりとす、潮汐の干滿は六、七里の上流に及ほし、上記の部落は孰れも舟運の利に浴すること少なからす、本江流域は所謂載寧江平野にして本道著名の米産地たり▲黄州江は一に赤壁江又は綠沙浦江といふ、彦眞、慈悲兩山脈の間を西向流して黄州の南を過き、兼二浦附近に於て大同江に合するもの是れなり、本川は利用多からすと雖も尚ほ滿潮に乘すれは大抵の船黄州の下

流約一里なる綠沙浦まて溯上することを得へきなり、而して綠沙浦より河口に至る五里半許あり▲大同江南支は平安南道より來るものと、谷山の東南より來るものと二支あり、合流して復た平安南道に入り、西北向に流れて平壤の上流約三里許の地點に於て北支と會合す、本江は就中大流なれとも本道に在りては重に山谷の間を通過するか故に利用割合に多からす、本江の上流谷山附近には本江に依りて形成せらるる宏大なる原野ありと雖も未た利用せらるるに至らす▲其他の諸川は孰れも流程短少なりと雖も潮汐を利用せは少なくとも一、二里を舟行することを得へく、灌漑の利は割合に多からさるも運輸の便に至りては意外に大なるものあり。

本道の主要平地は載寧江及黄州江沿岸一帶にしてこれに次くものは海州の翠野場、延安、白川、長淵、豐川、文化、殷栗、長連、安岳、信川、杭村、興水、瑞興、新幕、南川、杆浦、新溪等各附近に於けるもの是れなり、特に載寧江沿岸一帶は京城以北稀に見る米産地にして其生産多大なると共に品質も亦良好なりとして知らるる所なり、全道の耕地面積は未た精確なる調査を得すと雖も從來の統計に從へは大凡二十二萬九千八

百二十一町歩餘にして內水田六萬七千百六十町歩、畑十六萬二千六百六十一町歩なり尙ほ國有未墾地利用法施行以來明治四十二年十二月末日までに於て許可せられたるもの左の如し。

總面積　一、二七三、六三二町

內譯

地目別		
草生地	九九、九七一二	町
荒蕪地	三五、七八一八	
招澤地	二一、二六一三	
干潟	一、一一六、六一〇九	

更に利用目的に就きて區別すれは左の如し。

目的別		
田畑	一、〇〇五、一四一四	町
漁民宅地	四一、五二二一	
植樹	八、七八二九	
鹽田	七、四九一〇	
畑	一七、一二一〇	
	一九三、五五二八	

本道の海岸線は頗る出入屈曲に富み、且つ前海に散在する屬島嶼も亦少なからさるか故に其延長は比較的大にして陸岸大凡五百浬（鞏成江にては家洞を大同江にては漁隱洞を限りて概測す）島嶼の周回通して約百三十浬、合計六百三十浬に餘る、沿岸の地勢は山岳丘陵海に枕むもの少しとせされとも而も割合に開展して平低地も亦多し、されと海岸附近は大抵卑低にして潟地と限界を分たさるの狀態なれは隨て開墾に堪ゆさるもの多く、宏大無邊の地空しく委棄せられて顧るもののあらす。

海岸線の屈折に富めるに隨て彎入多しと雖も、四邊概ね干潟にして繫船に適せさるのみならす特に著舟に困難なり、此故に津浦は京畿道に於けると等しく彎入の部に見すして却て岬端若くは河畔に在り、彎入の著しきものには海州灣、大東灣、康翎江にして共に南側に位せり海州灣は就中大灣なりと雖も兩岸は殆んと干潟を以て蔽はれ其中央に在りても水深三尋より四、五尋にして深きも八尋を超へす、小汽船又は普通の朝鮮帆船は潮汐を利用して進入することを得れとも、所々に沙堆散在するか故に、水路を熟知するにあらされは航行困難を免かれす、灣內に於ける繫船地を龍塘と稱す、海州邑の南方一里半許にして一小岬端に在り▲大東灣は長

山串の南側に於て西南より東北に向つて深く彎入するもの是れなり、灣は大にして保障あらすと雖も灣内の南北兩側に泊地あり、北側は即ち牧洞の前面にして南側は即ち諸作の前面なり、孰れも低潮時に於て水深四尋を保つか故に大抵の船を容るるを得へく、而も風向に依りて移轉し得るの便あれは避港として恰適地たり、而して長淵邑は牧洞より大凡五里に在り▲康翎江は康翎半島を東側とする深入灣にして海州灣と大東灣との中間に於けるもの是れなり、彎入深くして幅廣からさる上に而も灣口には巡威島其他の諸島横はりて保障するを以て風泊甚た安全なり、特に巡威島の東側と康翎半島間の水道は即ち西岸著名の良港たるルーバー港にして其水深は低潮時に於て尚ほ且つ十二尋あり、灣内に龍湖島と名くる一小島あり、其沿岸は低潮時の水深七、八尋にして小汽船又は普通帆船の好泊地たり、龍湖島より馬山を經て雲津邑に至る九里にして馬山までは四里に過きす▲北側には彎入少なく、これあるも孰れも干潟灣にして潮汐を利用するにあらされは小舟尚ほ且つ進入すること能はす、北側に於ける泊地の重要なるものは漁隱洞、鐵島、兼二浦等なり、皆大同江畔に在り、就中兼二浦は江口の南岸岩角より溯ること三十三

浬、許鎭南浦と相距ること十八浬にして黄州との間に鐵道の連絡あり、而して此等諸港は孰れも三千噸未滿の汽船を繫くに足るものなり、尚ほ此他に大同江外に浮へる席島の南東側にも亦巨船の避泊地あり、又小汽船及小帆船の泊地として著名なるものに夢金浦及古巖浦あり。

岬角の著しきものは長山串にして江華灣と西朝鮮海灣とを限界するもの是れなり、本岬角は前に一言せしか如く本道の最西角たると同時に朝鮮半島の極西を示すものにして本道西部中軸山脈の末端に常る、故に此岬角は海面のみならす、陸地に在りても亦南北兩側の分界點なり、而して仁川、鎭南浦の商業區域も自ら本岬角に依りて劃せられ、漁業の如きも亦此岬角に依りて限らるるの傾きあり、即ち仁川を根據とするものは普通の場合に於て此岬角を北に回るは稀にして鎭南浦を根據とするものも亦超ゑて南に至ること少なし▲其他岬角の名あるものは長山串以北即ち西朝鮮海灣に突出するものにコスイ角（漁隱洞錨地の西方を擁するもののにして岬端に避島浮ふ）岩角（コスイ角の西方に突出するもののにして其岬端に墓島あり）ホンバク角（席島錨地の南東を擁するもの）五柳地埼（長山串の北方に在り）九

串以北即ち西朝鮮海灣に突出するものにコスイ角（漁隱洞錨地の西方を擁するもののにして岬端に避島浮ふ）岩角（コスイ角の西方に突出するもののにして其岬端に墓島あり）ホンバク角（席島錨地の南東を擁するもの）五柳地埼（長山串の北方に在り）九

あり、長山串以南即ち江華灣に斗出するものに登山串（康翎半島の南角にして本道の極南を示すものなり）

屬島

月浦岬（登山串の東北に在り）葛川角（九月浦岬の東南角なり）柳村岬（最東に於けるものにして舊桐島と相對す）あり。

屬島中主要なるものは白翎島、大小青島、昌麟、麒麟、巡威、龍妹、皤鴨、延平、椒島、席島、熊島、青洋等にして白翎以下延平に至る諸島は長山串以南に、椒島以下は同岬以北に在り。

氣象

本道の氣象に關しては未た觀測成蹟を手にせさるを以て之れを詳說することを能はすと雖も其西南部に在りては京城、北部に在りては平壤、鎭南浦等の觀測成蹟に見て略ほ推測することを得へきなり、試みに前記四箇所の觀測に成れる極寒及極暑の氣溫及一年中の雨雪量を取りて比較すれは左の如し。

種別＼地名	鎭南浦（自三十五年至三十七年三箇年間）	平壤（創設以來四十二年迄）	京城（自四十一年至四十二年）	仁川（創設以來四十二年迄）
年々平均氣溫	度（華）九四	九〇	一〇四	一〇六
一月の平均氣溫	(一) 六六	六二	三六	一八
八月の平均氣溫	二四二	二四三	二四〇	二四〇

年々平均雨雪量

	一	七六二耗	一〇六六三耗	九六五五耗

沿岸に於ける潮汐干滿の差は京畿道の如く大ならすと雖も而も大同江に臨める沿岸又は江華灣の沿岸に在りては尙ほ頗る甚たしきものあり、且つ日潮不同なるは西岸共通の狀態なりと雖も特に長山串以北西朝鮮海灣に在りて其甚たしきを致せるものあり、海圖又は水路誌に徵して沿岸各地の潮信表を比較すれは左の如し。

地名	朔望高潮	大潮升	小潮升	小潮差	測量年月
巡威島	五時二五分	一八/四呎	一二/四呎	六/四呎	明治四十年一月
大青島	五時五三分	一三呎	八/四呎	三/四呎	同
月乃島	五時五九分	一三/四呎	九呎	四三/四呎	三十九年十二月
席島錨地	八時〇七分	一八呎	一二/二呎	七/四呎	同
澳隱洞錨地	八時四三分	一九/四呎	一三/四呎	七/四呎	同

潮流

鐵島錨地	九時二三分	二三呎	一五二呎	九四呎	同

沿岸潮流方向速度に關しては朝鮮海水路誌に詳かなり、左に其概要を摘錄せん。

海州灣ニアリテハ漲潮ハ北微西ニ流レ、落潮ハ之ニ反ス、速力三節ナリ。

康翎半島南面ト延平列島トノ中間ニ在リテハ漲潮ハ正東ニ、落潮ハ正面ニ流動シ速力三節四分ノ一ナリ。

巡威島沖ヨリ大東灣沖ニ至ル間ハ漲潮流ハ西及北西ニ向ヒ、落潮流ハ東及南東ニ向フ、速力ハ概シテ三節半ナリ、東方ヨリ來ル潮流ハ飛葉島ニ衝突シテ二派ニ分レ、沿岸ニアリテハ昌麟島ノ外端ヲ過キ麒麟島ヲ狹ンテ島廊蛤沖ニ出テ中洲ノ東側ヲ通過ス、沖合ニアリテハ麒麟洲ノ西側ヲ經テ復二派ニ分レ一ツハ三ツ岩ト中洲トノ中間ヲ、一ハ中洲ノ西側ヲ過キ共ニ合シテ長山串ニ向フ、中洲附近ニテハ漲落兩潮共ニ大青島ノ高低潮後約三時ニ轉流ス。

大青群島ニ於ケル潮流ノ一般方向ハ岸線ニ竝行シ、漲潮流ハ北方ニ落潮ハ南方ニ向フ。

小青島ト大青島トノ間ノ水道ニ於テハ漲潮流ハ北東方ニ、落潮流ハ南西方ニ向ヒ其速度約三節ナリ、而シテ高低潮時ノ後約二時半乃至三時ニシテ轉流ス。

大青島ト白翎島トノ間ノ水道ニ於テハ漲潮流ハ北西方ニ、落潮流ハ南東方ニ向ヒ其速度三節ナリ。

長山串岬角附近ハ漲潮流ハ北方ニ、落潮流ハ南方ニ向ヒ其速度五節乃至七節ナリ。

席島ノ北側及西側ニテハ落潮流ハ二節半ノ速度ヲ以テ西方及南方ニ向ヒ、席島ノ北西角ニ近キ姉妹島ヨリ北方半浬ノ處ニテハ漲潮流ハ二節半ノ速度ヲ以テ約北東ニ向フ。

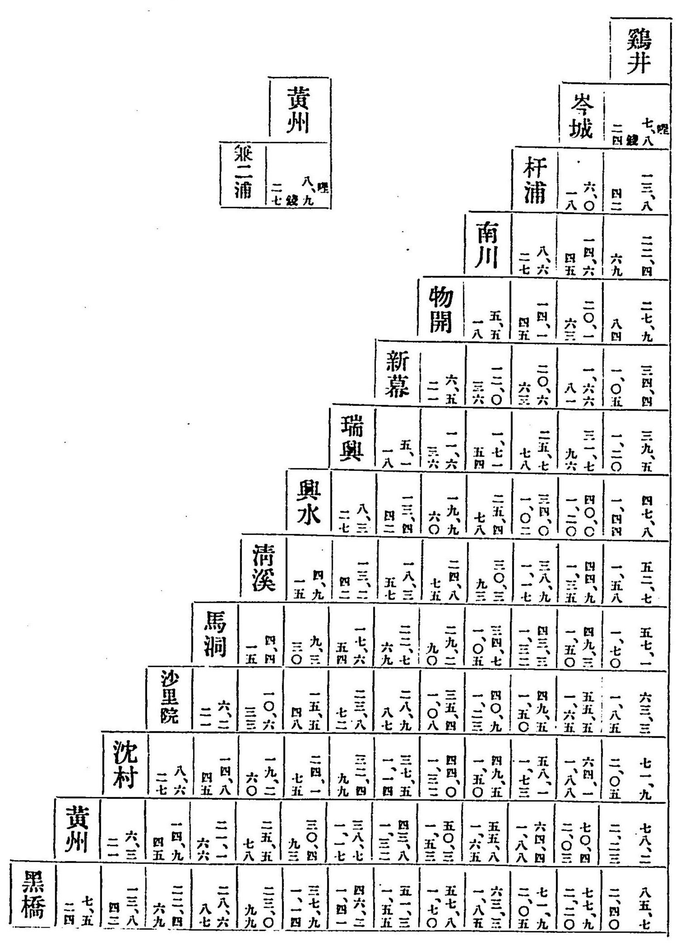
避島水道ニテハ漲潮流ハ二節半ニシテ落潮流ハ四節四分ノ三鐵島錨地ノ北方ニテハ漲潮流ハ三節ニシテ落潮流ハ四節四分ノ三又該地ノ東方ナル平壤江口ノ狹水道ニテハ漲潮流ハ五節落潮流ハ七節ナリ。

京義鐵道は京義街道と相並行して本道の中央を縱貫す、其沿道各驛にして本道に屬するものは鷄井、岑城、杆浦、南川、新幕、瑞興、興水、清溪、馬洞、沙里院、枕村、黄州、里橋等にして總て十三驛なり、鷄井驛は本道の最南に位する一小驛にして金川郡の東面

に屬し、黑橋驛は最北にありて黃州郡の高井面に屬し、相距る八十五哩五十三鎖なり、黑橋の南方なる黃州驛は西方兼二浦線の分岐點にして黃州、兼二浦兩驛の間は八哩九鎖なり、二線の通計は卽ち本道內に於ける鐵道線路の總延長にして實に九十三哩六十二鎖に達せるを見る、各驛より搬出する主要貨物は米、雜穀、薪炭なれとも沙里院附近の各驛は米及雜穀を主とし、新幕附近南部の各驛は雜穀、薪炭を主とする等多少の差なきにあらす、沿道諸驛中內地人の發展著しく且つ最も繁榮なるは砂里院、黃州、新幕の三驛なり▲砂里院驛は鳳山郡砂里院面に屬す、附近の平地は本道第一の米產地たる所謂載寧江沿岸の平野に連り而して驛は西方載寧、信川、安岳、殷栗、諸邑に通する門口たり▲黃州驛は黃州邑の西北方少許に在り、黃州邑は本道中主要の都邑にして往時に在りては海州と相對立せし處なり、附近の平野は雜穀を產すること多く特に甘菜を栽培するに好適地たりと稱せらる、此の地より分岐せる兼二浦線は平南線の開通と共に旅客の往來を絕つに至りしと雖も尙は鐵道用材特に燃料輸送線として利用多し▲新幕驛は瑞興郡禾回面に屬す、附近克く開展して農產に富み、又東方新溪、谷山方面との連絡上甚た重要の地點たり。

道路は京義街道及砂里院より載寧を經て海州に到るものを主要とす、其各郡邑を連絡する道路に在りては幅廣きものなきにあらすと雖も概ね坂路にして且つ廣狹甚た不同なれは車輛を通すること困難なり▲京義街道は京畿道の開城より來り金川、平山、瑞興、興水、鳳山、黃州、等を經て平南の中和を過き大同江を渡りて平壤に連絡せり、而して京義鐵道線路は本道路と並行して開通す、故に沿道の主要地は大概各驛又は其附近に位して其利に浴すること大なり、卽ち前示せし金川は岑城驛の東に、平山は杆浦驛の西に、鳳山は砂里院の東北に在り▲海州街道は道幅廣きこと京義街道に讓らす、特に載寧、海州十三里間は概ね平坦にして輕車尙ほ通することを得へきなり、京城、海州間の連絡は京畿道開城郡の土城より碧瀾渡を渡り、延安を經て至るを便とすれとも道路良好ならす。

各驛間の距離及汽車賃錢並に主要地間の里程等を表示すれは大凡左の如し。



主要地間里程表

地名	里程	地名	里程	地名	里程	地名	里程
白川、土城間	里町 四〇〇	松禾、長淵間	里町 三、〇〇	安岳、鎮南浦間	里町 八〇〇	新渓、瑞興間	里町 八〇〇
白川、開城間	六、〇〇	長淵、信川間	二、〇〇	鳳山、載寧間	七、〇〇	遂安、黄州間	一〇、〇〇
白川、延安間	四、二八	信川、松禾間	八、〇〇	鳳山、沙里院間	一、〇〇	遂安、谷山間	九、〇〇
延安、開城間	八、〇〇	般栗、松禾間	四、〇〇	瑞興、遂安間	九、〇〇	遂安、瑞興間	九、〇〇
延安、海州間	六、〇〇	般栗、長連間	三、〇〇	瑞興、開城間	一五、〇〇	兎山、新渓間	一〇、〇〇
海州、瓮津間	一四、〇〇	般栗、長淵間	七、〇〇	新幕、新渓間	八、一八	兎山、朔寧間	四、〇〇
海州、載寧間	二二、〇〇	載寧、信川間	三、〇〇	新幕、瑞興間	三、〇〇	兎山、開城間	一〇、〇〇
海州、開城間	一七、〇〇	載寧、沙里院間	五、〇〇	新幕、遂安間	一二、〇〇	金川、開城間	五、〇〇
海州、松禾間	一五、〇〇	安岳、長連間	六、〇〇	新渓、谷山間	九、二二	金川、平山間	三、〇〇
海州、信川間	九、〇〇	安岳、般栗間	九、〇〇	新渓、伊川間	八、〇〇	平山、杆浦間	一、〇〇
龍塘、仁川間	里程 七四、〇〇	安岳、沙里院間	七、〇〇	新渓、新幕間	八、一八	平山、開城間	八、〇〇

水路

水路の交通として汽船寄航せるは海州の龍塘、甕津の龍湖、黄州の兼二浦等に過ぎされとも長淵の夢金浦の如き、海州の挹川の如き金川の助浦、白川の漢橋、玉山浦、碧瀾渡、延安の羅津浦、石灘の如き、載寧の海倉、唐灘の如き黄州の新津、安岳の沙岩浦の如き帆船の出入頻々たるものなり、就中龍塘、夢金浦は支那戎克の出入多きを以て稅關監視署を置かれ特に輸出入に關して便宜を與へらる、尚ほ各地の情況に至りては別に其郡に於て記するの所あるへし。

谷山、新溪間	九、三二	谷山、遂安間	九、〇〇	谷山、開城間	三、〇〇	兼二浦、鎭南浦間	一九、〇〇

通信

通信は各要地に機關を置かるるか故に全道大抵の地其便に浴せさるはあらすと雖も陸路郵便線路の延長は尚ほ百餘里にして、鐵道線路に依るものも亦九十三哩餘に止まり、且つ其道路は前示の如く輕車を通するに足るもの殆んとあらさるの狀態なれは、鐵道沿線附近の主要地を除外として他は未た遺憾なきを得さるなり、明治四十三年十一月一日現在郵便局所及電報取扱所等を表示すれは左の如し。

郵便局	郵便所	電信取扱所	郵遞所
海州（郵電話）、黄州（郵電話）、延安（郵電話）、甕津（郵電話）、載寧（郵電話）、沙里院（郵電話）、新溪（郵電話）、安岳（郵電話）、瑞興（郵電話）、谷山（郵電話）、松禾（郵電話）、般栗（郵電話）、平山	兼二浦、龍湖島、新幕、（郵電話）金川、黒橋、遂安	岑城、新幕、興水、白川、兎山、信川、沙里院、黄州、兼二浦、南川、杆浦、鷄井、黒橋	長連、長淵

更に本道各主要地と京城間に於ける郵便物到達日數を表示すれは左の如し。

地名	日數	地名	日數	地名	日數	地名	日數	地名	日數	地名	日數
金川	一日乃至二日	白川	一日	延安	一日乃至二日	海州	二日	甕津	四日乃至五日	龍湖島	四日乃至五日
長淵	三日乃至四日	松禾	三日乃至四日	信川	二日乃至三日	平山	一日	新幕	一日	瑞興	一日
新溪	二日	兎山	三日乃至四日	遂安	二日乃至三日	谷山	三日乃至四日	沙里院	一日	載寧	二日
安岳	二日	長連	二日乃至三日	般栗	三日乃至四日	黄州	一日	兼二浦	一日		

戸口

本道の戸口は明治四十三年五月の調査に於て二十一萬六千四百〇五戸、九十五萬八千八百五十二人（男五〇五、二五〇二、女四五三、六〇〇）を計上せらる、然るに本道の總面積は一千一百十六方里なるか故に其人口を一方里に割當つれは八十六人弱にして甚た稀疎なるを覺ゆるなり、蓋し本道の東部は概ね山地にして部落少く、且つ又人口集團せる大都邑なきに因るものとす、都邑中土著の人口最も多きは黄州の一千五百六十戸、五千七百四十人にして、之れに次くは瑞興の六百十五戸、三千五百四十八人、砂里院の五百十八戸、二千百二人、海州の二百五十二戸、一千三百二十人、新幕の二百四十一戸、九百四十八人等なりとす、然るに内地定住者の戸口多數なるは兼二浦の二百九戸、六百一人、海州の百八十六戸、六百三十八人、新幕の百八十四戸、五百一人、黄州の百二十二戸、三百二十五人、砂里院の七十一戸、二百三十八人等の順序にして土著人のそれと稍、趣を異にするものあり。

本道に於て内地人の集團せるは前示の數箇所にして其他は鐵道各驛又は各郡邑に止まり未た廣く各地に散在するに至らす、明治四十三年五月に於ける現住調査左の如し。

居住内地人戸口表

地名	戸數	人口 男	人口 女	人口 計
海州	一九二	二四〇	二九六	六三六
延安	一九	二四	二四	四八
龍湖島	一〇	二〇	一四	三四
康翎	五	一〇	四	一四
瓮津	四	四	三	七
白川	五	一六	四	二〇
長淵郡	二	三八	二五	六三
松禾郡	三	四五	三三	七八
殷栗郡	二	二七	一九	四六
信川郡	一〇	二二	二二	二三
安岳郡	四三	九三	四三	一三六

載寧郡	六〇	一
瑞興郡瑞興	四三	一〇
同興水院	四	二五
同新幕	二五	三
遂安郡遂安	二一	二九
平山郡邑內面	一七	一七
同金岩面	二三	三
同細上里	一	二八
同積岩面	四	三
同寶山面南川	三三	二
同慈秀洞	二	三六
同幕洞	五	二九
同安城面物開	一八	二六
黃州郡黃州邑	一三九	三六〇
		九
		六四
		一〇
		一一五
		一八
		九
		二
		二九
		一
		一
		二五
		一五
		二〇
		二六二
		八
		四一
		五八
		三三〇
		四七
		二六
		五
		五七
		四
		三
		六二
		四四
		四六
		六二
		一七
		一〇五
		一六八

同枕村	六	八
同兼二浦	二五	三五四
同慕聖面	一	五
同木谷面	一九	三三
鳳山郡沙里院	七五	一四六
同舍人面	二	三
同馬洞	五	一七
同清溪	三	一二
同新院	一五	四三
同邑內	四	八
新溪郡中部面	一五	二五
谷山郡谷山	七	八
金川	一二七	三三五
兎山	二	二
		四
		二六六
		一
		二九
		一一二
		三
		一〇
		八
		二六
		四
		一七
		一〇
		一五九
		一
		一二
		六〇
		六
		六二
		二五七
		六
		二七
		二〇
		六九
		一三
		四二
		一八
		四九〇
		三

教育

合計	一、四三二	二、五五九	一、七二四　四、二八三

教育は久しき以前より基督教徒に依りて施されしに止まり、從前に在りては其他に完全なる機關の設備あらさりき、然れとも統監政治となりて以來頗る其奬勵に力められし結果各所に於て其機關頻々として勃興し、現に存在するもの公立普通學校二、私立普通學校中補助指定に係るもの四、其他の私立學校二百六十九、合計二百七十五校あり、之れを各郡別に表示すれは左の如し。

公立

公立黃州普通學校
公立海州普通學校
補助指定
瑞明普通學校
養元普通學校
景山普通學校
又新普通學校

郡名	校數	郡名	校數
黃州郡	黃州邑	瑞興郡	瑞興邑
海州郡	海州邑	載寧郡	載寧邑
		鳳山郡	砂里院
		長淵郡	長淵邑

私立學校

郡名	校數	郡名	校數
海州	一三	信川	二四
延安	一四	載寧	一七
遂安	一四	安岳	二三
鳳山	一八	平山	九
長淵	三〇	白川	一六
黃州	二〇	殷栗	一八
松禾	二〇	瑞興	合計　二六九
		載寧	五

內地兒童を教育するものは未た多からす、蓋し全道所々に內地人の存在を見ると雖も本道未た其集團地少なきに依る、其所在地校名及就學兒童員數左の如し。

日本人設立學校

位置		四五
兼二浦	兼二浦停車場內	
新幕	新幕尋常小學校	二五

沙里院尋常小學校　二三
黃州尋常小學校　一五
海州尋常小學校　三一

宗教

在來寺院の數は五十八にして僧侶八十一、尼二十二、計一百三を算すと雖も此等は宗教上何等の勢力を有せさること各道共通の狀態なり、然るに内地僧侶も亦未た本道に於て布教に從事せるは甚た稀有に係るか故に朝鮮人にして佛教に歸依するものは殆んと之れを見ること能はす、これに反して基督教の勢力は頗る强大にして全道到る處の部落に教徒を有し、甚た驚くへきものあり、左表は卽ち近時に於ける統計にして之れを見れは各派通計教會堂一百七十五、宣教師十七、傳道師二百四十二、教徒二萬三千三十八（總人口に對する百分の二强に當る）附屬學校七十七、附屬病院二を算し、計數上既に其勢力侮るへからさるものあるを認むるなり、況んや其潜勢力に於てをや、此の如き形勢は各道共に相等しく見る所なりと雖も、特に本道には其傳來古くして教徒の信念も亦甚た鞏固なりと傳へらる、されは將來内地宗教家にして本道に布教せんとせは豫め大なる決心なかるへからさるや勿論なり、各派の概勢

は卽ち左表の如し。

宗派	教會堂	宣教師	傳道師	教徒	附屬學校	附屬病院
米國監理派	四一	一	六二	二、六八五		
天主教	二七	二	二六	二、七六五	六	一
英國古宗聖教	一		一	三四五		
救世軍	二		六	一六三	一	
英國福音教會	一		二	一六	一	
長老派（英、米、濠、加各派を含む）	三		一四六	一七、〇六四	五七	
露國正教派						
合計	七五	一七	二四二	二三、〇三八	七三	一

道内主要地には警察署及警察署の職務を行ふへき憲兵隊を、其他各郡邑又は交通の要地には巡査駐在所及憲兵分遣隊を配置せられて稍周到を致したり、其所在地及管轄區域等左の如し。

警察署位置及管轄區域

警察署	位置	管轄區域	巡査駐在所所在地
海州警察署	海州	海州郡の内、瓮津郡の内	海州郡翠野、禮岐岩、龍塘浦
夢金浦警察署	夢金浦	長淵郡の内、瓮津郡の内	長淵郡阿浪津、白翎、瓮津郡行營
長連警察署	長連	殷栗郡	殷栗郡金山浦
黃州警察署	黃州	黃州郡の内、鳳山郡の内	黃州郡黑橋、齊安、兼二浦、鳳山郡鳳山、舍人關
瑞興警察署	瑞興	瑞興郡の内	瑞興郡、興水院
新溪警察署	新溪	新溪郡の内、兎山郡の内	新溪郡岐灘、兎山郡石頭里
南川警察署	南川	平山郡の内	平山郡鳳川

警察署の職務を行ふへき憲兵分隊位置及管轄區域

名稱	位置	管轄區域
海州	海州	海州郡の内、瓮津郡の内、載寧郡の内
載寧	載寧	載寧郡の内、信川郡安岳郡鳳山郡の内、松禾郡の内
松禾	松禾	松禾郡の内、長淵郡の内、瓮津郡の内

新幕　新幕　瑞興郡の内、平山郡の内、金川郡兎山郡の内
遂安　遂安　遂安郡、谷山郡、瑞興郡の内、新溪郡の内、黃州郡の内
延安　延安　海州郡の内、延安郡白川郡、載寧郡の内、平山郡の内

本道一圓は平壤地方裁判所の管轄する所なり、而して區裁判所は海州、黃州、瑞興、載寧、松禾の各邑に在り、其管轄區域左の如し。

區裁判所　管轄區域

海州	海州、瓮津、延安、白川
黃州	黃州、鳳山
瑞興	瑞興、遂安、谷山、新溪、平山、金川、兎山
載寧	載寧、安岳、信川
松禾	松禾、長淵、殷栗

本道の主要物産は農產、鑛產、水產等にして皆天產物なり、其他製作品なきにあらされとも孰れも幼稚にして而も其產少なし、各種主要產物の概要左の如し。

農產物は米、麥、大豆及其他の雜穀を主とし、特用產物に木綿、煙草等あり、米の產地

鑛産

は前示せし主要地即ち載寧江沿岸、延安、白川、海州、黃州、信川、長淵、豐川、文化、長連等なり、特に載寧沿岸は生産最も多くして且つ品質甚た宜しく世に載寧米と稱せられ鎭南浦其他の市場に於て標準米とせらるるもの是れなり、麥は黃州、鳳山、安岳、載寧、信川地方に、大豆は黃州、瑞興、安岳、載寧、長淵、信川、白川等の地方に產多し、粟は谷山、遂安、新溪等に、稗は谷山、遂安等に稍、多し、此等農產物の產額は未た精查を經すと雖も各種の方法に依りて推算せるものを見るに米は六十五萬七千一百餘石、麥は二十一萬石餘、大豆は二十二萬四千六百石餘なりとす。

鑛產物は甚た豐富にして其種類に金、銀、銅、水銀、砂金、鐵、亞鉛、鉛、石炭、黑鉛等あり、然れとも其採掘盛んなるは鐵鑛のみに止まり、其他のものは產出寡少にして中には未た採掘せられさるものあり、鐵の產地は載寧、殷栗、安岳、信川等にして質良好なり、金鑛は遂安、長淵等に產し、古來其名を知られし所なるも前年來殆んと其產出を見す、砂金は全道到る處に分布し、往時は松禾、白川附近に多產せしと雖も是れ亦今や生產甚た寡少なるに至れり、鳳山郡に產する石炭は褐炭に屬すれとも質良好にして囑望するに足るといふ、鑛產地及鑛種左の如し。

地名	鑛種
新溪郡	銀、銅、鉛、亞鉛鑛
長淵郡	金、銅、鉛鑛
鳳山郡	石炭
瑞興郡	金、銀、亞鉛鑛
信川郡	黑鉛鑛
殷栗郡	鐵鑛
遂安郡	金、水銀鑛、砂金

其他特に產物として擧くるに足らすと雖も本道は木炭を出すこと多大なり、特に最も多く搬出せらるるは新幕驛にして京城市街に於て新幕炭の名あるもの是れなり、又康翎、長淵其他沿岸地方にても根炭（掘根を掘出して製したるもの）を多產し、各地に搬出せらるること頗る盛んなり▲又製作品に敷莫產、朝鮮靴、櫛等あり、敷莫產は茅を用ひて編みたるものにして到る處の農家皆之れを作り其產甚た多大なり、靴、櫛は海州の名產にして京城其他の都邑に輸送せられ特に靴は海州靴の名を附して信用

地名	鑛種
安岳郡	鐵鑛
海州郡	鐵鑛　砂金
載寧郡	銀、鉛、鐵鑛
金川郡	石炭
黃州郡	銅、鐵、亞鉛鑛　石炭
松禾郡	砂金
白川郡	砂金

厚し。

水産　水産物には鯨、海豚、海豹、海鱈、鰛、鰯、鰆、鯛、鯖、鰺、鰈、鮫、鱚、鰕、鰻、鱧、鱚、とびうを、そうだかつを、鱒、黒鯛、金頭魚、玉筋魚、石首魚、大刀魚、海鰻、鱧、河豚、魴鮄、かわはぎ、沙魚、あぶらめ、たなご、ペンデン、こち、まながつを、むつごろ、白魚、章魚、烏賊、蟹、鰕、鮑、海鼠、牡蠣、ころびかき、蛤、貽貝、蝋、海蘿、和布、石花菜、紫菜、みる等ありと雖も未た獵獲又は採捕せられさるものなきにわらず、概要左の如し。

鯨　本道沿海時に其游泳するを見れとも未た獵獲せられしことなく、種類も亦詳らかならす。

海豚　春秋の候時に大群を爲して沿岸或は沖合諸島の間に來游すれとも亦未た獵獲するものわらす。

海豹　海州灣、康翎江、大東灣等に多く游泳す、肥大にして最大なるものは六、七尺に及ふものわり。

海鱈　南海方面に比すれは稍、少きか如しと雖も尚は處處に小群を見ることあり。

鰛　康翎半島以北全岸及諸島に來游す、海州灣には産することなし、春四月頃暖潮の流域擴張するに從ひて北上し、秋十月下旬に至れは南下す、種類はかたくち、にして形體概ね小なり、地引網及筒を以て漁獲す、主要漁場は龍湖島、大小青島、巡威島、麒麟島、魚化島、島廟蛤、白翎島、蒼岩、夢金浦、椒島等なり、漁期は春秋の二季にして春季は五月より六月まて、秋季は八月下旬より十月に至る、又龍湖島の如きは盛夏七、八月の候にても漁獲することあり、漁獲物は主に煮乾鰛に製すれとも、或は鹽辛となし、或は鹽藏して餌料に供するものあり。

鰯　雲津、長淵兩郡の沿岸に來游することあれとも未た漁獲するものなし、大青島にては其幼魚を漁獲するものあり、夏秋の候最も多し。

鯖　全岸到る處に來游す、沖合諸島にも亦甚た多しと雖も潮流急激にして網具を用ふること難し、内地人は時に流網を用ひて漁獲することあれとも未た盛んならす、季節は六月より十月まてにて延平島、大青島、白翎島、近海最も多し。

鯛　沿岸一帶回游を見る之れを漁獲するものは重に内地人なり、朝鮮漁夫にして本漁に從事するものは延平列島附近に少數あるのみ、主要漁場は鷄島、延平列島、

茂島、麒麟島、大小靑島、白翎島、島麻蛤、大東灣、蒼岩、夢金浦、椒島等にして漁期は四月より十一月に至り、特に秋季には長山串、大小靑島、大東灣方面に出漁するもの多し。

鯖　六月より九月に至る間大群を爲して沿海に顯はる、形體頗る大にして一尾の重量三百匁を超ゆるものあり、然れとも未た之れを漁獲するものあらす。

鯵　鯖と同しく暖流に乘して巡威島以北椒島近海に來游す、未た特に之れを漁獲するものなし、唯時に鰛群を追ふて沿岸に來るものを地曳網にて漁獲する事あるのみ、内地漁夫は之れを釣獲することありと雖も未た盛んならす。

鱈　本道沿岸には頗る多し春季釣獲す。

石首魚　本道に於ける水産物の首位を占むるものにして延平灘は卽ち其著名なる漁場なりとす、此處に産するものは七山灘のものに比し形體著しく大にして中船の出漁するもの夥しく其水揚總額は十六萬圓以上に上るへし、大小靑島、白翎島近海にても亦た漁獲す、漁期は五月より十月に至る、此漁業に從事するものは朝鮮漁夫を主とし、内地漁夫は未た多からす、漁獲物は京城附近より來る冷藏船に賣渡し、或は鹽藏して諸方に輸出す。

鮸　全沿岸に産すれとも特に延平灘に多し、漁期は七、八月を最盛とし、十月に至る、漁具は釣網共に行はる、近時内地漁夫の間には鮸罾網を用ゆるものあり、延平灘にて漁獲するものは石首魚と同しく冷藏船により漢江を溯りて龍山、京城に送致せらる、又た加鹽開乾となし、京畿、平安の各地に輸送す。

鮭　本道に饒産する魚類の一にして海州灣、延平灘、島麻蛤、大東灣、夢金浦、椒島を主要漁場とす、漁具は刺網、袋網、箭建干網等を用ふ。

鰈　其種類に**まこかれい、いしかれい、めいたかれい**等あり、四月より十月まて各地にて網漁す、本漁は貯藏に困難なるにより其價甚た廉にして重量二貫目のもの五、六錢に達せさることあり。

鰛　冬季大群をなして沿岸の内灣に來游す、海州灣、龍湖島、島麻蛤、大東灣、古巖浦等は其主要なる漁場なり、特に大東灣に來游する魚群の饒多なること驚くへきものあり、漁具は箭建切網、袋網等を用ふ。

鰕　春夏の候沿岸に來游す、延平島、龍湖島、海州灣、大東灣、椒島等は主要なる産地なり、又た鰛と同しく大同江、載寧江、禮成江等の各江に溯上するもの多し、漁期は夏

秋の候にして朝鮮漁夫は筒巻網、袋網等を用ひ、内地漁夫は延繩を用ひて漁獲す。

鰶　五、六月及九、十月の兩季地曳網及筒にて漁獲す、内地漁夫も亦之れに從事するものあり、體長七、八寸に達して頗る良好なる乾製品を出す、漁場は延平灘、龍湖島、大青島、麒麟島、島廟蛤、白翎島、椒島等なりとす。

鰤　沿岸に沿からすと雖も夢金浦にては冬季必す一回は來游すといふ、魚箭又は地曳網にて漁獲す。

鰆（そうだかつを）　夏季時に濃群を見ることあり、大青島附近にて之れを漁獲す。

鯖（とびうを）　夏季來游すること頗る多く、是れ亦大青島附近にて漁獲するものあり。

鯖（あかふひ）　**あかふい、かすべふい**最も多くして沿岸各地に饒産す、大青島及白翎島にては冬期より春期に至るまて延繩にて盛んに漁獲し、海州灣、延平沿海、大東灣等にては春季筒にて漁獲す、沿岸地方に産するものは生鮮のまま、諸島嶼の産は臟腑を去り乾製品となして販賣す、其産額頗る多く、本道主要の水産物なり。

鰈　椒島近海に多く毎年内地漁夫來りて之れを漁獲す、種類は**しろねづみ、をな**

が、ねこ、やじ、つのじ等なり。

黒鯛　黒鯛　早春他魚に先ちて顯はる、專ら魚箭にて漁獲し、鯛、鱸の時節には延繩にて混獲す、漁場は海州灣、大東灣、延安、康翎沿海等なりとす。

金頭魚　金頭魚　春季來游頗る多し、未た專業として之れを漁獲するものなく、石首魚と共に混漁せらるるのみ。

玉筋魚（イカナゴ）　玉筋魚　龍湖島、大青島、白翎島、椒島、島廟蛤等に饒産し、地曳網又は魚箭にて漁獲す、盛漁期は四月より六月までなり、往時は之れを素乾となして清國船に販賣せしものなるか、今は專ら生鮮の儘内地人に賣渡すことゝなれり、内地人は之れを製して煮乾となす。

大刀魚　大刀魚　本道に饒産する魚類の一にして之れを漁するには釣網共に用ふ。

海鰻及鱧　海鰻及鱧　多少産せさるにあらされとも未た專業として之れを漁獲するものなく、僅かに秋季鯛延繩にて混獲することあるのみ。

河豚　河豚　沿岸各地に産し**とらふぐ、まふぐ、さほふぐ**等の數種あり。

鮫鰐　鮫鰐　春季漁獲せらるるものなきにあらすと雖も其産多からす

かわはぎ　鯊　あぶらめ　たなご　ペンデン　こち　まなかつを　むつごろ　白魚

かわはぎ　春季の候延平灘、大青島、大東灣等に產す。

鯊　沿岸到るところに產すれとも未た之れを漁獲するものなし、但巡威島にては馬尾毛にて釣獲するものありといふ。

あぶらめ　沿岸到る處に產す、特に大青島、白翎島、椒島、長山串近海に多し、朝鮮漁夫は鱣延繩の餌料として之れを漁獲す。

たなご　沿岸內灣に多し、冬季の外は常に魚箭及曳網にて漁獲せらる。

ペンデン　鯆に似て形稍〻小なり、四月より七、八月まて全岸到る處に饒產す、特に海州灣、延平灘、島麻蛤、龍湖島、大東灣、夢金浦及椒島等に多し、袋網、受網及箭等を用ひて盛んに之れを漁獲し、鹽藏して各地に輸送す、本道水產物中の重要なるものなり。

こち　沿岸各地に產し、特に延平灘に多し、春夏の候網獲す。

まながつを　沿岸各地に饒產す袋網にて他魚と共に混獲せらる。

むつごろ　沿岸の干潟地に饒產す、未た之れを漁獲するものなし。

白魚　載寧江、大同江、禮成江等の下流に饒產す、形甚た大にして長さ五、六寸に及ふ、三月中旬より十一月下旬までの間受網を以て盛んに漁獲す。

章魚　烏賊　蟹　鰕　鮑

章魚　沿岸到る處に產す、延平、海州灣、康翎江、瓮津江、大東灣等に多し、種類は重に手長章魚にして體量十匁乃至五、六十匁に達す、落潮時に干潟を徒步して漁獲す、生鮮のまま或は乾製して售賣す。

烏賊　袋網にて漁獲す、長四、五寸許の**みずいか**なり、甲烏賊も亦漁獲することあり。

蟹　沿岸及河川に饒產す、**がざみがに、たうちがに、もがに、つがに**等數種あり、又體長二、三寸にして暗褐色なるものあり、土名を「パンクエー」と稱す、專ら鹽辛に製して賞食す。

鰕　沿岸到る處に產すれとも特に角耳島、海州灣、延平灘及椒島近海に多し、**くるまゑび、しばゑび、あみ**等の數種あり、**くるまゑび**は海州其他の沿岸に於て箭にて漁獲し、**しばゑび**及**あみ**は鹽船にて漁獲す、**あみ**は形甚た大にして內地產に比すれは約二倍に達し、河川の彎入する灣內到る處に饒產す、專ら鹽辛に製して需用甚た廣し、一箇年の漁獲高約五萬圓に上るといふ。

鮑　大小青島、巡威島、飛葉島、白翎島、長山串、椒島及諸島嶼に產す、往時は形大なる

海鼠

ものを饒産したれとも濫獲の爲めに繁殖を害し、現今は僅かに矮小なるもるを殘存するのみ。

海鼠　大小青島、巡威島、飛葉島、麒麟島、昌麟島、島廠蛤、白翎島、蒼岩、夢金浦、椒島等に産す、漁期は四月より八月までにして朝鮮漁夫は裸潜し、内地漁夫は潜水器を使用す、前年までは清國漁夫も來りて曳網を使用したりき、産額は次第に減少し、潜水器船は毎年十四、五隻渡來すれとも收入僅かに相償ふに止るといふ。

牡蠣

牡蠣　沿岸産せさる處なし、特に著名の産地は龍媒島、海州灣、九月浦、甑山、削井浦、巡威島、龍湖島、麒麟島、昌麟島、屹串里、魚化島、島廠蛤、青石洞、白翎島等なりとす、**ながかき、ころびかき**の二種あり、主として沿岸の婦女子之れを採取す。

蛤

蛤　沿岸到る處に饒産す、特に延安、海州、康翎は著名の産地なり、大概殻を剝きて市場に出す。

貽貝

貽貝　巡威島、飛葉島、荒串地、魚化島、麒麟島、大小青島、白翎島、長山串等に産すれとも未た之れを採取するものなし、往時清國人の飛葉島を根據として之れを採取し乾製するものありしといふ。

蜊

蛤と同しく沿岸各地に饒産す、大概殻を剝きて市場に出す。

海蘿

海蘿　大小青島、白翎島、月乃島、長山串、麒麟島、島廠蛤、魚化島、巡威島、荒串地等に産す、特に大青島、小青島及月乃島とを以て主産地となす、産額に於ては、本道に産する海藻中第一位を占む、採取期は十二月より翌年四、五月に及ふ、多くは日本人より前貸を受けて採取す、明治四十一年中の産額は大小青島一萬二千梱、月乃島一萬梱、白翎島三萬四千梱なりしといふ。

和布

和布　殆んと海蘿と産地を同ふす、採取期に至れは夫れ夫れ區劃を定めて採取し、相互に其領域を犯すことなし、内地漁夫は此慣行を知らすして屢〻葛藤を惹起したることあり、其慣行は村落によりて異同あり、或は一村内を限り各自隨意に採取する處あり、或は區劃を制定して採取權を入札に附する處あり、然れとも村民共有の場所最も多し。

石花菜

石花菜　巡威島、麒麟島、昌麟島、荒串池等に産す、是等の地方に住する女子は早春より五月頃まて溫暖なる日海岸に出てて岩石に附著するものを鮑殻にて掻き落し之れを乾製す、製品はあをさを混入すること多く品質劣等なり。

みる　登山串、巡威島又は其他の島嶼に産す、漬物等に使用するか故に販路頗る廣く一叭一圓より二圓位の市價を有す。

本道水産物の概要此の如くにして同時に其漁業の一斑を窺ふことを得へきなり、尚は進んで逼く一般に使用せらるる餌料の大要左の如し。

種類	使用する漁具
章魚	鯛延繩、鯛一本釣、鱸延繩、海鰻延繩、鮭延繩
しやこ	同　上　（但し海濱には使用せず）
鰛	石首石一本釣、小鰶繩、
あぶらめ	鱚繩、鱈繩、鰶繩
ぺんてん	鮭繩、鱚繩、鰌繩、海鰻繩
鰕	鯛繩、鰌繩、黒鯛繩
鰍	鱧繩、海鰻繩、鱧繩、大刀魚繩
大刀魚	大刀魚延繩

海鼠	鯛繩、鱸繩
蟹	鮭繩
海月	鯛繩、鱸繩
鯛	鰶繩
小鰶	鰶繩
雜	あぶらめ繩
鱧	鰶繩

章魚　主要産地は前示の如く延安、海州沿岸、康翎江、龍湖島、雲津江、大東灣、古巖浦、廣岩浦等にて就中龍湖島に於ける産最も多く、毎年内地の通漁船其買入れに來るもの二、三十隻に及び、一回に三百尾乃至五百尾宛購入して去る、甑山、九月浦、大東灣等にも亦た其漁船之れを購入する爲め寄港するものあり、四月下旬より十一月下旬までの間落潮の際海底露出せしとき徒行して穴を探り手釣にて之れを釣獲すも但七月中は親章魚隱れて子章魚のみとなるか故に充分の供給をなすこと能はず、**しやこ**を以て之れを捕ふ、其最も多き期節には之れを食用品として乾製し、十尾を

一串となし、市場に出す、價格は早春及七月頃は最も貴く五、六及九、十の各月は最も廉なり、産額は未た詳かにするを得すと雖も最も大産地たる龍湖島附近にては其數五十萬を超ゆるならん、同地にては口錢を得て餌料賣買の仲介をなすものあり。

しやこ　産地は章魚と同一なり、其産額頗る多しと雖も本邦人は餌料として之れを使用することなし唯龍湖島附近にては内地漁夫來り求むるものある毎に之れを採取するに過きす。

鰛　鰛を餌料となす地方は大小青島、白翎島、島麻蛤、蒼岩等にして主に石首魚一本釣に使用す、此等の地方にありては冬季及早春鰛の未た囘游せさる頃には前年より鹽藏したるものを用ふ。

大刀魚　餌料缺乏の際之れを友餌として大刀魚を釣獲することあれとも甚た稀なり。

蟹　妹音水道附近にて餓繩の餌料に用ふ、漁夫自ら長さ一尋半許の小き叉手網にて之れを採取し、其甲を除きて折半し若くは四分して釣に裝ふ、其新鮮なるもの頗る良好なりといふ。

海月　朝鮮漁夫未た用ふるものなし、唯内地漁夫鯛延繩に用ふることあるのみ、頗る良好なる餌料なりといふ。

鯛　椒島方面に通漁する内地漁夫の艤繩漁船にては自から延繩にて漁獲し、餌料となす、期節は五月より八月頃までなりとす。

小鰤　是れ亦椒島附近に於ける内地漁夫の艤繩漁船にのみ用ふ、餌料としては鯛に比すれは良好なりと雖も其産多からす。

鱚　是れ亦等しく椒島附近に於ける内地漁夫の艤繩船にて六月より九月まて用ふるものなり、**ぺんてん**、鯖、小鯖等にて之れを釣獲す。

あぶらめ　これを餌料とするは主として冬季なり、然るに其季に在りては産なきにあらされとも漁獲すること困難なりといふ、大山青島、白翎島、龍湖島、巡威島、荒串池等にては鷄肉を用ひて之れを釣獲し、鱚及鰐延繩の餌料となす、需用頗る多きか故に從つて其季に入れは鷄の價格も亦大に騰貴し、平時二、三十錢のもの七、八十錢より一圓位となることあり。

ぺんてん　前示せしか如く海州灣、延平灘、島麻蛤、龍湖島、大東灣、夢金浦及椒島等

鰕　鱇　沿革

に多産す、五、六月の候鮸延繩に從事する漁船は其舳に小なる受網を裝置して漁獲する傍より之れを餌料に供す、鰣繩、鱧繩、海鰻繩等には箭、弓船、碇船等にて漁獲したるものを用ふ、其價は一沙鉢(一鉢に二、三十尾を容る)五錢許なり。

▲鰕　漢江、大同江等の河口及淡水の注入する內灣には產せさる處なし、然れとも餌料として之れを用ふるは海州灣、妹音水道、甑山江、苔灘灣、大同江口等に於ける鰣延繩のみ、內地漁夫も時に鯛延繩を用ふることあり。

▲鱇　主として秋冬の候鱧、海鰻の延繩餌料に供せらる、又往往黑鯛延繩にも用ふることあり。

本道に於ける臨海郡に白川、延安、海州、瓮津、長淵、松禾六郡にして大同江の下流に沿ふものに殷栗、安岳、鳳山、黃州の四郡あり、以下進んて各郡の概況を敍述せん。

第一節　白川郡

本と高勾麗の刀臘縣なり、新羅雊澤と改め海皐縣(今の延安郡)の屬縣となす、高麗の統一成りて後ち白州と稱し、又は開興府、忠翊縣、復興郡等となし、或は舊制に復し、或は

38°
126°
黃海道（其二）
京畿道
江華島
白川郡
延安郡
海州灣
列平延
沙梁開
浦山王
串食
里花佳
店街三
渡瀨碧
河家
味坂
浦下
山角
島洲程
島桐喬
桐島
浦山角
浦石白
浦沙梁
村留
院嘉
浦津雁
橋地反
里遠尺
浦新
浦橋小
島山飯
村梅
倉倫
浦塘
島伊鮫
島浦蛤
島林音
島仙灣
島檢西
島望
島次椎
島文注
道水吉林
安延
山鳳鞍
橋川楓
洞法
隅馬渡
李蘭
浦義列
村陽大
隅石
市橋楝
山角鞍
山尾伯
浦瀨石
浦隔院
島山尾
洞倉
洞藏井
村石下
橋舟
浦文
浦武蘇
洞芝泉
橋板
里生長
村法
村南竹小
洞遠
里北子
城南
峴銀
頑鬼
島刻列
島龍巨
島碟龍
島巴陸
島耳角
島點銀
島隅
島石
島雲老
島平延大
島地求
峴地家
島平延小
島梢
（島鴨）
島鴨睦小
島鴨睦大
島茂
島六
峴間在長
峴間加
峴里力味
浦冬
山冠鴨
洲鷗
浦月九
山台林
里山松
里江松
浦芦
翊康
仁齊
浦城路
村味甘
浦井
店浦黃
新甘
倉南
浦津龍
島弟兄
浦泡
浦川平
安石
觀望佛
島鳥
棧扇
浦塘龍
浦月九
1310
1128
782
730
631
565
503
583
322
750
1263
1285
1220
1210
1200
1189
1184
1162
1120
1081
1068
1055
1038
1031
1017
990
970
948
917
885
853
821
789
757
725
693
661
629
597
565
533
501
469
437
405
373
341
309
277
245
213
181
149
117
85
53
21
3½ km

時平（今の平山郡）に屬せしむる等幾變遷を經たり、李朝太宗の十三年始めて今名白川を稱し、郡となして以來引續きて今に至る。

境域　北は平山郡に、西は延安郡に交はり、東は禮成江を以て金川郡及京畿の開城郡と劃し、南は海に瀕して近く江華、喬桐の二島と相望む。

地勢　郡の北東部は總て山岳地なれとも西南部は山岳又は丘陵の間稍、開展せる平地を有し、海邊一帶平低にして尚ほ干潟に連なる故に一望殆んと際涯を見す、然れとも卑濕にして開拓に堪ねさるもの少なからす。

山岳　山岳の著名なるは雉岳山なり、白川邑の北方に聳ゆるものにして山姿雄峻、山上に古城の基址あり、山は四面甚た險なれとも石城の中央は廣くして優に一千戸を容るへきの餘地あり、古城は之れを雉岳城と名く、高麗の時築きしものと傳へらる。

河川　河川に玉山浦川あり、又漢橋江と名く、白川邑の南を通し、東南向に流れて禮成江に入る、其上流白川附近は克く開展して郡内主要の米産地たり、禮成江は本郡の東界を通すれとも其江畔は概ね山地にして耕地は所々溪間に於て僅かに見るのみ。

沿革　沿岸は東禮成江より西角山角に至る、稍、變形を成して干出割合に少なし、前面は

江華、喬桐の二大島に擁せられて殆んと内海の觀ありと雖も此は尚ほ漢江、臨津、禮成三江の共同河口に外ならず、其中央に程洲島と名くる廣大なる干出堆あり。

白川邑

白川邑は京畿道の土城驛より碧瀾渡を經て西北に進むこと四里に位し、西南延安邑に至る四里半強なり、其道路は車輛を通ずること難しと雖も貨物の輸送は玉山浦川に依るの便あり、邑内人口二千有餘にして此外に内地人の居住者明治四十三年五月現在にて五戸、二十人を算したり、住民には各種商業を營むものあり、陰曆毎一、六の日に場市を開設して集散稍〻盛んなり、郡衙の外に憲兵分遣所、郵遞所あり、白川邑の西方十數町山腹に一部落あり、古邑と稱す、疇昔治所たりしを以て此名あり。

場市

場市は邑場の外に柳川面の紅峴場、石山面の撑石場あり、開市は前者五、十の日、後者は三、八の日にして集散物は雜穀、魚鹽、雜貨等なり、就中紅峴場は牛の出市多く、其市況は却て邑場に優れるものあり。

區劃

郡の區劃は上今山、下今山、雲山、金谷、龍海、弓月、如意、角山、紙尺、芝村、石山、花山、道上、道下、西村、東村、柳川、無仇の十九面なり、然れとも上今山、下今山、花山、道上、雲山等の諸面は山地にして重要ならす。

河海に瀕する主要部落

河海に瀕する主要部落を列擧すれは星潮浦、下浦、姑味浦（以上海に瀕す）碧瀾渡、錢浦、龍滄石浦、鉢山浦、下東浦、上東浦（以上禮成江に沿ふ）食峴、玉山浦、漢橋（以上玉山浦に沿ふ）等皆共に繫船することを得へしと雖も就中商船の出入盛んなるは碧瀾渡及玉山浦なり▲碧瀾渡は禮成江を入ること約四哩に在り、本郡有數の繫船地たると同時に郡の西部及延安（海州等の地方と開城地方とを連絡する重要なる渡津にして旅客往來常に絶ねす、然るに此邊潮汐干滿の影響を受くること甚しきか故に張落雨時に激流奔湍して渡るを得さるの難あり▲玉山浦は孤山浦の俗稱なり、玉山浦川の北岸に位して、白川邑を距る東南半里許に在り、郡邑附近一帶に於ける百貨の呑吐口にして米、麥、大豆其他の雜穀を輸出し、魚鹽、雜貨を輸入す、里人の所有船三十石積以上六十石積のもの六、七隻あり▲其他玉山浦の上流なる漢橋にも亦商船の出入稍〻多し食峴は玉山浦の上流南岸に位せる本郡有數の大部落なれとも繫船に便ならさると百貨集散の地域狹きとに依りて商船の出入を見るは只た里人の所有船のみ錢浦は碧瀾渡に比の稍〻上流に位せる本郡渡津の一なれとも旅客甚た小なくして之れを碧瀾渡に比

すへきにあらす、但し此は白川邑より開城に通する捷路に當れり、姑●味●浦●は弓月面に、星●湖●は角山面に屬する沿海の津浦にして稍〻繫船の便あり、特に星湖浦は其西方に一小流を通して此に繫船することを得へく、尚は小舟は潮汐を利して十數町を溯ることを得へきなり、共に船乘を業とするものあり。

此の如く河海に瀕する部落に在りては船乘を業とするもの多く、全郡に於ける船數合計は四十四隻なり、然れとも五十石積以上のものは十數隻にして、他は三十石積以下なりとす、船乘業の發達せるに似す漁に從事するもの甚た少なく、只た夏秋の候に於て鍛弓船を爲すもの三、四隻あるのみ、鍛弓船は碧瀾渡より河口附近又は江華、喬桐間の澪筋にて行はる。

紙尺面の温井里に温泉あり、諸病に適し浴客常に絶ゑす、近頃浴客宿泊所を新築せしものあれとも交通便ならさるか故に未た内地人の至るものなし。

第二節　延安郡

沿革　本と高勾麗の冬音忽、新羅の海皐郡なり、高麗に至りて鹽州と爲し、又は永膺縣、碩州、温州牧等と改めしも忠宣王の時牧より府に降し始めて延安と稱したり、李朝これに因る、後ち都護府と爲し今に至る。

境域　北は平山郡に、東は白川郡に、西は海州郡に接し、南は江華灣に面して西の一部遠く延出し以て東西南の三面海水を環らす。

地勢　郡の北方平山郡は本道西部の中軸山脈連亙して地勢甚た急峻なれとも、南東一帯は丘陵起伏せるの間廣大なる平地を形成して沿岸の干潟に接續す、郡の平地は本道中特に主要なるものなれとも、羅津浦川の下流沿岸の如きは、甚た卑低にして潮水に浸さるる區域も亦頗る宏大なり、卑低地は羅津浦川下流の兩岸及南方に延出せる處、又は羅津浦川の東方なる小流の沿岸等に於けるもの皆大なり、大抵草生地にして其總面積は少なくとも五千町歩を下ることなかるへし。

山岳　山岳の著名なるものは鳳●勢●山●なり、一に飛●鳳●山●といふ、邑の背後に聳ゆるものにしてこれを郡の鎭山と爲す、餘勢南に走りて南海の突出部となる。

河川　河川の稍〻大なるは邑の東方を流るる羅●津●浦●川●一あるのみ、されと其西方なる槻●

川及海州郡の界に於ける石灘江の如きも灌漑、舟運に利すること少なからず。

湖沼　邑の南方三町許に周囘一里に餘れる大池あり、これを南大池と稱す、俗に臥龍池又は大湖といふ、池は廣大なるのみならず荷花を以て著名なり、其西邊には宏大なる卑濕地あり、相當工事を施さは良田と爲すこと容易ならん。

沿岸　沿岸は東角山角より西石灘江口に至る、西部は遠く南に延出して東に喬桐島を抱擁し、西は海州灣の東南角と相待つて一大灣を爲す、海岸線は此延出あるを以て甚た長大なれとも沿岸は悉く干潟に依りて、圍繞せられ、海陸の分界線を知ること能はす、就中干出廣大なるは延出部の岬端にして南方より更に西南に亙りて遂に沙洲と爲り、幅四浬、長十一浬に及ふ、之れを閑樂沙と稱す、沿海の狀況此の如くなれは泊地として適當なるものなく、且つ航海不便を免かれす。

延安邑　延安邑は白川邑を距る西南四里半、海州邑を距る東南十二里、羅津浦を距る北一里飛鳳山の南麓に位す、四圍に石城を繞らして市街稍、殷賑なり、郡衙の外に郵便局、憲兵分隊等あり、人口は大約三千六百許にして內地商人十餘戶、清國商人二戶あり、本邑には東門內に毎陰曆二の日、西門內に同七の日隔番に場市を開設す、集散物は

場市　米穀、魚鹽、雜貨、石油、陶器等にして毎一市の集散高一千圓を下らす。

場市は邑場の外に尙は道隆面に棟橋場、弓上面に濯纓場あり、其開市は前者毎四、九の日後者五、十の日にして集散物は何れも邑場と大差なく集散高も亦稍、多し。

水要主産物　本郡の主要水產物は鰡、石首魚、鱚、章魚、烏賊、蛤、蜊、牡蠣、紫鰕、白鰕、蟹、食鹽等にして就中章魚、蛤、蜊等は沿海の干潟沙洲に饒產す、食鹽の產地は並城面、松淸面、楡倉面にして一年の製產大約八十九萬斤餘に上るといふ。

主要漁村　沿海到る處の部落漁に從事するものありと雖も甑山島を除きては二、三の漁戶を有するのみにして其漁事は甚た盛んならす、然れとも魚帳又は魚箭は所々に於て之れを見る、蓋し地勢に伴へる自然の現象なるへし。

沿海諸面　郡の沿海諸面を列記すれは白川郡界に位せる食峴面に始まり、薪城、蓋峴、金浦、大山、並城、楡倉、米山、逢村、松淸、今岩、道隆、龍川に至る、龍川面は海州郡界に位せるものにして、並城面は遠く南方に延出せる岬端の地なり。

津浦及漁村　津浦の主要なるものは角山津、羅津浦、列義浦、石灘浦等にして、漁村に素砂浦、白石浦、石浦、蘇野浦、大橋浦、佛堂浦、柳村、海村浦、石隅、馬渡浦、院隅浦、甑山浦等あり。

角山津

角山津(각산진)食峴面に屬し、白川郡界に在り、喬桐島に到る二浬にして且つ渡るに便なり、故に同島と大陸との交通は大抵此を經過す、隨て古來著名の一津に數へられ、部落稍、發達せるを見る、突角に位せるを以て前岸干出少なく、漁船を繫留することを得へし、船乘を業とするものあれとも漁事は盛んならす。

羅津浦

羅津浦(라진포)薪城面に屬す、羅津浦川の右岸に位して延安邑に至る一里に過ぎす、羅津浦川は蜿曲甚しく低潮時に在りて殆んと河床を露出するに至ると雖も、潮汐の干滿大なれは滿潮には三、四百石積の船入津することを得へきなり、而して沿岸一帶は本郡主要の農產地たるか故に此處に呑吐する百貨甚た多く、一年の移入大約十五萬圓に上り、移出はこれより遙かに大なりといふ、但し移出品は米、大豆、麥等、移入品は食鹽、生乾鹽魚、海草、紡績絲、繰綿、金巾、絹布、麻布、陶器、石油、金物、紙類等にして就中移入多額に上るを食鹽、紡績絲、金巾等とす、取引先は重に仁川にして穀物出荷期に至れは同地より買出しに來るものあり、此の地概勢此の如くなれは客主其他各種商業を營むものの外船乘を業とするものあれとも漁に從事するものあらす、商船は三十石積以上三百石積のもの九隻あり。

烈義浦

烈義浦(렬의포)今岩面に屬す、西方なる大灣の中央に突出せる岬端に位すれとも沿岸悉く干潟にして繫船便ならす、戶數は六十戶にして漁を爲すもの五戶あり、漁船大小合せて五隻、漁網これに相當するものあり、尙ほ龜山島、甑山島、附近に魚帳又は魚箭、漁場を有す。

石灘浦

石灘浦(석탄포)龍川面に屬す、海州郡との界を劃する石灘川の左岸に位して同郡に屬する青丹驛を距る一里餘に過きす、故に同地方の呑吐口として仁川其他と船舶の往來頻頻たり。

甑山浦

甑山浦(증산포)甑山島に於ける部落なり、甑山島は郡の西方なる大灣口に位せる二小島にして米山面に屬す、其西南側は本道に瀕すれとも其他は總て干潟にして陸岸に接續す、故に滿潮には四邊に海水を環らせとも、干潮時には徒涉して相往來することを得へし、島は猫額大の一小島たるに拘はらす戶口は總て二百十戶九百二十餘人あり、故に自ら船乘及漁業に從事せるもの多くして其船數の如き實に六十五隻に達す、而して船舶の大なるものは大概商船にして小なるものは漁船なり、但し延平灘の石首魚漁業に從事する中船は巨船にして其數四隻あり、島內酒幕多

く人情狡猾なり、壯丁は船乗として多く各地の船舶に傭はれ、女子は蛤、蜊、牡蠣を採取して自家の食用となすの外これを市に上して日用品と交換す、海州邑にて需用せらるる貝類は大抵本島附近の産なり、其蛤の大なるものは穀徑三寸以上に及ふ、本島は往時清國鮮流網船の輻湊するもの三、四十隻に及ひたることありしも今は殆んと其跡を絶ちたり、然れとも食鹽積載の商船にして來泊するもの尙は毎年二十隻を下らすといふ。

尙ほ本郡に屬する諸島にて水産上關係あるは蛤浦島なるへし▲蛤●浦●島は楡倉面に屬し其西南角を距る少許にあり、本島も亦西側水道に瀕すれとも其他は干潟にして陸岸に接續し干潮時には徒渉することを得へきなり、無人の小島なれとも蛤其他の貝類を産すること饒多なり、又魚帳、魚箭の好漁場なり。

第三節　海州郡

沿革

本と高勾麗の內米勿郡なり（一に長池又は池城ともいふ）新羅景德王の時瀑池と改む、高麗太祖

の時治所を現地に移して海州と稱したり。

北は平山、載寧二郡に隣り、東は延安郡に、西は瓮津、長淵、松禾、信川に交はり、南は一大灣入を控へて海に瀕す、屬島少なからすと雖も大小延平、龍妹、大小睡鴨島等なり。

地勢は中軸山脈北方を東西に走るか故に自ら東北部に隆起して南西に低し、郡內到る處に山岳丘陵起伏すれとも平坦地も亦多し、而して其主要なるものを翠野場附近の平地と爲す、東北首陽山脈に限られて、南方海州灣に到る、東西約四里、南北一里許なり、此平地は土地甚た肥沃なれとも灌漑十分ならさるを缺點とす、故に其大半は畑たり、水田は克く溪水を利用し大旱魃にあらされは旱害を蒙ること稀なり。

山岳の主要なるは雲●達●山●、首●陽●山●なり、其他大德山、水踰山、鶴嶺、指南山、望祖山、周呂山等も稍高し、雲達山は東北界に於ける峻峯にして首陽山は海州邑の北方に聳ゆ、共に中軸山脈の一峯たり。

河川は皆細流なれとも小船は潮汐を利用して大抵一里許を溯ることを得へし、

海州邑

沿岸

其主要なるものは泣川浦に、開口する鵲川（一に泣川と云ふ）廣石浦に注ぐ、廣石川、獐浦に注く獐浦川、苔灘場の東を過きて海州灣奥に入る苔灘川（一に廣灘川又は竹川と稱す）松禾郡界の水蹤山に發して大東灣に入る大東河等なり。

沿岸は大灣入を成すか故に其沿岸線は甚た長大なれとも干潟擴延して沙洲これに連續せること延安郡の沿岸と異ならす、特に灣の中央と雖も小沙堆無數に散在せるを以て通航便ならす、津浦少なからすと雖も繫船の適地少なし、就中主要なるものを蘇武、挹川、龍塘等と爲す。

海州邑は海州灣の中央龍塘より約一里半にあり、北に首陽山、南に南山聳ゆ、東西僅かに平地を以て開通するのみなれは要害甚た堅固にして其地勢恰も京城と相似たり、本道の首府にして道廳の外に郡衙、區裁判所、守備隊、警務部、憲兵隊、警察署、郵便局、農工銀行、種苗場、金融組合等あり、戸口は總て二百五十二戸、一千三百十人にして中に內地人百八十六戸、六百三十八人、清國人十戸、十九人あり、土著人は黃州に比して少しと雖も內地人特に其商戸の多數なること全道無比なるのみならす近來月に增加を來して甚た殷賑を極む、氣候は仁川に比して寒氣稍、激烈なるも地勢に

伴ひて强風少なく、是れ亦京城と相近し、飲料水は良好にして且つ多量なり、交通は龍塘と仁川との間に小汽船隔日に來往せるを以て大なる不便あらす、東青丹を經て延安に至る十二里、西馬山を經て甕津に至る十五里之れを郵便線路となす、郵便は海陸の二便ありて、海路便は仁川より月大凡十五回、陸路便は毎日一回の發著あり。

本邑には常設場市あり、其所在は玉洞にして市場名を新市場と稱す、前年まて南門內の通路に雜然開市せしものを明治四十年の頃此に移したりといふ、終日開設すれとも朝夕最も雜閙なり、場は百貨の小賣場なれとも水產物は別に一區を爲して其面積は百坪許あり、鹽乾魚の外に生鮮魚も亦盛んに出市せらる、鮮魚の値段は時季に依りて不同なるは勿論なれとも普通は大概左の如し。

鮮魚

石首魚	大	六十錢
	小	二十錢
大刀魚	大	四十錢
	小	三十錢
鰡	大	五十錢
	小	十五錢
鱸		六十錢
黑鯛		四十錢
鯛		五十錢

鱝	大 小	三十錢	鰈		二十五錢
鮸		五十錢	鯆		二　錢
車鰕	〃	二錢五厘	竹蟶	沙鉢一杯	七錢五厘
蛤	一個	五厘	蜊	沙鉢一杯	七錢五厘
牡蠣	沙鉢一杯	七錢五厘	章魚	十尾	五十錢
鹽乾魚					
乾鮸	一尾	六十錢	乾鱝	一尾	二十錢
乾河豚	一把二十尾	十五錢	乾鱶	一尾	二十錢
乾石首魚	一尾	五錢	乾鰈	一尾	二十五錢
明太魚	一連二十尾	五十錢	乾鯔	一尾	十八錢
鹽鰊	一尾	三錢	鹽鯖	一尾	十錢
鹽大刀魚	大一尾 小一尾	十錢 二錢五厘	糖鰕鹽辛	一杯 小皿	一錢
鹽鯛	一尾	二十五錢	海苔	一束	二十五錢
乾章魚	一尾	二十錢	食鹽	一斗	三十錢

場市

物産

本郡に於ける普通學校は近時頻に勃興して女學校も既に二校を見るに至れり、其組織稍〻完全なるは海州普通學校、私立海州海同學校、雲谷學校、貞明學校、昌明學校、廣明學校、英明學校、懿昌學校、懿貞女學校、申明學校、做惺小學校、鮮明小學校、德成小學校、正同女學校等なり。

場市は邑市の外に花鴨面の青丹場、州內面の東亭場、席洞面の翠野場、松林面の地境場、古壯面の竹川場等あり、開市は青丹場一、六の日、東亭場二の日、翠野場三、八の日及地境場、竹川場等にして就中青丹場、翠野場、竹川場等盛んなり。

物産は普通農産物の外果類に梨、栗、棗、桃、李、杏、榛、楸子、葡萄、菱角、芪、西瓜、▲木材類に松、柏、桑、楡、漆、楮、槐、楓、楊柳、梣、槲、櫟、樗、▲魚貝類に石首魚、蘇魚、鯽魚、鯔、鱝、鮸、魴、鰈、したひらめ大刀魚、鮎、鮒、章魚、烏賊、鰕、蛤、竹蟶、蟶、鰥、牡蠣、蜊等あり。

此等漁獲物は正確なる統計を得ること能はすと雖も元との水産税冊に錄する處に依りて計算を試むれは卽ち左の如し。

鮸	五〇、四八八 箇	五、〇四八、八〇〇〇
白鰕	一、〇八二 壹	二、一六四、〇〇〇〇